
履 修 要 項

大 学 院

2026

佛教大学

在学中保存

『履修要項』（本冊子）は 修了時まで使用します 在学中は必ず保存のこと

在学中、本冊子に掲載する内容に変更が生じた場合は、佛教大学ホームページ『履修要項』にてお知らせします。

学籍について

学籍異動や学費、学生生活に関することは『学生生活ハンドブック』をご確認ください。



学生への 連絡方法

学生の皆さんに周知を要する学修上の連絡事項は、すべてB-netに掲出します。

一旦、掲出したものについてはすべての学生へ連絡したものととして取り扱います。

定期的にB-netを確認し、見落としのないように注意してください。見落としによる不利益は学生自身の責任とします。

※B-netの詳細は、次頁を確認してください。

※一部、学内掲示板でもお知らせします。設置場所は以下の通りです。

●学内掲示板一覧



掲示内容	1号館 北側	1号館 (2階)	6号館 中通路	6号館 東側	7号館 中通路 (北)	7号館 中通路 (南)	各研究室棟 (8・10・11号館、 二条キャンパス 1号館3～6階)	二条キャンパス 1号館(1階) 事務室前	二条キャンパス 1号館(2階)
履修関係	○	○	—	—	—	—	—	○	—
進路・就職	○	○	—	—	—	—	—	—	○
学生生活	○	○	—	—	—	—	—	○	○
大学行事	○	○	—	—	—	—	—	○	○
その他	—	関係領 域ごと に掲示	学生専用	学生専用	書道展示	—	学部・学科の 連絡専用	事務室からの 連絡	学部・学科・事務 室からの連絡

履修に関する問い合わせ

必ず本人が学生支援課カウンター窓口にて問い合わせてください。本人以外からの問い合わせや、本人であっても電話での問い合わせには一切お答えできません。

B-net Portal について

B-net Portalとは(略称:B-net)

大学が発信するお知らせの確認や各種申請の手続きなどを行うことができるポータルサイトです。

B-netにはWeb版とスマートフォンアプリ版(UNIPA)があります。

ログイン方法について

1. 以下のとおり B-net にアクセスしてください。

【Web版】

<https://b-netrx.bukkyo-u.ac.jp>

または、佛教大学ホームページ (<https://www.bukkyo-u.ac.jp/>) トップページ (ホーム画面) 下部にある「ポータルサイト B-net」をクリックしてください。

※スマートフォン用サイトもあります。詳しくは、上記 B-net ログイン画面よりご確認ください。

2. ログイン画面からユーザー ID とパスワードを入力してください。

※ユーザー ID およびパスワードについては、入学時に配付する「アカウント・パスワード通知」にて確認してください。

ホーム画面

ホーム画面では、大学からのお知らせ、休補講・教室変更、教務情報などの掲示、各種利用マニュアルなどが確認できます。

(掲示例：落とし物連絡・奨学金手続き案内・履修登録期間開始・教室変更・就職ガイダンスなど)

個人情報の照会、変更申請

大学 (B-net) に登録されている、本人、保証人情報などを確認することができます。また、登録情報(住所や電話番号など)に変更が生じた場合、「ホーム画面>情報照会>学籍情報変更申請」より変更することができます。

授業情報

授業に関する各種情報を確認することができます。

開講科目の開講曜日・講時や「シラバス照会」では、授業の概要、到達目標、成績評価の基準、テキストなどが確認できます。

※シラバスについての詳細については『履修要項』p.75 を確認してください。

資格・成績

「希望資格登録」では、取得希望する教育職員免許状・諸資格を登録できます。登録をすることで、事務手続きや履修指導をうけられます。

「成績照会」では、自身が学修した授業科目の成績や現在の修得単位数等を確認することができます。

Web申請

学籍異動や傷害・事故報告、学内奨学金をはじめとした各種申請ができます。

事務取扱時間および電話番号

主な **学生対応窓口** の事務取扱時間および電話番号は以下のとおりです。

※授業日や行事日以外で事務の取扱いを休止する場合はB-netでお知らせします。

窓口	場所	電話番号	取扱時間
学生支援課	1号館2階	075-493-9009	平日 / 9:00~13:00 14:00~17:00 土曜 / 9:00~13:00
免許・資格課		075-493-9092 (免許関連)	
		075-493-9016 (資格関連)	
二条キャンパス事務課	二条キャンパス 1号館1階	075-366-5660	
情報システム課	1号館2階	075-493-9003	平日 / 9:00~13:00 14:00~17:00
社会連携課		075-493-9002	
国際交流課		075-493-9017	
進路就職課		075-493-9058	
生涯学習部 (通信教育課程)事務局	1号館1階	075-491-0239(代)	木曜日および通信教育課程の学事行事のない 土曜日・日曜日・祝日は事務取扱休止日。 詳細は通信教育課程HP参照。

※2026年2月現在。変更となる場合は、B-netにてお知らせします。

佛教大学を知る

I. 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的など

1. 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的 5

文学研究科／教育学研究科／社会学研究科／社会福祉学研究科

2. 学位授与基準 39

文学研究科／教育学研究科／社会学研究科／社会福祉学研究科

II. 履修要項

1. 履修一般事項 71

研究指導／研究計画と指導教員／ Semester制／履修登録／履修登録の留意事項／履修登録の流れ／授業科目と開講科目／シラバス／科目ナンバリング(大学院)／学部授業科目の履修／通信教育課程の科目の履修／履修登録状況の確認／履修取消し制度／授業カレンダー／授業時間／集中講義・実習／休講／補講／授業欠席／公欠／定期試験／追試験／緊急時における授業・試験の取り扱い／学校感染症罹患により欠席した授業・試験の取り扱い／成績／成績の確認／成績に関する調査申請(成績疑義)について／GPA制度

2. 履修科目表 89

● 修士課程 90

文学研究科修士課程

仏教学専攻 90

文学専攻 91

歴史学専攻 92

教育学研究科修士課程

生涯教育専攻 93

臨床心理学専攻 94

社会学研究科修士課程

社会学専攻 95

社会福祉学研究科修士課程

社会福祉学専攻 96

3. 課程の修了と学位の取得 97

● 修士課程 98

「修士論文」および「課題研究」について／学位請求論文の「ループリック」／口頭試問／修士課程の修了

4. 課程の修了と学位の取得・履修科目表 119

● 博士後期課程 120

博士学位請求論文(博士論文)作成・提出／口頭試問／博士後期課程の修了／博士学位請求論文提出・審査スケジュール／学位の授与／学位論文のインターネット公開について／学位論文の保管／学位請求論文の「ループリック」

5. 京都・宗教系大学院連合(K-GURS) 単位互換制度について 149

参加大学院および大学／開講科目／シラバス、履修要項および授業時間割表／履修登録にあたっての注意事項／履修登録手続き／受講について

6. 免許状および資格の取得について 153

教育職員免許状課程(専修免許状)／資格課程／通信教育課程との併修履修制度(免許併修)

7. 通信教育課程聴講履修制度 157

通信教育課程聴講履修制度

III. 規程

● 佛教大学修学規程 161

● 佛教大学学位規程 164

● 佛教大学学位規程細則 166

各種資料

◆学部授業科目の聴講願

◆佛教大学大学院(修士・博士後期課程)研究指導計画書

◆博士後期課程 研究経過報告書(兼報告論文提出付票)

◆授業欠席届

佛教大学を知る

- ・ 佛教大学の建学の理念ならびに使命と目的
- ・ 学章
- ・ ロゴマーク
- ・ 学歌
- ・ 公式マスコットキャラクター

佛教大学の建学の理念ならびに使命と目的

佛教大学は、学則第1条に示す通り仏教精神を建学の理念とし、大学の責務である「人材養成」を目的とし、「教育」「研究」「社会貢献」の三領域において、仏教精神に基づく多様な活動を行いながら、世界文化の向上と人類福祉の増進に貢献することを使命として、これを達成するために相応しい教育研究組織を設置しています。

学則第1条

「本学は学校教育法（昭和22年法律第26号）に基き、仏教精神により人格識見高邁にして、活動力ある人物の養成を目的とし、世界文化の向上、人類福祉の増進に貢献することを使命とする」

仏教精神

本学が建学の理念としている仏教精神とは、仏教を開いたゴータマ・ブッダ（釈尊）と浄土宗を開いた法然上人とに共通する生き方と考え方を指します。釈尊は「私とは何か」「私はどう生きるか」そして「私は自分自身に何を期待できるのか」つまり私の生きる道＝人の生きる道を求めて修行し、その道を成就して、われわれに人として歩むべき道を説き示したのです。一方、法然上人は、末法とも呼ばれた混乱の続く不安定な時代にあって、生きることに苦しみ、天災地変や戦乱の苦しみに喘ぐ人々の中で、大乘仏教に私の生きる道＝人の生きる道を求め、自己の愚かさを自覚し、念仏の道を体得し、すべての人が等しく導かれる道を説いたのです。ブッダによってはじめられ、法然上人によって受け継がれた生き様と考え方こそ、「転識得智」なのです。それは現実の生き方の中で、常に己自身のあり方をしっかりと見つめながら、学んできた知識を人生のさまざまな場において何を為すべきか判断する力、実行してゆく力、すなわち生きる力へと転換してゆける智慧を得ることなのです。この二人に共通する生き方こそが仏教精神に他なりません。この精神にのっとり、自らも生かされている社会において、他に幸せを分かち与え、他の苦をぬぐい去る慈悲のこころをもって、自らが生きていることを活かしてゆける人材の養成を目指します。

学章

本学が建学の理念の拠り所としている浄土宗を開かれた法然上人の生家の家紋であった杏葉に大学の文字を配したものです。

仏教の精神、浄土宗創建の理念に基づき、世界の福祉と文化の向上に貢献する人材の養成を旗印としています。



ロゴマーク

佛教大学の「佛」という漢字と、アルファベットの「B」がモチーフ。

人と人が、手を差し伸べ互いを支え合い、つながる様子をイメージしています。

ボールドのゴシック体をベースにして、堂々と力強く成長していく姿を表現しています。



学歌

作詞:小西存祐
作曲:吉田恒三 (昭和11年4月制定)

一、高^{ひか}輝る千古の都
若草の萌出るところ
ここ鷹陵の吾等が学舎
ここ鷹陵の吾等が学舎
ここ鷹陵の吾等が学舎

二、礙^{さえ}られぬ光こめたり
黒谷の春のあけぼの
誰^たぞ開く報恩蔵
誰^たぞ開く報恩蔵
誰^たぞ開く報恩蔵

三、仰ぎ見よ華頂の峰
その高き教ぞ栄ゆる
還^{げん}愚^ぐ痴^ちの聖^{ひじ}在^いませり
還^{げん}愚^ぐ痴^ちの聖^{ひじ}在^いませり
還^{げん}愚^ぐ痴^ちの聖^{ひじ}在^いませり

公式マスコットキャラクター

開学100周年記念事業の一環として、有志の学生グループが中心となり制作に取り組みました。学生たちの熱心な活動が実を結び、2010年10月23日の創立記念日に公式マスコットキャラクターとして発表されました。また、ネーミングは1,400件を超える応募の中から「ぶったん」と決定しました。

ありがとうのうた「ありがとう-感謝-」

佛教大学開学100周年記念事業ありがとうプロジェクト企画

開学100周年の感謝の気持ちを表すために、ふだんなかなか言葉にできない「ありがとう」を伝えるきっかけとなるように、そのような想いで学生と教職員が一丸となり「ありがとう-感謝-」の楽曲がつけられました。



I 教育理念ならびに 教育研究に関する目的、 人材養成に関する 目的など

1. 教育理念ならびに 教育研究に関する目的、 人材養成に関する目的

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基 準

履 修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

規 程

各 種
届 出 書

文学研究科

文学研究科は、広い視野から専門分野の学修と研究を推し進め、多くの専門家や研究者を社会に送り出すため、これまでの人文学系8専攻を3専攻に改め、50数名の教員が指導する体制のもとで、修士課程・博士後期課程の学位取得に結びつくよう、きめ細かく充実した研究の実現を目指している。

文学研究科の目標は、建学の精神に基づき人間性豊かな、かつ現代社会の進展に応じた多彩な学問研究を推進し、その成果を社会や学界に還元することができる人材を養成することにある。高度で知的な教養のある人材（高度教養人）や高い専門性をもって社会で活躍する人材（高度専門職業人）の養成を重視するとともに、社会や学界に貢献する専門研究者を養成することを推し進めていく。

その到達目標は、以下のとおりである。

- ①大学院における学修や研究成果に基づき、社会や文化などを広い視野から捉え、創造性豊かな優れた知的活動ができる能力をもっている。
- ②高度な教養と専門知識を活用して、社会・文化・教育の発展に寄与し得るさまざまな社会的活動を遂行する能力をもっている。
- ③歴史ある人間文化の深い理解に基き、高度な教養と専門知識を活用して、独創的な研究を推し進める能力をもっている。
- ④修士課程にあっては2年、博士後期課程にあっては3年の基本的在籍期間内に、課程修了論文を提出し、学位を取得する。

以上の4点の目標を実現するために、2015年度から以下の3点に留意したカリキュラムの改革を行った。第1点は、社会人のリカレント教育や生涯教育の必要性が高まっていることに鑑みて、各専攻においてコース（高度教養人コース・高度職業人コース・研究者コース）を設置し、それぞれの目的に適った履修科目を設定すること、第2点は、大学院生の基礎能力の向上を図るため、専門分野に関わる高い教養を広い視野に立って修得するための履修科目を設定すること、第3点は修士論文・博士課程修了論文をまとめ上げるために導入された複数教員による集団指導（「研究指導演習」）を研究指導科目と明確に位置づけ、集団指導の充実を図ることである。

I 教育理念など

教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

仏教学専攻

文学研究科／仏教学専攻の教育研究上の目的 < 修士課程 >

●人材養成の目的

- ①浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関する高度な専門知識と研究能力を持つ浄土宗教師を養成する
- ②浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関する高度な専門知識と研究能力を持つ人材を養成する
- ③浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関する高度な専門知識と研究能力を持ち、それを活かした専門職に就きうる人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①浄土学に関する研究成果に基づき、将来的な研究の進展に寄与する教育課程を提供する
- ②仏教の思想と歴史に関する文献学的研究の成果に基づき、将来的な研究の進展に寄与する教育課程を提供する
- ③仏教文化を中心とした宗教文化・思想に関する研究成果に基づき、将来的な研究の進展に寄与する教育課程を提供する
- ④すでに一定の知識・能力を持っている浄土宗教師のリメディアル、ならびに知識・能力の向上に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①浄土学に関する研究を推進する
- ②インド・チベット・中国・日本にいたる仏教の思想および歴史の研究を推進する
- ③仏教文化を中心とした宗教文化・思想に関する研究を推進する
- ④浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想に関する研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ①優れた浄土宗教師ならびに研究を通して形成される優れた人材を輩出することにより社会に貢献する
- ②研究成果の学外への発信により社会に貢献する
- ③様々な学習機会・生涯学習機会の提供により社会に貢献する

文学研究科／仏教学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針） < 修士課程 >

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「修士（文学）」を授与する

1) 知識

- ①浄土学・仏教学・仏教文化のうち、いずれか一つの専門領域に関する高度な専門知識を持っている
- ②専門領域以外で、近接する関連領域に関する高度な専門知識を持っている
- ③専門領域に関連して有すべきインド・中国・日本の仏教に関わる学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科課程の
修了学位
の取得文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科単位
互換制度免許状
資格取得通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

- ②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

4) 総合力

- ①当該研究を専門領域だけではなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

文学研究科／仏教学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）〈修士課程〉

1) 知識

- ①インド・チベット・中国・日本の仏教、および法然教学・浄土宗学、仏教文化に関して高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して「特殊研究」科目を開講する
- ②特定の専門領域だけに限定されず、インド・チベット・中国・日本の浄土学・仏教学・仏教文化に関する高度な専門的知識を獲得するための履修システムを提供する

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を身につけるために、浄土学・仏教学・仏教文化に関する「演習」科目を開講する
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるために浄土学・仏教学・仏教文化に関する「演習」科目を開講する

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を涵養するように研究指導を行う

4) 総合力

- ①当該研究を専門領域だけではなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を身につけるために、「研究指導」の科目を開講する
- ②当該研究が、専門領域だけではなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容をもつ研究とするために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として開講する

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

文学研究科／仏教学専攻の教育研究上の目的 <博士後期課程>

●人材養成の目的

- ①浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関して、高度な専門知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する
- ②浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関して、高度な専門知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ②浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ①浄土学に関する研究を推進する
- ②インド・チベット・中国・日本にいたる仏教の思想および歴史の研究を推進する
- ③仏教文化を中心とした宗教文化・思想に関する研究を推進する
- ④浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想に関する研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ①優れた研究者の輩出により社会に貢献する
- ②優れた研究成果の学外への発信により社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

文学研究科／仏教学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針） < 博士後期課程 >

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「博士（文学）」を授与する

1) 知識

- ① 浄土学・仏教学・仏教文化のうち、いずれか一つの専門領域に関する高度な専門知識を持っている
- ② 専門領域以外で、近接する関連領域に関する高度な専門知識を持っている
- ③ 専門領域に関連して有すべきインド・中国・日本の仏教に関わる学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ① 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
- ② 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ② 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法を採用し、学術論文を作成し、広く学界に貢献する能力を備えている

4) 総合力

- ① 当該研究を専門領域だけではなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した研究として学術論文をまとめる総合的な能力を備えている

文学研究科／仏教学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） < 博士後期課程 >

1) 知識

- ① インド・チベット・中国・日本の仏教、および法然教学・浄土宗学、仏教文化に関して高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指す
- ② 特定の専門領域だけに限定されず、インド・チベット・中国・日本の浄土学・仏教学・仏教文化に関する高度な専門的知識を獲得するための履修システムを提供する

2) 研究技能

- ① 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるために「研究指導演習」を開講する

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ② 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を博士論文としてまとめる能力を涵養するように研究指導を行う

4) 総合力

- ① 当該研究を専門領域だけではなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した研究として博士論文にまとめる総合的な能力を身につけるために、「研究指導」の科目を開講する
- ② 当該研究が、専門領域だけではなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容をもつ研究とするために、「研究指導演習」を複数の教員が担当する科目として開講する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

文学専攻

文学研究科／文学専攻の教育研究上の目的 < 修士課程 >

●人材養成の目的

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する教育者・研究者となるための基礎的能力を持った人材を養成する
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する高度の専門知識・能力を持ち、中学・高校教員等の専門職に従事する人材を養成する
- ③日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する高度の知識を活用して社会基盤を支える知的教養を有し、地域社会や国際社会や国際交流に貢献できる知見を備えた人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する研究成果に基づき、学生の将来的な研究の進展に資する教育課程を提供する
- ②一定の知識・能力をすでに持っている中学・高校教員等の専門職業人に、さらなる知識・能力の向上に資する教育課程を提供する
- ③生涯学習として日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化を研究しようとする要望に応えるとともに、社会基盤を支える高度で知的な素養の涵養に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する研究を推進する
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する研究成果を教育に還元する

3) 社会貢献

- ①優れた知識・能力を持つ中学・高校教員等の専門職業人を輩出して社会に貢献する
- ②研究成果を学外へ発信することで社会に貢献する
- ③生涯学習を含む様々な学習機会を社会に提供することで社会に貢献する

文学研究科／文学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針） < 修士課程 >

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「修士（文学）」を授与する

1) 知識

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうち、いずれか一つの専攻領域に関する高度な専門的知識を持っている
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうちで専攻する領域以外において、一定の専門的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な言語能力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料の収集とその分析の能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専攻領域ならびに関連領域について、先行研究の状況を正しく把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ②専攻領域において、独自の観点から研究テーマを設定して研究を遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

4) 総合力

- ①専攻領域における先行研究の状況や成果を正確に把握し、自らの研究を、これとの関連性を明確にしつつ、独自性をもったものとして総合し、修士論文としてまとめる能力を備えている
- ②自らの研究を、専攻領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果とも照らし合わせ、多角的な視点をも有するものとする能力を備えている

文学研究科／文学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） <修士課程>

1) 知識

- ①専攻領域に関して、高度な専門知識を提供し、研究の現状や課題を正確に把握することを目指して「特殊研究」科目を開講する
- ②専攻領域以外の隣接領域に関する専門知識を修得して、多角的視野を獲得するために専攻共通科目を開講する
- ③専攻領域におけるさらなる知識の獲得、および専攻領域に限らず、関連する領域の専門知識の獲得のために関連科目を開講する

2) 研究技能

- ①種々の研究対象へのアプローチ方法や研究方法を具体的に提示し、研究への基礎的理解力を涵養するために、「研究基礎」科目を開講する
- ②研究遂行の基礎となる各種文献への理解を深め、さらにこれを解読するために必要な能力を涵養するために、「演習」科目を開講する
- ③研究遂行に必要な資料の収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるために、「演習」科目を開講する

3) 独創性

- ①専攻領域ならびに関連領域について、先行研究の状況を正しく把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養することを目指して、研究指導を行う
- ②専攻領域において、自らの研究を独自の観点から遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を涵養することを目指して、研究指導を行う

4) 総合力

- ①先行研究の状況や成果を正確に把握して、自らの研究を、これとの関連性を明確にしつつ、独自の観点を有した研究として総合し、修士論文としてまとめる能力を涵養することを目指して、研究指導を行う
- ②自らの研究を、専攻領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果とも照らし合わせ、多角的な視点をも有した内容をもつものとするために、「研究指導」科目を開講する。通学課程においては複数教員の担当する科目として開講する

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

文学研究科／文学専攻の教育研究上の目的 <博士後期課程>

●人材養成の目的

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して確かな教育能力と研究能力とを兼ね備えた教育者を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して確かな教育能力と研究能力とを兼ね備えた教育者を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する研究を推進する
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する研究成果を教育に還元する

3) 社会貢献

- ①すぐれた研究者・教育者を輩出して社会に貢献する
- ②研究成果を学外に発信することで社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

文学研究科／文学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）＜博士後期課程＞

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「博士（文学）」を授与する

1) 知識

- ① 日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のいずれかの領域に関して、すぐれて高度な専門的知識を持っている
- ② 専攻領域のみならず、近接する関連領域に関しても広範な学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ① 研究の対象となる文献を解読するために必要とされる言語能力を備えている
- ② 研究遂行に必要な資料の収集とその分析の能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ① 専攻領域ならびに近接する関連領域の研究状況を確実に把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ② 自らの研究が専攻領域において独創性を備えたものとなっている
- ③ 研究遂行のために真に独創的な研究方法が導入されている

4) 総合力

- ① 自らの研究を、すぐれて独創的な内容を持ち、かつ独立した新しい研究として公表するに足る水準で遂行する能力を備えている
- ② 自らの研究を、広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開し、すぐれて高い水準で遂行する能力を備えている
- ③ 自らの研究を、上記の二点を踏まえながら博士論文としてまとめる能力を備えている

文学研究科／文学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）＜博士後期課程＞

1) 知識

- ① 日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して、高度な専門的知識を総合的に提供し、かつ各領域における研究の現状や課題を正確に把握するために「研究指導」科目を開講する

2) 研究技能

- ① 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるために「研究指導」科目を開講する

3) 独創性

- ① 専攻領域ならびに近接する関連領域の研究状況を確実に把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するために研究指導を行う
- ② 自らの研究を、専攻領域において独自の視点を備えたものにするために研究指導を行う
- ③ 研究遂行のために真に独創的な研究方法を導入できるように研究指導を行う

4) 総合力

- ① 自らの研究を、すぐれて独創的な内容を持ち、かつ独立した新しい研究としてまとめることのできる能力を涵養するために、研究指導を行う
- ② 専攻領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果とも照らし合わせた上で、自らの研究を高度な研究内容を備えた博士論文としてまとめることのできる能力を涵養するために、「研究指導」科目を複数教員の担当する科目として開講する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士後期
課程

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

歴史学専攻

文学研究科／歴史学専攻の教育研究上の目的 < 修士課程 >

●人材養成の目的

- ①歴史学に関する創造性豊かな優れた知的活動を支えるための基礎的能力を持つ人材を養成する
- ②歴史学に関する広汎で高度な専門的知識や分析・研究の技能を活用できる人材を養成する
- ③世界的視野をもって現代を見つめ、知的基盤社会を支える高度で知的な社会活動が実践できる人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①歴史学に関する研究成果に基づき、高度な専門知識と研究能力の涵養に資する教育課程を提供する
- ②歴史学に関する研究成果に基づき、高度で知的な社会活動を実践する能力を涵養することに資する教育課程を提供する
- ③生涯学習として歴史学に関する研究をしようとする要望に応えるとともに、高度な教養の涵養に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①日本、中国・朝鮮を中心とする北東アジア、ヨーロッパなどの歴史、および相互の交流史など、歴史学に関する研究を推進する
- ②日本、中国・朝鮮を中心とする北東アジア、ヨーロッパなどの歴史、および相互の交流史など、歴史学に関する研究成果を社会に還元する

3) 社会貢献

- ①歴史学に関する高い教養を備えた人材を養成して、社会に貢献する
- ②歴史学に関する研究成果を学界のみならず広く社会に発信して、社会に貢献する
- ③さまざまな学修機会および生涯学習の機会を提供し、社会に貢献する

文学研究科／歴史学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針） < 修士課程 >

歴史学専攻では専攻が定めるカリキュラムに則り所定の単位数以上を修得し、高度専門職業人コースにおいては「研究指導演習」を受講したうえで、「修士論文」または「課題研究」を提出し、研究者コースにおいては「研究指導演習」および「論文指導演習」を受講したうえで「修士論文」を提出し、それぞれ審査に合格し、かつ以下の要件を満たしていると認められた場合に、「修士（文学）」の学位を授与する

1) 知識

- ①歴史学の中で専門とする領域について高度な専門的知識を持っている
- ②専門領域以外で、近接する分野の各関連領域に関する高度な知識と、専門領域に関わる学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力がある
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力をもっている
- ③研究成果を学界・社会に対して発信することができる

3) 独創性

- ①歴史学の中で専門とする領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づけることができる

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

- ②歴史学の中で専門とする領域を研究するとき、関連する学問分野に関する豊富な知識を持ち、独自のあるいは独創的な研究方法に基づいて遂行できる

4) 総合力

[高度専門職業人コース]

- ①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域や学際的領域における広範な知識を応用して遂行できる
- ②研究の成果を一定水準に到達した内容を持つ課題研究としてまとめることができる
- ③研究を通して修得した歴史学に関する広汎で高度な専門的知識や技能をさまざまな社会的活動に活用し、また社会活動から修得した知識や技能を研究に活かすことができる

[研究者コース]

- ①当該研究を、専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で、独創的に遂行できる
- ②研究の成果を一定水準に到達した研究として、修士論文としてまとめる総合的な能力を備えている
- ③研究の過程で修得した歴史学に関する広汎で高度な専門的知識や技能を基盤に、創造的な知見を切り開き、それを学界や社会に対して発信できる

文学研究科／歴史学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） <修士課程>

1) 知識

- ①古代から近現代にいたる多様な研究分野に対応できる、高度な専門的知識を総合的に提供する
- ②歴史学における研究の基礎となる知識や研究法の基礎を習得するために「研究基礎」を開講する
- ③歴史学の研究を幅広くすすめていくうえで不可欠の関連分野を体系的に学修するために「特殊研究」科目を開講する
- ④専門領域に関連して有すべき学際的知識を獲得するために関連科目群を設定し、文学研究科の他の専攻の科目を任意に選択ができるような履修システムを提供する
- ⑤すでに一定の知識・能力を持っている中学・高校教員・学芸員、その他の専門職業人にいっそうの知識・能力の向上に資する科目を提供する
- ⑥生涯学習として、歴史学を研究しようとする要望に応えるとともに、知識基盤社会を支える高度で知的な素養の涵養に資する科目を提供する

2) 研究技能

- ①これまでの史学史・学説史を踏まえて、研究対象を構造的に把握することに力点をおいた研究指導をする
- ②文献史料に基づく実証的な研究方法を重視し、専門知識や資料の分析・利用の方法を修得するための「特殊研究」、また原史料や古文書・古記録の読解力を高めるための「演習」科目を開講する
- ③人間の営為がつくりあげた多様な「モノ」に関する専門知識や資料の分析・利用の方法を修得するために、「特殊研究」あるいは資料の読解能力を高めるための「演習」を開講する
- ④歴史学に関する広汎で高度な専門的知識に基づいて現代を見つめ、実践の場としての社会を客観的に把握し、また必要な情報を収集し、分析・考察する能力を涵養するために、フィールドワーク（活動実践）科目を開講する

3) 独創性

- ①学生が主体的に選んだテーマについて、具体的な研究方法などの助言・指導を行う
- ②専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するための研究指導を行う

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

博士後期課程

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種届出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

4) 総合力

[高度専門職業人コース]

- ①研究が専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容を持つ研究とするため、複数の教員が担当する「研究指導演習」を開講する
- ②高度な知識や能力を社会に還元し、かつそれらを社会から学び取るための方法や実践的な能力を涵養するための科目を開講する

[研究者コース]

- ①研究が専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容をもつ研究とするため、複数の教員が担当する「研究指導演習」を開講する
- ②専門領域において、明確な独自性、あるいは独創的な研究方法に基づいて研究を遂行し、その成果を修士論文ないし課題研究としてまとめる総合的な能力を涵養するため「論文指導演習」を開講する

文学研究科／歴史学専攻の教育研究上の目的 <博士後期課程>

●人材養成の目的

- ①歴史学に関する優れて高度な専門知識をもち、独創性豊かな優れた研究能力と優れた教育能力を兼ね備えた人材を養成する
- ②歴史学に関する独創性豊かな優れた研究成果を学界のみならず広く社会に発信し、還元できる人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①歴史学に関するより高度な専門知識をもち、創造性豊かな優れた研究能力の涵養に資する教育課程を提供する
- ②歴史学に関するより高度な研究能力のみならず、教育能力の向上に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①日本、中国・朝鮮を中心とする北東アジア、ヨーロッパなどの歴史、および相互の交流史などに関する研究を推進する
- ②日本、中国・朝鮮を中心とする北東アジア、ヨーロッパなどの歴史、および相互の交流史などに関する研究成果を教育に還元する

3) 社会貢献

- ①優れた研究能力や教育能力をもつ教員・学芸員、その他の専門的職業人を養成し、社会に貢献する
- ②研究成果を学内・学界にとどまらず、広く社会に発信して社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

文学研究科／歴史学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針） <博士後期課程>

歴史学専攻では専攻が定めるカリキュラムに則り必要な単位数以上を修得したうえで、「博士論文」を提出して審査に合格し、かつ、以下の1) から4) のすべてを満たす者に「博士（文学）」の学位を授与する

1) 知識

- ①歴史学のなかで、専門とする領域について優れて高度な専門知識をもっている
- ②専門領域に近接する諸領域について高度な専門知識をもっている
- ③専門領域に関連して、歴史学に関わる広範な学際的知識をもっている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力をもっている
- ②研究遂行に必要な資料を的確に収集・分析できる

3) 独創性

- ①専門領域および関連諸領域の研究状況を正しく把握したうえで、当該研究の目的・意義を正確に位置づけている
- ②専門領域において当該研究が独自のあるいは独創的内容をもっている

4) 総合力

- ①広範な領域にわたる、優れて高度な専門知識に基づいて研究を遂行する能力をもっている
- ②専門領域において当該研究が独自のあるいは独創的な研究方法に基づいて遂行されている
- ③上記の二点を踏まえながら、研究成果を博士論文としてまとめることができる
- ④専門領域に関する研究成果を、学界及び社会に対して広く発信し、社会に還元できる

文学研究科／歴史学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） <博士後期課程>

1) 知識

- ①専門とする領域の優れて高度な専門知識を総合的に提供するとともに、研究状況や研究課題を正しく把握するために、「研究指導演習」を開講する
- ②専門領域に近接する諸領域の高度な専門知識を多角的な視点から提供するために、「研究指導演習」を開講する

2) 研究技能

- ①専門領域および近接諸領域の優れて高度な専門知識に基づいて、研究を遂行するために必要な、より高度な資料の収集・分析能力を涵養するために、「研究指導演習」を開講する
- ②専門領域に関する研究等の成果を、学界にとどまらず、広く社会に発信する高い能力を涵養するために、「研究指導演習」を開講する

3) 独創性

- ①専門とする領域の研究目的・意義を正確に位置づけ、研究の独創性を涵養するために「研究指導演習」を開講する
- ②専門とする領域の研究状況や研究課題、自らの研究の目的・意義に照らして、視点や研究方法の独創性を高めるために、「研究指導演習」を開講する

4) 総合力

- ①自らの研究が独創的かつ高度な内容を持ち、その成果を博士論文にまとめることができる能力を涵養するために、「研究指導演習」を開講する
- ②自らの研究が専門とする領域だけでなく、近接する諸領域からみても独創的かつ高度な研究内容を備えた博士論文としてまとめることができる能力を涵養するために、「研究指導演習」を開講する

教育学研究科

教育学研究科では変化する知識基盤社会の中で、時代に求められ、社会に貢献できる高度な専門知識を有する教員、臨床心理士を輩出し、その人材養成に重要となるカリキュラム改革を進めています。また、時代の要請に即応し、平成29年に国家資格として施行された公認心理師法に基づき、公認心理師育成のためのカリキュラムも開設しています。

生涯教育専攻では、理論と実践を融合したカリキュラムにより、学校現場で活躍できる高度な教員養成を行うと共に、教育学の研究者として博士号取得を希望する人のための研究指導を充実した体制の下で行っています。

臨床心理学専攻では、学部で学ぶ基礎心理学・臨床心理学の知識・技能をさらに高度化し、教育・医療・福祉・司法矯正・行政・企業などの分野において、心に関わる諸問題の解決・支援に貢献できる人材を育成するためのカリキュラムを設けると共に、臨床心理学、心理臨床学において、創造性豊かで確かな研究能力を有する研究者や大学教員を養成する研究指導を充実した体制の下で行っています。

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

生涯教育専攻

教育学研究科／生涯教育専攻の教育研究上の目的 < 修士課程 >

●人材養成の目的

- ①教育学に関する高度な専門的知識、能力をもち、人間の生に寄り添って支援しようとする高度専門職業人を養成する
- ②教育学に関する創造性豊かな優れた研究者・教育者となるための基礎的能力を持つ人材を養成する
- ③教育学に関する高度な知識と技能をもって、地域社会を支える高度で知的な素養のある人間性豊かな人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①教育保育現場や生涯学習施設において業務をコーディネートしながら遂行するとともに協働して諸問題の解決に貢献しうる人材を養成するための教育課程を提供する
- ②教育学の研究者としての基礎的な資質と能力を身につける教育課程を提供する
- ③知識基盤社会を支える高度で知的な素養の涵養に資する教育課程を提供することにより、生涯学習の機会を提供する

2) 研究

- ①教育学の研究を推進する
- ②教育学の実践に関する研究を推進する
- ③教育学における研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ①教育学の高度な知識と資質と能力をもった人材の輩出により社会に貢献する
- ②研究成果の学外への発信により社会に貢献する
- ③教育現場や生涯学習施設における様々な教育活動により、社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

教育学研究科／生涯教育専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）〈修士課程〉

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「修士（教育学）」を授与する

1) 知識

- ① 教育学領域に関する高度な専門的知識をもち、十分な実践技能を身につけている
- ② 近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている

2) 研究技能

- ① 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
- ② 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ② 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

4) 総合力

- ① 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

教育学研究科／生涯教育専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）〈修士課程〉

1) 知識

- ① 教育学領域に関して、高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して「特殊研究」を開講する
- ② 近接の専門領域に関する高度な専門的知識を獲得するための履修システムを提供する
- ③ 高度専門職業人としての実践と研究に資するカリキュラムを提供する

2) 研究技能

- ① 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるためのカリキュラムを提供する
- ② 教育活動の実践研究に関して、複数教員による指導カリキュラムを提供する

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ② 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を涵養するように研究指導を行う

4) 総合力

- ① 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ② 当該研究が、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容をもつ研究とするために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として提供する

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

教育学研究科／生涯教育専攻の教育研究上の目的 <博士後期課程>

●人材養成の目的

- ①教育学に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する
- ②教育学に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①教育学に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ②教育学に関する確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ①教育学の理論と実践に関する専門的研究を推進する
- ②教育学における新たな実践研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ①優れた研究者の輩出により社会に貢献する
- ②優れた研究成果の学外への発信により社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

教育学研究科／生涯教育専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）＜博士後期課程＞

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「博士（教育学）」を授与する

1) 知識

- ① 教育学領域に関する優れて高度な専門的知識を持っている
- ② 専門領域全般の研究に精通し、近接領域を含めた広範な学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ① 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力を備えている
- ② 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ② 専門研究領域において当該研究が優れて新たな独自性を持っている
- ③ 研究遂行のために優れて独創的な研究方法を採用している

4) 総合力

- ① 当該研究が優れて独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として公表するに相応しい高い水準で遂行する能力を備えている
- ② 当該研究が広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開され、優れて高い水準で遂行する能力を備えている
- ③ 上記の二点を踏まえながら、当該研究を博士論文としてまとめる能力を備えている

教育学研究科／生涯教育専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）＜博士後期課程＞

1) 知識

- ① 教育学に関して、優れて高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して「特殊研究」科目を開講する

2) 研究技能

- ① 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力を身につけるために広義の教育学に関する「演習」科目を開講する
- ② 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する高い能力を身につけるために、広義の教育学に関する「演習」科目を開講する

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ② 専門研究領域において当該研究が優れて新たな独自性を備えるように研究指導を行う
- ③ 研究遂行のために優れて独創的な研究方法を採用できるように研究指導を行う

4) 総合力

- ① 当該研究が完全に独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として博士論文にまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ② 当該研究が、専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上でも、高度な研究内容を備えた博士論文としてまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として開講する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士
後期
課程

単
位
互換
制度

免許
状
資格
取得

通信
課程
聴講
履修

規
程

各
種
出
書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

臨床心理学専攻

教育学研究科／臨床心理学専攻の教育研究上の目的 < 修士課程 >

●人材養成の目的

- ① 高度専門職業人としての「臨床心理士・公認心理師」を養成する
- ② 臨床心理学、心理臨床学に関する創造性豊かな優れた研究者・教育者となるための専門領域における基礎的能力を持つ人材を養成する
- ③ 臨床心理学、心理臨床学に関する高度な知識と技能を活用しながら、地域社会を支える、高度で知的な素養のある人間性豊かな人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ① 「臨床心理士・公認心理師」養成に必要な教育課程を提供する
- ② 現在までに蓄積された臨床心理学、心理臨床学に関する研究成果に基づき、将来的な研究の進展に寄与する教育課程を提供する
- ③ 「臨床心理士・公認心理師」もしくは心理学の専門家として、教育および福祉、医療分野およびその他のリエゾン分野における心理臨床活動および地域社会に貢献しうる教育課程を提供する

2) 研究

- ① 臨床心理学、心理臨床学の研究を推進する
- ② 教育、医療、福祉その他のリエゾン分野における心理臨床実践に関する研究を推進する
- ③ 臨床心理学、心理臨床学における研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ① 優れた「臨床心理士・公認心理師」資格をもつ人材の輩出により社会に貢献する
- ② 研究成果の学外への発信により社会に貢献する
- ③ 大学付設の臨床心理学研究センター、相談施設における様々な心理臨床活動、地域社会の学校、医療機関、福祉施設などにおける心理臨床活動により、社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

教育学研究科／臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）〈修士課程〉

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「修士（教育学）」を授与する

1) 知識

- ① 臨床心理学、心理臨床学領域に関する高度な専門的知識をもち、「臨床心理士・公認心理師」の資格を得るに十分な実践技能を身につけている
- ② 臨床心理学領域の近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている

2) 研究技能

- ① 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
- ② 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ② 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

4) 総合力

- ① 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

教育学研究科／臨床心理学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）〈修士課程〉

1) 知識

- ① 臨床心理学、心理臨床学領域に関して、高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して講義科目を開講する
- ② 近接の専門領域に関する高度な専門的知識を獲得するための履修システムを提供する
- ③ 「臨床心理士・公認心理師」養成課程に必修科目および独自の選択科目を提供することにより、高度専門職業人としての実践技能と研究に資するカリキュラムを提供する

2) 研究技能

- ① 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるためのカリキュラムを提供する
- ② 心理臨床活動の実践研究に関して、複数教員による指導カリキュラムを提供する

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ② 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を涵養するように研究指導を行う

4) 総合力

- ① 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ② 心理臨床活動の実践能力を身につけるため、教員の指導とともに、外部指導者（スーパーバイザーと称する）の個別指導を受けることができるシステムを提供する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

教育学研究科／臨床心理学専攻の教育研究上の目的 <博士後期課程>

●人材養成の目的

- ①臨床心理学、心理臨床学に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する
- ②臨床心理学、心理臨床学に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①臨床心理学、心理臨床学に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ②臨床心理学、心理臨床学に関する確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ①臨床心理学、心理臨床学の理論と実践に関する専門的研究を推進する
- ②臨床心理学、心理臨床学における新たな実践研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ①優れた研究者の輩出により社会に貢献する
- ②優れた研究成果の学外への発信により社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

教育学研究科／臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）〈博士後期課程〉

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「博士（教育学）」を授与する

1) 知識

- ① 臨床心理学、心理臨床学領域に関する優れて高度な専門的知識を持っている
- ② 専門領域全般の研究に精通し、近接領域を含めた広範な学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ① 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力を備えている
- ② 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ② 専門研究領域において当該研究が優れて新たな独自性を持っている
- ③ 研究遂行のために優れて独創的な研究方法を採用している

4) 総合力

- ① 当該研究が優れて独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として公表するに相応しい高い水準で遂行する能力を備えている
- ② 当該研究が広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開され、優れて高い水準で遂行する能力を備えている
- ③ 上記の二点を踏まえながら、当該研究を博士論文としてまとめる能力を備えている

教育学研究科／臨床心理学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）〈博士後期課程〉

1) 知識

- ① 臨床心理学、心理臨床学に関して、優れて高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して「研究指導演習」科目を開講する

2) 研究技能

- ① 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力を身につけるために臨床心理学、心理臨床学に関する「演習」科目を開講する
- ② 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する高い能力を身につけるために、臨床心理学、心理臨床学に関する「演習」科目を開講する

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ② 専門研究領域において当該研究が優れて新たな独自性を備えるように研究指導を行う
- ③ 研究遂行のために優れて独創的な研究方法を採用できるように研究指導を行う

4) 総合力

- ① 当該研究が完全に独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として博士論文にまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ② 当該研究が、専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上でも、高度な研究内容を備えた博士論文としてまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として開講する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規
程

各
種
届
出
書

社会学研究科

社会学専攻

社会学研究科／社会学専攻の教育研究上の目的 < 修士課程 >

●人材養成の目的

- ①社会学系の文化、社会情報、共生・臨床、ソーシャル・マネジメント系の環境、地域に関する高度な知識を活用しながら、知識基盤社会を支える、高度で知的な素養のある人材を養成する
- ②新しい社会状況に対応し得る、高度な学問的分析と政策提言のできる高度専門職業人を養成する
- ③社会学系の文化、社会情報、共生・臨床の3領域、ソーシャル・マネジメント系の環境、地域の2領域に関する創造性豊かな優れた研究者・教育者となるための基礎的能力を持つ人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①社会学系の文化、社会情報、共生・臨床、ソーシャル・マネジメント系の環境、地域の研究領域に関する研究成果に基づき、将来的な研究の進展に寄与する教育課程を提供する
- ②生涯学習として社会学系の文化、社会情報、共生・臨床、ソーシャル・マネジメント系の環境、地域の研究領域を研究しようとするニーズに応えるとともに、知識基盤社会を支える高度で知的な素養の涵養に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①社会学系の文化、社会情報、共生・臨床領域の研究を推進する
- ②ソーシャル・マネジメント系の環境、地域領域の研究を推進する

3) 社会貢献

- ①社会理論と現実社会の諸課題を連結させる研究の成果を発信することにより社会に貢献する
- ②社会問題解決のための具体的な政策提言を行うことで社会に貢献する
- ③様々な学習機会・生涯学習機会の提供により社会に貢献する

社会学研究科／社会学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針） < 修士課程 >

*次の1) から4) をすべて満たす者に「修士（社会学）」を授与する

1) 知識

- ①社会学理論あるいはソーシャル・マネジメント理論を学修した上で、文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の領域のうち、いずれか一つの専門領域に関する高度な専門的知識を持っている
- ②専門領域以外で、近接する文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の各関連領域に関する高度な専門的知識を持っている

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

③専門領域に関連して様々な社会問題に関わる学際的知識を持っている

2) 研究技能

①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な能力を備えている

②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

[修士論文選択の場合]

①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付けるとともに、様々な社会問題を深く専門的・理論的に考察する能力を備えている

②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を位置づける能力を備えている

[課題研究選択の場合]

①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付けるとともに、様々な社会問題に適切な問題解決策を案出する能力を備えている

②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を課題研究としてまとめる能力を備えている

4) 総合力

[修士論文選択の場合]

①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

[課題研究選択の場合]

①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域や、学際的領域における広範な知識を応用して遂行し、様々な社会問題に適切な問題解決策を案出し、その成果を一定の水準に到達した内容をもって課題研究としてまとめる総合的な能力を備えている

社会学研究科／社会学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）〈修士課程〉

1) 知識

①研究の現状や課題の正確な把握を目指して、社会学系ならびにソーシャル・マネジメント系に「基礎科目」を開講する

②社会学系では、文化、社会情報、共生・臨床の3研究領域において、また、ソーシャル・マネジメント系では、環境、地域研究領域において高度な専門的知識を獲得するための「特殊研究」ならびに「演習」の科目を提供する

③専門領域に関連して様々な社会問題に関わる学際的知識を獲得し、社会理論と現実的な諸課題を連結させること、また、社会問題の解決のための具体的な政策提言を行うことができるようなカリキュラムを提供する

2) 研究技能

①各自の問題意識をもとにした修士論文や課題研究を作成するための社会学的方法を十分習得するために「研究指導」の科目を開講する

②研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な能力を身につけるために「特殊研究」の科目を開講する

③研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるために「演習」の科目を開講する

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付ける能力を涵養するように研究指導を行う
- ② 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文ないしは課題研究としてまとめる能力を涵養するように研究指導を行う

4) 総合力

- ① 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ② 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域や、学際的領域における広範な知識を応用して遂行し、その成果を一定の水準に到達した内容をもって課題研究としてまとめる総合的な能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ③ 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果を照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容をもつ研究とするために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として開講する

社会学研究科 / 社会学専攻の教育研究上の目的 <博士後期課程>

●人材養成の目的

- ① 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、専門的でかつ先端的な課題に取り組み、高度な研究能力を持つ研究者を養成する
- ② 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ① 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、専門的でかつ先端的な課題に取り組み、高度な研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ② 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ① 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の領域に関する研究を推進する
- ② 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の領域における研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ① 問題の発見と解決ができる自立した研究能力を身につけ、主体的な研究を可能とする優れた研究者の輩出により社会に貢献する
- ② 優れた研究成果の学外への発信により社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出

社会学研究科／社会学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）〈博士後期課程〉

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「博士（社会学）」を授与する

1) 知識

- ①社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関する優れた高度な専門的知識を持っている
- ②専門領域に関連して様々な社会問題に関わる広範な学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付けるとともに、様々な社会問題を深く専門的・理論的に考察する能力を備えている
- ②専門領域において、当該研究が完全に新たな独自性を持っている
- ③研究遂行のために完全に独創的な研究方法を採用している

4) 総合力

- ①当該研究が完全に独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として公表するに相応しい高い水準で遂行する能力を備えている
- ②当該研究が広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開され、優れて高い水準で遂行する能力を備えている
- ③上記の二点を踏まえながら、当該研究を博士論文としてまとめる能力を備えている

社会学研究科／社会学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）〈博士後期課程〉

1) 知識

- ①社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、優れて高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して「研究指導」の科目を開講する

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な能力を身につけるために文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関する「研究指導」の科目を開講する
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する高い能力を身につけるために文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関する「研究指導」の科目を開講する

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付ける能力を涵養するように研究指導を行う
- ②専門領域において、当該研究が完全に新たな独自性を備えるように研究指導を行う
- ③研究遂行のために完全に独創的な研究方法を採用できるように研究指導を行う

4) 総合力

- ①当該研究が完全に独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として博士論文にまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ②当該研究が、専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上でも、高度な研究内容を備えた博士論文としてまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として開講する

社会福祉学研究科

社会福祉学専攻

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻の教育研究上の目的 <修士課程>

●人材養成の目的

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な専門的知識・能力を持つ社会福祉関係高度専門職業人を養成する
- ②社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する創造性豊かな研究者・教育者となるための基礎的能力を持つ人材を養成する
- ③社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な知識を活用しながら、福祉社会を支える高度で知的な素養のある人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①学士課程における社会福祉学に関する知識・能力をふまえ、社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関するさらに高度な専門的知識・能力の向上を図る教育課程を提供する
- ②少人数教育の長所を活かし、演習的要素を重視した各教科及び修士論文指導を通じて、研究能力を養成する教育課程を提供する
- ③社会福祉機関・施設等で活躍する社会福祉専門職従事者のニーズに応えるとともに、福祉社会を支える高度で知的な素養の涵養に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する社会福祉学研究を推進する
- ②社会福祉学各領域をカバーする豊富な教員陣を有する本研究科の利点を駆使し、共同研究を進めるとともに、比較福祉研究をさらに充実させる
- ③社会福祉学研究の成果を教育に還元するとともに、社会貢献に反映する

3) 社会貢献

- ①高度な専門的知識・能力を持つ社会福祉関係高度専門職・教養人の養成により社会に貢献する
- ②研究成果を学外に発信することにより社会に貢献する
- ③地方自治体や社会福祉関係機関・施設との共同研究や委託研究を進め、社会に貢献する

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）〈修士課程〉

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「修士（社会福祉学）」を授与する

1) 知識

- ① 社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関わるいずれか1つの専門領域に関し、高度な専門的知識を持っている
- ② 専攻する専門領域以外で、近接する社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する専門的知識を持っている

2) 研究技能

- ① 研究課題に関して科学的に分析し、論理的に思考する能力があり、それらを再構成して適切に表現する能力を有している
- ② 研究を遂行するために必要な調査技法を習得し、適切な調査を遂行する能力がある
- ③ 研究を遂行するために必要な語学力を持っている

3) 独創性

- ① 研究課題に関し、先行研究を把握した上で、自らの研究の目的・意義を位置づけることができる
- ② 研究課題に関し、先行研究をふまえて、適切な研究方法により修士論文としてまとめることができる

4) 総合力

- ① 研究課題に関する高度な専門的知識と、関連領域に関する専門知識、適切な研究技能、さらに独創性を有し、その成果を修士論文に集大成する総合的な能力を備えている

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）〈修士課程〉

1) 知識

- ① 社会福祉学研究における基礎的知識・方法の獲得のため「基礎科目」を配置する
- ② 社会福祉学各領域における基礎的知識の獲得のため「特殊研究科目」を配置する
- ③ 専攻科目として、①各ライフステージにおける人間の発達・自立をめざし、当事者・家族・地域課題へどう対応するか、②グローバルな視角から地域に包括される福祉諸課題等を検証しつつ、福祉開発指向をふまえた福祉政策・実践をどう展望するか、について専門的・総合的に研究するために「特殊研究科目」を配置する
- ④ 特殊研究科目・演習とも履修方法を弾力化し、関連領域の専門的知識を獲得できる履修システムを提供する
- ⑤ 本学大学院における研究の基礎的知見獲得のため「関連科目」を配置する

2) 研究技能

- ① 大学院担当教員全員が修士論文を指導するための科目を、初年度からsemesterごとに開講し、研究技能の向上を図る
- ② 研究を遂行するために必要な調査能力・分析能力・論理的思考力・表現力を獲得するために、学生の課題報告とそれに対する教員のコメント及び相互のディスカッション等の過程を通じて鍛錬する「演習科目」を開講する
- ③ 研究遂行に必要な語学力を獲得するための科目を、特殊研究科目、演習科目において開講する

3) 独創性

- ① 初年度から開講する研究指導演習を通じて研究指導を継続的に徹底することにより、先行研究をフォローし、それとの関連で自らの研究課題を正確に位置づけるとともに、先行研究に対する独自性を明確にし、研究方法に関して独創性を追求するなど、独創性の涵養を図る

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

4) 総合力

- ①研究指導演習を通じて研究指導を継続的に徹底することにより、修士課程の学びをふまえて、その集大成として修士論文に仕上げる指導を行い、独立した研究として一定の水準を達成することをめざし、総合力の涵養を図る

社会福祉学研究科 / 社会福祉学専攻の教育研究上の目的 < 博士後期課程 >

●人材養成の目的

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな研究能力を持つ研究者を養成する
- ②社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関して、確かな教育力と研究力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ②社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関して、確かな教育力と研究力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する社会福祉学研究を推進する
- ②社会福祉学各領域をカバーする豊富な教員陣を有する本研究科の利点を駆使し、共同研究を進めるとともに、比較福祉研究をさらに充実させる
- ③社会福祉学研究成果を教育に還元するとともに、社会貢献に反映する

3) 社会貢献

- ①高度な専門的知識・能力を持つ研究者・教育者の養成により社会に貢献する
- ②研究成果を学外に発信することにより社会に貢献する
- ③地方自治体や社会福祉関係機関・施設との共同研究や委託研究を進め、社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）〈博士後期課程〉

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「博士（社会福祉学）」を授与する

1) 知識

- ① 社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関わるいずれか1つの専門領域に関し、優れて高度な専門的知識を持っている
- ② 専攻する専門領域以外で、近接する社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な専門的知識を持っている

2) 研究技能

- ① 研究課題に関して科学的に分析し、論理的に思考する能力があり、それらを再構成して適切に表現する優れた能力を有している
- ② 研究を遂行するために必要な調査技法を習得、適切に調査を遂行する能力がある
- ③ 研究を遂行するために必要な高度な語学力を持っている

3) 独創性

- ① 研究課題に関し、先行研究を把握した上で、自らの研究の目的・意義を位置づけることができる
- ② 研究課題に関し、先行研究をふまえて、適切な研究方法により博士論文としてまとめることができる

4) 総合力

- ① 研究課題に関する高度な専門的知識と、関連領域に関する専門知識、適切な研究技能、さらに独創性を有し、その成果を博士論文に集大成する優れて総合的な能力を備えている

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）〈博士後期課程〉

1) 知識

- ① 博士論文指導担当教員全員が「研究指導演習」を開講し、社会福祉学各領域の高度な専門的知識の提供及び研究の現状や課題の正確な把握をめざす

2) 研究技能

- ① 博士論文指導担当教員全員がそれぞれ各セメスターごとに「研究指導演習」を開講し、学生の課題報告とそれに対する教員のコメント及び相互のディスカッション等の過程を通じて、研究を遂行するために必要な調査能力・分析能力・論理的思考力・表現力の獲得と研究技能のさらなる向上を図る
- ② 「研究指導演習」を通して、研究遂行に必要な高度な語学力を獲得する

3) 独創性

- ① 初年度から開講する「研究指導演習」を通じて研究指導を継続的に徹底することにより、先行研究をフォローし、それとの関連で自らの研究課題を正確に位置づけるとともに、先行研究に対する独自性を明確にし、研究方法に関して独創性を追求するなど、独創性のいっそうの涵養を図る

4) 総合力

- ① 「研究指導演習」を通じて研究指導を継続的に徹底し、博士後期課程の学びをふまえて、その集大成として博士論文に仕上げる指導を行い、独立した研究として高度の水準を達成することをめざし、総合力のさらなる涵養を図る

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互換制度

免許
状
資格取得

通信課程
聴講履修

規
程

各
種
届
出
書

2. 学位授与基準

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

文学研究科

仏教学専攻

文学研究科／仏教学専攻 学位授与基準 <修士課程>

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマを明示し、そのテーマが研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマに関して独創的見解を含んでいること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

文学研究科 仏教学専攻 修士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
先行研究の収集と整理	先行研究のリストアップ	通説を形成する主要な先行研究を把握できていない。	通説を形成する主要な先行研究は把握できている。	主要な先行研究に加え一部関連するものも含み把握できている。	主要な先行研究、関連する研究が幅広く課題に関連づけられ把握できている。
	先行研究の理解と整理	先行研究が十分に理解されておらず、問題点も不十分である。	先行研究が概ね理解できてはいるが、問題点(課題)の指摘は限定的である。	先行研究が十分に理解されているが、問題点の指摘との関連づけに不十分さが残る。	先行研究の内容が高度に理解されており、研究テーマと関連付いた形で整理できている。
<p>修士論文で取り扱う課題に関して、通説を形成している先行研究をどの程度把握し、またそれらをどう理解しているかを評価する。成果の変遷をたどったり、成果をいくつかの段階(レベル)に区分するなど、論文の課題に即した形で把握が試みられ、論文の課題へと関連付けた形で把握することが望ましい。</p>					
課題の設定と論旨構成	課題の設定	課題は著しく具体性を欠き、抽象的である。	具体的な課題は概ね設定できているが、先行研究との関連づけに問題が残る。	課題は具体的であり、先行研究の整理との関連付けもできている。	新規性を備えた具体的な課題が、先行研究の整理をふまえて設定できている。
	論旨構成	構成が不十分で、論旨も論理性を欠く。	構成は十分とはいえないが、論旨は概ね論理的である。	構成も概ね妥当で、論旨も論理的である。	構成も十分で論旨も論理的である。
<p>論文における問い(課題設定)がどのようになされているかを評価する。先行研究が抱える問題と論文での問いが関連付けられ、論文の論旨構成へとどのように反映されているか。先行研究の課題を適切に切り分け、論文の問いへと帰納的に接続できていることが望ましい。</p>					
史資料の収集と理解	史資料の収集	行論に必要な最低限の史資料が収集できていない。	史資料の収集は一部に止まる。	行論に必要な史資料が概ね収集できている。	新たな史資料を含み、行論に係る史資料が広く収集できている。
	史資料の理解	史資料が十分に理解されておらず、実証に用いることができていない。	史資料は概ね理解できているが、実証は限定的である。	史資料の理解は妥当で、概ね実証へとつなげられている。	高度な史資料の理解に基づき、実証へとつなげられている。
<p>論文中で展開される実証作業を支える史資料について、どれほどの史資料が収集されたか、また史資料の理解の度合いを評価する。</p>					
典拠と実証	実証と結論づけ	史資料(典拠)に基づいた結論づけが十分にできていない。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが一部に止まる。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが概ねできている。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが高いレベルで達成できている。
	結論の妥当性	結論が著しく妥当性を欠いている。	結論の一部が妥当性を欠いている。	結論は概ね妥当である。	結論は妥当で新規性を備えている。
<p>論文中で展開される実証作業において、史資料の分析から結論へと論理的に妥当であるか。論理の飛躍、根拠のない結論付け、過度の推測などはないか。</p>					
総合評価	修士論文としての完成度	著しく完成度が低い。	完成度として一部に問題がある。	概ね良好な完成度である。	高い完成度を備えている。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 学位授与基準

文学研究科／仏教学専攻 学位授与基準 <博士後期課程>

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマを明示し、そのテーマが研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマが独創的であり、学界に寄与する内容を持っていること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了
学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換
制度

免許
状
資格
取得

通信
課程
聴講
履修

規程

各種
届出
書

文学研究科 仏教学専攻 博士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
先行研究の収集と整理	先行研究のリストアップ	通説を形成する主要な先行研究を把握できていない。	通説を形成する主要な先行研究は把握できている。	主要な先行研究に加え一部関連するものも含み把握できている。	主要な先行研究、関連する研究が幅広く課題に関連づけられ把握できている。
	先行研究の理解と整理	先行研究が十分に理解されておらず、問題点も不十分である。	先行研究が概ね理解できてはいるが、問題点(課題)の指摘は限定的である。	先行研究が十分に理解されているが、問題点の指摘との関連づけに不十分さが残る。	先行研究の内容が高度に理解されており、研究テーマと関連付いた形で整理できている。
<p>博士論文で取り扱う課題に関して、通説を形成している先行研究をどの程度把握し、またそれらをどう理解しているかを評価する。成果の変遷をたどったり、成果をいくつかの段階(レベル)に区分するなど、論文の課題に即した形で把握が試みられ、論文の課題へと関連付けた形で把握することが望ましい。</p>					
課題の設定と論旨構成	課題の設定	課題は著しく具体的性を欠き、抽象的である。	具体的な課題は概ね設定できているが、先行研究との関連付けに問題が残る。	課題は具体的であり、先行研究の整理との関連付けもできている。	新規性を備えた具体的な課題が、先行研究の整理をふまえて設定できている。
	論旨構成	構成が不十分で、論旨も論理性を欠く。	構成は十分とはいえないが、論旨は概ね論理的である。	構成も概ね妥当で、論旨も論理的である。	構成も十分で論旨も論理的である。
<p>論文における問い(課題設定)がどのようになされているかを評価する。先行研究が抱える問題と論文での問いが関連付けられ、論文の論旨構成へとどのように反映されているか。先行研究の課題を適切に切り分け、論文の問いへと帰納的に接続できていることが望ましい。</p>					
史資料の収集と理解	史資料の収集	行論に必要な最低限の史資料が収集できていない。	史資料の収集は一部に止まる。	行論に必要な史資料が概ね収集できている。	新たな史資料を含み、行論に関係する史資料が広く収集できている。
	史資料の理解	史資料が十分に理解されておらず、実証に用いることができていない。	史資料は概ね理解できているが、実証は限定的である。	史資料の理解は妥当で、概ね実証へとつなげられている。	高度な史資料の理解に基づき、実証へとつなげられている。
<p>論文中で展開される実証作業を支える史資料について、どれほどの史資料が収集されたか、また史資料の理解の度合いを評価する。</p>					
典拠と実証	実証と結論づけ	史資料(典拠)に基づいた結論づけが十分にできていない。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが一部に止まる。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが概ねできている。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが高いレベルで達成できている。
	結論の妥当性	結論が著しく妥当性を欠いている。	結論の一部が妥当性を欠いている。	結論は概ね妥当である。	結論は妥当で、新規性を備えている。
<p>論文中で展開される実証作業において、史資料の分析から結論へと論理的に妥当であるか。論理の飛躍、根拠のない結論付け、過度の推測などはないか。</p>					
総合評価	博士論文としての完成度	著しく完成度が低い。	完成度として一部に問題がある。	概ね良好な完成度である。	高い完成度を備えている。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 学位授与基準

文学専攻

文学研究科／文学専攻 学位授与基準 <修士課程>

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」を満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定・選択が研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマに関して独自の観点からの叙述あるいは独創的見解を含んでいること。
 - (4) 分析や論証の内容に説得力があること。
 - (5) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

文学研究科 文学専攻 修士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
先行研究の収集と整理	先行研究のリストアップ	通説を形成する主要な先行研究が把握できていない。	通説を形成する主要な先行研究は把握できている。	主要な先行研究に加え一部関連するものも含み把握できている。	主要な先行研究、関連する研究が幅広く課題に関連づけられ把握できている。
	先行研究の理解と整理	先行研究が十分に理解されておらず、問題点の指摘も不十分である。	先行研究が概ね理解できてはいるが、問題点(課題)の指摘は限定的である。	先行研究が十分に理解されているが、問題点の指摘との関連づけに不十分さが残る。	先行研究の内容が高度に理解されており、研究テーマと関連付いた形で整理できている。
<p>修士論文で取り扱う課題に関して、通説を形成している先行研究をどの程度把握し、またそれらをどう理解しているかを評価する。成果の変遷をたどったり、成果をいくつかの段階(レベル)に区分するなど、論文の課題に即した形で把握が試みられ、論文の課題へと関連付けた形で把握されることが望ましい。</p>					
課題の設定と論旨構成	課題の設定	課題は著しく具体性を欠き、抽象的である。	具体的な課題は概ね設定できているが、先行研究との関連付けに問題が残る。	課題は具体的であり、先行研究の整理との関連付けもできている。	新規性を備えた具体的な課題が、先行研究の整理をふまえて設定できている。
	論旨構成	構成が不十分で、論旨も論理性を欠く。	構成は十分とはいえないが、論旨は概ね論理的である。	構成は概ね妥当で、論旨も論理的である。	構成は十分で、論旨も論理的である。
<p>論文における問い(課題設定)がどのようになされているか、また先行研究が抱える問題と論文での問いが関連付けられ、論文の論旨構成へとどのように反映されているかを評価する。先行研究の課題を適切に切り分け、論文の問いへと帰納的に接続できていることが望ましい。</p>					
史資料の収集と理解・原典の理解	史資料の収集	行論に必要な最低限の史資料が収集できていない。	史資料の収集は一部に止まる。	行論に必要な史資料が概ね収集できている。	新たな史資料を含み行論に係る史資料が広く収集できている。
	原典および史資料の理解	原典・史資料が十分に理解されておらず実証に用いることができていない。	原典・史資料は概ね理解できているが、実証は限定的である。	原典・史資料の理解は妥当で、概ね実証へとつなげられている。	高度な原典・史資料の理解に基づき実証へとつなげられている。
<p>論文中で展開される実証作業を支える史資料について、どれほどの史資料が収集されたか、また史資料の理解の度合いを評価する。さらに、文学研究の基本である、原典の理解の度合いを評価する。</p>					
典拠と実証	実証と結論づけ	史資料(典拠)に基づいた結論づけが十分にできていない。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが一部に止まる。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが概ねできている。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが高いレベルで達成できている。
	結論の妥当性	結論が著しく妥当性を欠いている。	結論の一部が妥当性を欠いている。	結論は概ね妥当である。	結論は妥当で、新規性を備えている。
<p>論文中で展開される実証作業において、史資料の分析から結論へと論理的に妥当であるか、また論理の飛躍、根拠のない結論づけ、過度の推測などはないかを評価する。</p>					
総合評価	修士論文としての完成度	著しく完成度が低い。	完成度として一部に問題がある。	概ね良好な完成度に達している。	高い完成度に達している。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 学位授与基準

文学研究科／文学専攻 学位授与基準 <博士後期課程>

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」を満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定・選択が研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマが独創的であり、学界に寄与する内容を持っていること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格
取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出

文学研究科 文学専攻 博士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
先行研究の収集と整理	先行研究のリストアップ	通説を形成する主要な先行研究が把握できていない。	通説を形成する主要な先行研究は把握できている。	主要な先行研究に加え一部関連するものも含み把握できている。	主要な先行研究、関連する研究が幅広く課題に関連づけられ把握できている。
	先行研究の理解と整理	先行研究が十分に理解されておらず、問題点の指摘も不十分である。	先行研究が概ね理解できてはいるが、問題点(課題)の指摘は限定的である。	先行研究が十分に理解されているが、問題点の指摘との関連づけに不十分さが残る。	先行研究の内容が高度に理解されており、研究テーマと関連付いた形で整理できている。
博士論文で取り扱う課題に関して、通説を形成している先行研究をどの程度把握し、またそれらをどう理解しているかを評価する。成果の変遷をたどったり、成果をいくつかの段階(レベル)に区分するなど、論文の課題に即した形で把握が試みられ、論文の課題へと関連付けた形で把握されることが望ましい。					
課題の設定と論旨構成	課題の設定	課題は著しく具体性を欠き、抽象的である。	具体的な課題は概ね設定できているが、先行研究との関連付けに問題が残る。	課題は具体的であり、先行研究の整理との関連付けもできている。	新規性を備えた具体的な課題が、先行研究の整理をふまえて設定できている。
	論旨構成	構成が不十分で、論旨も論理性を欠く。	構成は十分とはいえないが、論旨は概ね論理的である。	構成は概ね妥当で、論旨も論理的である。	構成は十分で、論旨も論理的である。
論文における問い(課題設定)がどのようになされているかを評価する。先行研究が抱える問題と論文での問いが関連付けられ、論文の論旨構成へとどのように反映されているかを評価する。先行研究の課題を適切に切り分け、論文の問いへと帰納的に接続できていることが望ましい。					
史資料の収集と理解・原典の理解	史資料の収集	行論に必要な最低限の史資料が収集できていない。	史資料の収集は一部に止まる。	行論に必要な史資料が概ね収集できている。	新たな史資料を含み行論に係る史資料が広く収集できている。
	原典および史資料の理解	原典・史資料が十分に理解されておらず実証に用いることができていない。	原典・史資料は概ね理解できているが、実証は限定的である。	原典・史資料の理解は妥当で、概ね実証へとつなげられている。	高度な原典・史資料の理解に基づき実証へとつなげられている。
論文中で展開される実証作業を支える史資料について、どれほどの史資料が収集されたか、また史資料の理解の度合いを評価する。さらに、文学研究の基本である、原典の理解の度合いを評価する。					
典拠と実証	実証と結論づけ	史資料(典拠)に基づいた結論づけが十分にできていない。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが一部に止まる。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが概ねできている。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが高いレベルで達成できている。
	結論の妥当性	結論が著しく妥当性を欠いている。	結論の一部が妥当性を欠いている。	結論は概ね妥当である。	結論は妥当で、新規性を備えている。
論文中で展開される実証作業において、史資料の分析から結論へと論理的に妥当であるか、また論理の飛躍、根拠のない結論づけ、過度の推測などはないかを評価する。					
総合評価	博士論文としての完成度	著しく完成度が低い。	完成度として一部に問題がある。	概ね良好な完成度に達している。	高い完成度に達している。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

I 教育理念など 学位授与基準

歴史学専攻

文学研究科／歴史学専攻 学位授与基準 <修士課程>

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文ないしは課題研究を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマを明示し、そのテーマが研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマに関して独創的見解を含んでいること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。
5. 課題研究については、以下の要件のうち3件以上を満たしていること。
 - (1) 自身の経験や実践に基づいてテーマを設定し、そのテーマが学術的意義を有していること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) 研究成果を適切な方法で提示していること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了
学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士
後期
課程

単
位
互換
制度

免許
状
資格
取得

通信
課程
聴講
履修

規
程

各
種
届
出
書

文学研究科 歴史学専攻 修士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
先行研究の収集と整理	先行研究のリストアップ	通説を形成する主要な先行研究が把握できていない。	通説を形成する主要な先行研究は把握できている。	主要な先行研究に加え一部関連するものも含み把握できている。	主要な先行研究、関連する研究が幅広く課題に関連づけられ把握できている。
	先行研究の理解と整理	先行研究が十分に理解されておらず、問題点の指摘も不十分である。	先行研究が概ね理解できてはいるが、問題点(課題)の指摘は限定的である。	先行研究が十分に理解されているが、問題点の指摘との関連づけに不十分さが残る。	先行研究の内容が高度に理解されており、研究テーマと関連付いた形で整理できている。
<p>修士論文で取り扱う課題に関して、通説を形成している先行研究をどの程度把握し、またそれらをどう理解しているかを評価する。成果の変遷をたどったり、成果をいくつかの段階(レベル)に区分するなど、論文の課題に即した形で把握が試みられ、論文の課題へと関連付けた形で把握されることが望ましい。</p>					
課題の設定と論旨構成	課題の設定	課題は著しく具体的性を欠き、抽象的である。	具体的な課題は概ね設定できているが、先行研究との関連づけに問題が残る。	課題は具体的であり、先行研究の整理との関連付けもできている。	新規性を備えた具体的な課題が、先行研究の整理をふまえて設定できている。
	論旨構成	構成が不十分で、論旨も論理性を欠く。	構成は十分とはいえないが、論旨は概ね論理的である。	構成は概ね妥当で、論旨も論理的である。	構成は十分で、論旨も論理的である。
<p>論文における問い(課題設定)がどのようになされているか、また先行研究が抱える問題と論文での問いが関連付けられ、論文の論旨構成へとどのように反映されているかを評価する。先行研究の課題を適切に切り分け、論文の問いへと帰納的に接続できていることが望ましい。</p>					
史資料の収集と理解	史資料の収集	行論に必要な最低限の史資料が収集できていない。	史資料の収集は一部に止まる。	行論に必要な史資料が概ね収集できている。	新たな史資料を含み行論に係る史資料が広く収集できている。
	史資料の理解	史資料が十分に理解されておらず実証に用いることができていない。	史資料は概ね理解できているが、実証は限定的である。	史資料の理解は妥当で、概ね実証へとつなげられている。	高度な史資料の理解に基づき実証へとつなげられている。
<p>論文中で展開される実証作業を支える史資料について、どれほどの史資料が収集されたか、また史資料の理解の度合いを評価する。</p>					
典拠と実証	実証と結論づけ	史資料(典拠)に基づいた結論づけが十分にできていない。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが一部に止まる。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが概ねできている。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが高いレベルで達成できている。
	結論の妥当性	結論が著しく妥当性を欠いている。	結論の一部が妥当性を欠いている。	結論は概ね妥当である。	結論は妥当で、新規性を備えている。
<p>論文中で展開される実証作業において、史資料の分析から結論へと論理的に妥当であるか、また論理の飛躍、根拠のない結論付け、過度の推測などはないかを評価する。</p>					
総合評価	修士論文としての完成度。	著しく完成度が低い。	完成度として一部に問題がある。	概ね良好な完成度に達している。	高い完成度に達している。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

I 教育理念など 学位授与基準

文学研究科 歴史学専攻 修士課題研究ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
先行研究の収集と整理	先行研究のリストアップ	通説を形成する主要な先行研究が把握できていない。	通説を形成する主要な先行研究は把握できている。	主要な先行研究に加え一部関連するものも含み把握できている。	主要な先行研究、関連する研究が幅広く課題に関連づけられ把握できている。
	先行研究の理解と整理	先行研究が十分に理解されておらず、問題点の指摘も不十分である。	先行研究が概ね理解できてはいるが、問題点(課題)の指摘は限定的である。	先行研究が十分に理解されているが、問題点の指摘との関連づけに不十分さが残る。	先行研究の内容が高度に理解されており、研究テーマと関連付いた形で整理できている。
<p>課題研究で取り扱う課題に関して、通説を形成している先行研究をどの程度把握し、またそれらをどう理解しているかを評価する。成果の変遷をたどったり、成果をいくつかの段階(レベル)に区分するなど、課題に即した形で把握が試みられ、課題へと関連付けた形で把握されることが望ましい。</p>					
課題の設定と論旨構成	課題の設定	課題が自身の経験や実践に基づいていない。	自身の経験や実践に基づいて課題が設定できているが、学術的意義には疑問が残る。	自身の経験や実践に基づいて課題が設定できており、一定の学術的意義がある。	自身の経験や実践に基づいて課題が設定できており、十分な学術的意義がある。
	論旨構成	構成が不十分で、論旨も論理性を欠く。	構成は十分とはいえないが、論旨は概ね論理的である。	構成は概ね妥当で、論旨も論理的である。	構成は十分で、論旨も論理的である。
<p>課題研究における問い(課題設定)がどのようになされているか、また自身の経験や実践を通じて得られた問題意識と課題研究での問いが関連付けられ、論旨構成へとどのように反映されているかを評価する。</p>					
史資料の収集と理解	史資料の収集	行論に必要な最低限の史資料が収集できていない。	史資料の収集は一部に止まる。	行論に必要な史資料が概ね収集できている。	新たな史資料を含み行論に係る史資料が広く収集できている。
	史資料の理解	史資料が十分に理解されておらず実証に用いることができていない。	史資料は概ね理解できているが、実証は限定的である。	史資料の理解は妥当で、概ね実証へとつなげられている。	高度な史資料の理解に基づき実証へとつなげられている。
<p>課題研究中で展開される実証作業を支える史資料について、どれほどの史資料が収集されたか、また史資料の理解の度合いを評価する。</p>					
典拠と実証	実証と結論づけ	史資料(典拠)に基づいた結論づけが十分にできていない。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが一部に止まる。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが概ねできている。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが高いレベルで達成できている。
	結論の妥当性	結論が著しく妥当性を欠いている。	結論の一部が妥当性を欠いている。	結論は概ね妥当である。	結論は妥当で、新規性を備えている。
<p>課題研究中で展開される実証作業において、史資料の分析から結論へと論理的に妥当であるか、また論理の飛躍、根拠のない結論付け、過度の推測などはないかを評価する。</p>					
総合評価	課題研究としての完成度	著しく完成度が低い。	完成度として一部に問題がある。	概ね良好な完成度に達している。	高い完成度に達している。

- 教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー
- 学位授与基準
- 履修一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了学位の取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位互換制度
- 免許状資格取得
- 通信課程聴講履修
- 規程
- 各種届書

文学研究科／歴史学専攻 学位授与基準 <博士後期課程>

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマを明示し、そのテーマが研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマが独創的であり、学界に寄与する内容を持っていること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 学位授与基準

文学研究科 歴史学専攻 博士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
先行研究の収集と整理	先行研究のリストアップ	通説を形成する主要な先行研究が把握できていない。	通説を形成する主要な先行研究は把握できている。	主要な先行研究に加え一部関連するものも含み把握できている。	主要な先行研究、関連する研究が幅広く課題に関連づけられ把握できている。
	先行研究の理解と整理	先行研究が十分に理解されておらず、問題点の指摘も不十分である。	先行研究が概ね理解できてはいるが、問題点(課題)の指摘は限定的である。	先行研究が十分に理解されているが、問題点の指摘との関連づけに不十分が残る。	先行研究の内容が高度に理解されており、研究テーマと関連付いた形で整理できている。
博士論文で取り扱う課題に関して、通説を形成している先行研究をどの程度把握し、またそれらをどう理解しているかを評価する。成果の変遷をたどったり、成果をいくつかの段階(レベル)に区分するなど、論文の課題に即した形で把握が試みられ、論文の課題へと関連付けた形で把握されることが望ましい。					
課題の設定と論旨構成	課題の設定	課題は著しく具体的性を欠き、抽象的である。	具体的な課題は概ね設定できているが、先行研究との関連づけに問題が残る。	課題は具体的であり、先行研究の整理との関連付けもできている。	新規性を備えた具体的な課題が、先行研究の整理をふまえて設定できている。
	論旨構成	構成が不十分で、論旨も論理性を欠く。	構成は十分とはいえないが、論旨は概ね論理的である。	構成は概ね妥当で、論旨も論理的である。	構成は十分で、論旨も論理的である。
論文における問い(課題設定)がどのようになされているかを評価する。先行研究が抱える問題と論文での問いが関連付けられ、論文の論旨構成へとどのように反映されているかを評価する。先行研究の課題を適切に切り分け、論文の問いへと帰納的に接続できていることが望ましい。					
史資料の収集と理解	史資料の収集	行論に必要な最低限の史資料が収集できていない。	史資料の収集は一部に止まる。	行論に必要な史資料が概ね収集できている。	新たな史資料を含み行論に係る史資料が広く収集できている。
	史資料の理解	史資料が十分に理解されておらず実証に用いることができていない。	史資料は概ね理解できているが、実証は限定的である。	史資料の理解は妥当で、概ね実証へとつなげられている。	高度な史資料の理解に基づき実証へとつなげられている。
論文中で展開される実証作業を支える史資料について、どれほどの史資料が収集されたか、また史資料の理解の度合いを評価する。					
典拠と実証	実証と結論づけ	史資料(典拠)に基づいた結論づけが十分にできていない。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが一部に止まる。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが概ねできている。	史資料(典拠)に基づいた結論づけが高いレベルで達成できている。
	結論の妥当性	結論が著しく妥当性を欠いている。	結論の一部が妥当性を欠いている。	結論は概ね妥当である。	結論は妥当で、新規性を備えている。
論文中で展開される実証作業において、史資料の分析から結論へと論理的に妥当であるか、また論理の飛躍、根拠のない結論付け、過度の推測などはないかを評価する。					
総合評価	博士論文としての完成度。	著しく完成度が低い。	完成度として一部に問題がある。	概ね良好な完成度に達している。	高い完成度に達している。

- 教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー
- 学位授与基準
- 履修一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了学位取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位互換制度
- 免許状資格取得
- 通信課程聴講履修
- 規程
- 各種届書

教育学研究科

生涯教育専攻

教育学研究科／生涯教育専攻 学位授与基準 <修士課程>

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定理由が明確で、研究に一定の意義が認められること。
 - (2) テーマに関する先行研究を十分にふまえていること。
 - (3) 自己の研究の位置づけが明確で、オリジナリティをもっていること。
 - (4) 文献資料や調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析が妥当であること。
 - (5) 論旨が明確で、整合性と一貫性があり、説得力をもっていること。
 - (6) 「佛教大学研究倫理指針」「佛教大学研究公正管理規程」および「佛教大学『人を対象とする研究』倫理規程」を遵守していること。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 学位授与基準

教育学研究科 生涯教育専攻 修士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
テーマ設定	テーマ設定の明確性	テーマ設定が不明確である。	テーマ設定がやや不明確である。	テーマ設定が概ね明確である。	テーマ設定が明確である。
	テーマの意義	研究の意義が不明確である。	研究の意義がやや不明確である。	教育の研究・実践に還元される意義が認められる。	教育の研究・実践に還元される意義が十分に認められる。
テーマの設定理由が明確で、研究に一定の意義が認められる。					
先行研究の検討	先行研究の把握と整理	先行研究の把握・整理がなされていない。	先行研究の把握はなされているが、十分に網羅されていないといえない。	先行研究が概ね把握・整理されている。	国内外における主要な先行研究を把握・整理し、批判的に位置づけている。
テーマに関する先行研究を十分にふまえていること					
位置づけの明確性	研究の位置づけの明確性	研究の位置づけが不明確である。	研究の位置づけがやや不明確である。	研究の位置づけが概ね明確である。	研究の位置づけが明確である。
	オリジナリティ	オリジナリティがない。	オリジナリティがあまり認められない。	オリジナリティが認められる。	十分なオリジナリティがある。
自己の研究の位置づけが明確で、オリジナリティをもっていること。					
研究の手続き、資料、データの取り扱い、および解釈と分析の妥当性	研究の手続き、資料、データの取り扱いの適切性	研究の手続き、資料やデータの扱いが適切でない。	研究の手続き、資料やデータの扱いにやや問題がある。	研究の手続き、資料やデータが概ね適切に扱われている。	研究の手続き、資料やデータの扱いが適切である。
	解釈や分析の妥当性	解釈や分析が妥当とはいえない。	解釈や分析にやや問題がある。	解釈や分析が概ね妥当である。	解釈や分析が妥当である。
文献資料や調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析が妥当であること(「佛教大学研究倫理指針」、「佛教大学研究公正管理規程」および「佛教大学『人を対象とする研究』倫理規程」を遵守しているかどうかはここで評価する)。					
論旨の明確性	論旨の明確性、整合性、一貫性	論旨が不明確で、整合性と一貫性が欠けている。	論旨の明確性、整合性、一貫性にやや問題がある。	論旨に一定の明確性、整合性、一貫性がある。	結果・結論が十分に明確であり、論旨に整合性と一貫性がある。
	論旨の説得力	論旨に説得力がない。	論旨の説得力が足りない。	論旨に一定の説得力が認められる。	複眼的な思考を経たうえで、なおかつ論旨に説得力がある。
総合評価	修士論文としての完成度	著しく完成度が低い。	完成度の一部に問題がある。	概ね良好な完成度である。	高い完成度である。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種書

教育学研究科／生涯教育専攻 学位授与基準 <博士後期課程>

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定理由が明確で、研究に十分な意義が認められること。
 - (2) テーマに関する先行研究を十分にふまえていること。
 - (3) 自己の研究の位置づけが明確で、オリジナリティをもっていること。
 - (4) 文献資料や調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析が妥当であること。
 - (5) 論旨が明確で整合性と一貫性があり、説得力をもっていること。
 - (6) 「佛教大学研究倫理指針」「佛教大学研究公正管理規程」および「佛教大学『人を対象とする研究』倫理規程」を遵守していること。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 学位授与基準

教育学研究科 生涯教育専攻 博士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
テーマ設定	テーマ設定の明確性	テーマ設定が不明確である。	テーマ設定がやや不明確である。	テーマ設定が明確である。	テーマ設定がきわめて明確である。
	テーマの意義	研究の意義が不明確である。	研究の意義がやや不明確である。	教育の研究・実践に還元される意義が認められる。	教育の研究・実践に還元される意義が十分に認められる。
テーマの設定理由が明確で、研究に十分な意義が認められる。					
先行研究の検討	先行研究の把握と整理	先行研究の把握・整理がなされていない。	先行研究の把握はなされているが、十分に網羅されていとはいえない。	国内外における主要な先行研究を把握・整理し、批判的に位置づけている。	国内外における先行研究において、主要なもののみならず網羅的に把握・整理し、批判的に位置づけている。
		テーマに関する先行研究を十分にふまえていること			
位置づけの明確性	研究の位置づけの明確性	研究の位置づけが不明確である。	研究の位置づけがやや不明確である。	研究の位置づけが概ね明確である。	研究の位置づけが明確である。
	オリジナリティ	オリジナリティがない。	オリジナリティがあまり認められない。	オリジナリティが認められる。	十分なオリジナリティがある。
自己の研究の位置づけが明確で、オリジナリティをもっていること。					
研究の手続き、資料・データの取り扱い、および解釈と分析の妥当性	研究の手続き、資料・データの取り扱いの適切性	研究の手続き、資料やデータの扱いが適切でない。	研究の手続き、資料やデータの扱いにやや問題がある。	研究の手続き、資料やデータの扱いが適切である。	研究の手続き、資料やデータの扱いが十分に適切である。
	解釈や分析の妥当性	解釈や分析が妥当とはいえない。	解釈や分析にやや問題がある。	解釈や分析が妥当である。	解釈や分析がすぐれている。
文献資料や調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析が妥当であること(「佛教大学研究倫理指針」、「佛教大学研究公正管理規程」および「佛教大学『人を対象とする研究』倫理規程」を遵守しているかどうかはここで評価する)。					
論旨の明確性	論旨の明確性、整合性、一貫性	論旨が不明確で、整合性と一貫性が欠けている。	論旨の明確性、整合性、一貫性にやや問題がある。	論旨に一定の明確性、整合性、一貫性がある。	論旨が十分に明確で、整合性と一貫性がある。
	論旨の説得力	論旨に説得力がない。	論旨の説得力が足りない。	論旨に一定の説得力が認められる。	複眼的な思考を経たうえで、なおかつ論旨に説得力がある。
総合評価	博士論文としての完成度	著しく完成度が低い。	完成度の一部に問題がある。	概ね良好な完成度である。	高い完成度である。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種届出書

臨床心理学専攻

教育学研究科／臨床心理学専攻 学位授与基準 <修士課程>

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定理由が明確で、研究に一定の意義が認められること。
 - (2) テーマに関連する先行研究を十分にふまえていること。
 - (3) 自己の研究の位置づけが明確で、オリジナリティをもっていること。
 - (4) 文献資料や調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析が妥当であること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 学位授与基準

教育学研究科 臨床心理学専攻 修士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
テーマ設定	テーマ設定の明確性	テーマ設定が不明確である。	テーマ設定がやや不明確である。	テーマ設定が概ね明確である。	テーマ設定が明確である。
	テーマの意義	研究の意義が不明確である。	研究の意義がやや不明確である。	研究の意義が概ね明確である。	研究の意義が明確である。
テーマの設定理由が明確で、研究に一定の意義が認められる。					
先行研究の検討	先行研究の把握	先行研究が把握されていない。	先行研究の把握が十分でない。	先行研究が概ね把握されている。	先行研究が十分に把握されている。
	先行研究の理解と整理	先行研究の理解と整理が足りない。	先行研究の理解と整理が十分でない。	先行研究の理解と整理が概ねなされている。	先行研究の理解と整理が十分になされている。
テーマに関する先行研究を十分にふまえていること。					
位置づけの明確性	研究の位置づけの明確性	研究の位置づけが不明確である。	研究の位置づけがやや不明確である。	研究の位置づけが概ね明確である。	研究の位置づけが十分に明確である。
	オリジナリティ	オリジナリティがない。	オリジナリティがあまり認められない。	オリジナリティがやや認められる。	オリジナリティが十分ににある。
自己の研究の位置づけが明確で、オリジナリティをもっていること。					
解釈や分析の信頼性と妥当性	文献資料・実験調査データの取り扱いの適切性	資料やデータの扱いが適切でない。	資料やデータの扱いにやや問題がある	資料やデータが概ね適切に扱われている	資料やデータの扱いが十分に適切である
	解釈や分析の信頼性・妥当性	解釈や分析に信頼性・妥当性がない。	解釈や分析の信頼性・妥当性にやや問題がある。	解釈や分析に信頼性・妥当性が概ねある。	解釈や分析に十分な信頼性・妥当性がある。
文献資料や実験・調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析に信頼性・妥当性があること。					
論旨の明確性	論旨の明確性、整合性、一貫性	論旨が不明確で、整合性と一貫性が欠けている。	論旨の明確性、整合性、一貫性にやや問題がある。	論旨に一定の明確性、整合性、一貫性がある。	論旨が明確で、整合性と一貫性が十分ににある。
	論旨の説得力	論旨に説得力がない。	論旨の説得力が足りない。	論旨に一定の説得力が認められる。	複眼的な思考を経たうえで、論旨に説得力がある。
論旨が明確で、整合性と一貫性があり、説得力をもっていること。					
総合評価	修士論文としての完成度	著しく完成度が低い。	完成度の一部に問題がある。	概ね良好な完成度である。	高い完成度である
当該研究のテーマによっては、「佛教大学研究倫理指針」「佛教大学研究公正管理規程」および「佛教大学『人を対象とする研究』倫理規程」を遵守しているかどうかを含めて評価する。					

- 教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー
- 学位授与基準
- 履修一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了学位の取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位互換制度
- 免許状資格取得
- 通信課程聴講履修
- 規程
- 各種届出書

教育学研究科／臨床心理学専攻 学位授与基準 <博士後期課程>

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定理由が明確で、研究に十分な意義が認められること。
 - (2) テーマに関連する先行研究を十分にふまえていること。
 - (3) 自己の研究としてのオリジナリティをもっていること。
 - (4) 文献資料や調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析が妥当であること。
 - (5) 臨床心理学の研究論文として、提出時期の学問的レベルが維持されていること。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

I 教育理念など 学位授与基準

教育学研究科 臨床心理学専攻 博士論文ルーブリック

評価の項目	観点／評価	～C	C～B	B～A	A～S
テーマ設定	テーマ設定の明確性	テーマ設定が不明確である。	テーマ設定がやや不明確である。	テーマ設定が概ね明確である。	テーマ設定が明確である。
	テーマの意義	研究の意義が不明確である。	研究の意義がやや不明確である。	教育の研究・実践に還元される意義が認められる。	教育の研究・実践に還元される意義が十分に認められる。
テーマの設定理由が明確で、研究に十分な意義が認められる。					
先行研究の検討	先行研究の把握	先行研究の把握・整理がなされていない。	先行研究の把握はなされているが、十分に網羅されていない。	国内外における主要な先行研究を把握・整理し、批判的に位置づけている。	国内外における先行研究において、主要なもののみならず網羅的に把握・整理し、批判的に位置づけている。
		テーマに関連する先行研究を十分にふまえていること。			
位置づけの明確性	研究の位置づけの明確性	研究の位置づけが不明確である。	研究の位置づけがやや不明確である。	研究の位置づけが概ね明確である。	研究の位置づけが明確である。
	オリジナリティ	オリジナリティがない。	オリジナリティがあまり認められない。	オリジナリティが認められる。	十分なオリジナリティがある。
自己の研究の位置づけが明確で、オリジナリティをもっていること。					
解釈や分析の信頼性	文献資料、実験・調査データの取り扱いの適切性	文献資料や実験・調査データの扱いが適切でない。	文献資料や実験・調査データの扱いにやや問題がある。	文献資料や実験・調査データがほぼ適切に扱われている。	文献資料や実験・調査データの扱いが適切である。
妥当性	解釈や分析の信頼性・妥当性	解釈や分析に信頼性・妥当性がない。	解釈や分析の信頼性・妥当性にやや問題がある。	解釈や分析に信頼性・妥当性がある。	解釈や分析に十分な信頼性・妥当性がある。
文献資料や実験・調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析に信頼性・妥当性があること。					
臨床心理学の研究論文としての価値と説得力	学問レベルの達成度	学問的レベルに達していない。	学問的レベルにやや問題がある。	学問的レベルに達している。	学問的レベルに十分に達している。
	論旨の説得力	論旨に説得力がない。	論旨の説得力が足りない。	論旨に一定の説得力が認められる。	複眼的な思考を経たうえで、なおかつ論旨に十分な説得力がある。
臨床心理学の研究論文として、提出時期の学問的なレベルが維持されているか、そして論旨に説得力が認められること。					
総合評価	博士論文としての完成度	著しく完成度が低い。	完成度の一部に問題がある。	概ね良好な完成度である。	高い完成度である。
当該研究のテーマによっては、「佛教大学研究倫理指針」「佛教大学研究公正管理規程」および「佛教大学『人を対象とする研究』倫理規程」を遵守しているかどうかを含めて評価する。					

- 教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー
- 学位授与基準
- 履修一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了学位取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位互換制度
- 免許状資格取得
- 通信課程聴講履修
- 規程
- 各種届書

社会学研究科

社会学専攻

社会学研究科／社会学専攻 学位授与基準 <修士課程>

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文あるいは課題研究を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 論旨が明確であり、論理的に展開されていること。
 - (2) 先行研究の理解が十分であること。
 - (3) 文献資料の解釈、あるいはデータの処理が正確であること。
 - (4) 論文としての形式が整っていること。
5. 課題研究については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 論旨が明確であり、論理的に展開されていること。
 - (2) 課題解決の具体策、あるいは方向性を提示していること。
 - (3) 文献資料の解釈、あるいはデータの処理が正確であること。
 - (4) 論文としての形式が整っていること。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士
後期
課程

単位
互換
制度

免許
状
資格
取得

通信
課程
聴講
履修

規
程

各
種
出
書

I 教育理念など 学位授与基準

社会学研究科 社会学専攻 修士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
先行研究の収集と整理	先行研究のリストアップ	通説を形成する主要な先行研究も把握できていない。	通説を形成する主要な先行研究は把握できている。	主要な先行研究に加え一部関連するものも含み把握できている。	主要な先行研究、関連する研究が幅広く自らの課題に関連づけられ把握できている。
	先行研究の理解と整理	先行研究が十分に理解されておらず、問題点も不十分である。	先行研究が概ね理解できてはいるが、問題点(課題)の指摘は限定的である。	先行研究が十分に理解されているが、問題点の指摘との関連づけに不十分さが残る。	先行研究の内容が高度に理解されており、研究テーマと関連付いた形で整理できている。
修士論文で取り扱う課題に関して、通説を形成している先行研究をどの程度把握し、またそれらをどう理解しているかを評価する。先行研究の主要な動向を把握し、その限界を指摘し、自らの論文の課題へと関連付けることが望ましい。					
課題の設定と論旨構成	課題の設定	課題は著しく具体的性を欠き、抽象的である。	具体的な課題は概ね設定できているが、先行研究との関連づけに問題が残る。	課題は具体的であり、先行研究の整理との関連付けもできている。	新規性を備えた具体的な課題が、先行研究の整理を踏まえて設定できている。
	論旨構成	構成が不十分で、論旨も論理性を欠く。	構成は十分とはいえないが、論旨は概ね論理的である。	構成は概ね妥当で、論旨も論理的である。	構成も十分で論旨も論理的である。
論文における問い(課題設定)がどのようになされているかを評価する。先行研究が抱える問題と論文での問いが関連付けられ、論文の論旨構成へとどのように反映されているか。					
文献・資料・データの収集と理解	文献・資料・データの収集	行論に必要な文献・資料・データが十分収集できていない。	文献・資料・データの収集は一部に止まる。	行論に必要な文献・資料・データが概ね収集できている。	行論に関する文献・資料・データが広く収集できている。
	文献・資料・データの理解	文献・資料・データが十分に理解されておらず論証に用いることができていない。	文献・資料・データは概ね理解できているが、論証は限定的である。	文献・資料・データの理解は妥当で、概ね論証へとつながられている。	高度な文献・資料・データの理解に基づき論証へとつながられている。
論文中で展開される論証作業を支える文献・資料・データについて、どれほどの質と量のものが収集されたか、またその理解の度合いを評価する。					
典拠と論証	論証と結論づけ	典拠に基づいた結論づけが十分にできていない。	典拠に基づいた結論づけが一部に止まる。	典拠に基づいた結論づけが概ねできている。	典拠に基づいた結論づけが高いレベルで達成できている。
	結論の妥当性	結論が著しく妥当性を欠いている。	結論の一部が妥当性を欠いている。	結論は概ね妥当である。	結論は妥当で、しかも当該領域の研究に新たな貢献がなされている。
論文中で展開される論証作業において、資料の分析から結論への展開が論理的に妥当であるか。論理の飛躍、根拠のない結論づけ、過度の推測などはないか。					
総合評価	修士論文としての完成度	著しく完成度が低い。	完成度として一部に問題がある。	概ね良好な完成度を有する。	高い完成度に達している。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出

社会学研究科 社会学専攻 課題研究ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
課題解決の 具体策あるい は方向性の 提示	主張の根拠 の具体性	根拠が具体性に乏しく、十分な説得力が確保されていない。	根拠が概ね具体的に示されている。	根拠が具体的に示され、かついくつかの先行研究が、自らの課題に関連づけられ把握できている。	根拠が具体的に示され、かつ主要な先行研究が、自らの課題に関連づけられ把握できている。
	主張の根拠となるデータ等の解釈の妥当性	根拠となるデータ等が具体的に示されておらず、その解釈も十分な妥当性を確保されていない。	根拠となるデータ等の解釈が概ね妥当である。	根拠となるデータ等の解釈が正確かつ妥当である。	根拠となるデータ等が詳細に把握され、研究テーマと関連づけられた形で整理できている。
課題研究で取り扱う課題に関して、主張の根拠となる具体的な資料またはデータを明示しなくてはならない。また、先行研究の主要な動向を把握し、その限界を指摘し、自らの論文の課題へと関連付けることが望ましい。					
課題の設定と 論旨構成	課題の設定	課題は具体性を欠き、抽象的である。	具体的な課題は概ね設定できているが、先行研究との関連付けに問題が残る。	課題は具体的であり、先行研究の整理との関連付けもできている。	新規性を備えた具体的な課題が、先行研究の整理をふまえて設定できている。
	論旨構成	構成が不十分で、論旨も論理性を欠く。	構成は十分とはいえないが、論旨は概ね論理的である。	構成も概ね妥当で、論旨も論理的である。	構成も十分で論旨も論理的である。
論文における問い(課題設定)がどのようになされているかを評価する。先行研究が抱える問題と論文での問いが関連付けられ、論文の論旨構成へとどのように反映されているか。					
文献・資料・データ の収集と 理解	文献・資料・データの収集	行論に必要な文献・資料・データが十分収集できていない。	文献・資料・データの収集は一部に止まる。	行論に必要な文献・資料・データが概ね収集できている。	行論に関する文献・資料・データが広く収集できている。
	文献・資料・データの理解	文献・資料・データが十分に理解されておらず論証に用いることができていない。	文献・資料・データは概ね理解できているが、論証は限定的である。	文献・資料・データの理解は妥当で、概ね論証へとつながられている。	高度な文献・資料・データの理解に基づき論証へとつながられている。
論文中で展開される論証作業を支える文献・資料・データについて、どれほどの質と量のものが収集されたか、またその理解の度合いを評価する。					
典拠と論証	論証と結論づけ	典拠に基づいた結論づけが十分にできていない。	典拠に基づいた結論づけが一部に止まる。	典拠に基づいた結論づけが概ねできている。	典拠に基づいた結論づけが高いレベルで達成できている。
	結論の妥当性	結論が著しく妥当性を欠いている。	結論の一部が妥当性を欠いている。	結論は概ね妥当である。	結論は妥当で、新規性を備えている。
論文中で展開される論証作業において、資料の分析から結論への展開が論理的に妥当であるか。論理の飛躍、根拠のない結論づけ、過度の推測などはないか。					
総合評価	課題研究としての完成度	著しく完成度が低い。	完成度として一部に問題がある。	概ね良好な完成度を有する。	高い完成度に達している。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程
の
修了
学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互換
制度

免
許
状
資格
取得

通信課程
聴講履修

規
程

各
種
出
書

I 教育理念など 学位授与基準

社会学研究科／社会学専攻 学位授与基準 <博士後期課程>

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 論旨が明確であり、論理的に展開されていること。
 - (2) 独創的見解を含んでいること。
 - (3) 先行研究の理解が十分であること。
 - (4) 文献資料の解釈、あるいはデータの処理が正確であること。
 - (5) 論文としての形式が整っていること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

社会学研究科 社会学専攻 博士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
先行研究の収集と整理	先行研究のリストアップ	通説を形成する主要な先行研究が把握できていない。	通説を形成する主要な先行研究は把握できている。	主要な先行研究に加え、関連する研究も一部は把握できている。	主要な先行研究、関連する研究が幅広く課題に関連づけられ把握できている。
	先行研究の理解と整理	先行研究が十分に理解されておらず、問題点・課題も明確にされていない。	先行研究は概ね理解できているが、問題点・課題の指摘は限定的である。	先行研究は十分に理解されているが、指摘されている問題点・課題との関連づけに不十分さが残る。	先行研究の内容が高度に理解されており、研究テーマと関連づけられた形で整理できている。
博士論文で取り扱う課題に関して、通説を形成している先行研究をどの程度把握し、それらをどう理解しているかを評価する。また先行研究の主要な動向を把握し、その限界を指摘し、自らの論文の課題へと関連づけることが望ましい。					
課題の設定と論旨構成	課題の設定	課題は具体性を欠き、抽象的である。	具体的な課題は概ね設定できているが、先行研究との関連づけに問題が残る。	課題は具体的であり、先行研究の整理との関連づけもできている。	新規性を備えた具体的な課題が、先行研究の整理をふまえて設定できている。
	論旨構成	構成が不十分で、論旨も論理性を欠く。	構成は十分とはいえないが、論旨は概ね論理的である。	構成は概ね妥当で、論旨も論理的である。	構成はよく練られており、論旨も論理的である。
論文における問い(課題設定)がどのようになされているかを評価する。先行研究が抱える問題と論文での問いが関連付けられ、論文の論旨構成へとどのように反映されているか。					
文献・資料・データの収集と理解	文献・資料・データの収集	行論に必要な文献・資料・データが十分収集できていない。	文献・資料・データの収集は一部に止まる。	行論に必要な文献・資料・データが概ね収集できている。	行論に關係する文献・資料・データが広く収集できている。
	文献・資料・データの理解	文献・資料・データが十分に理解されておらず、論証に用いることができていない。	文献・資料・データは概ね理解できているが、論証は限定的である。	文献・資料・データの理解は妥当で、概ね論証へとつながられている。	高度な文献・資料・データの理解に基づいて、論証へと結びつけられている。
論文中で展開される論証作業を支える文献・資料・データについて、どれほどの質と量のものが収集されたか、またその理解の度合いを評価する。					
典拠と論証	論証と結論づけ	典拠に基づいた結論づけが十分にできていない。	典拠に基づいた結論づけが一部に止まる。	典拠に基づいた結論づけが概ねできている。	典拠に基づいた結論づけが高いレベルで達成できている。
	結論の妥当性	結論が著しく妥当性を欠いている。	結論の一部が妥当性を欠いている。	結論は概ね妥当である。	結論は妥当で、当該領域の研究に新たな貢献がなされており、しかも新規性・独創性を備えている。
論文中で展開される論証作業において、資料の分析から結論への展開が論理的に妥当であるか。論理の飛躍、根拠のない結論づけ、過度の推測などはないか。					
総合評価	博士論文としての完成度。	著しく完成度が低い。	部分的に完成度に問題がある。	概ね良好な完成度を有する。	高い完成度に達している。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単
位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規
程

各
種
届
出
書

社会福祉学研究科

社会福祉学専攻

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻 学位授与基準 <修士課程>

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマの研究の意義・目的が適切で説得力があること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマに関して独創的見解を含んでいること。
 - (4) テーマにふさわしい研究方法が採用されていること。
 - (5) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (6) 論証の内容が的確で説得力があること。
 - (7) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了単位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
設定したテーマの研究の意義・目的	研究テーマの意義・目的とテーマに関する独自の見解	研究テーマに関する社会福祉学固有の視点が十分とはいえない。研究テーマの設定の意義と目的が明確とはいえない。独創性は認められない。	社会福祉学の固有の視点を踏まえ、研究テーマが設定され、その意義と目的が説明されているものの、改善の余地がある。研究内容の独創性も十分とは言えない。	社会福祉学固有の視点をふまえて、研究テーマが設定され、研究の意義と目的が明確に説明されている。研究内容が適切で、ある程度の独創性が認められる。	社会福祉学固有の視点をふまえて、研究テーマが設定され、研究の意義と目的が十分かつ明確に説明されている。適切かつ独創性の高い研究内容である。
研究テーマに関する先行研究の把握	研究テーマに関する先行研究の把握・渉猟、関連する分野・領域の先行研究の把握	先行研究の把握が不十分である。関連する分野・領域の先行研究の把握が部分的で十分とはいえない。全体として先行研究の確認が不十分である。	先行研究にあたっては、やや不十分さが残る。関連する分野・領域の先行研究には部分的にあたっている。先行研究の到達点の確認に不十分さが残る。	先行研究に幅広くあたっており、関連する分野・領域の先行研究にもあっている。先行研究の到達点と課題を把握している。	先行研究の渉猟が幅広くかつ系統的であり、関連する分野・領域にわたって先行研究にあたっている。先行研究の到達点と課題を的確に把握し、独自性・独創性の高い研究を遂行している。
研究テーマにふさわしい研究方法の採用	認識—実践—評価の研究過程・活動をふまえた科学的な研究方法と研究テーマとの関連における適切さ	認識—実践—評価の研究過程が考慮されておらず、研究方法と研究テーマとの関連があいまいで、不十分である。	科学的な認識—実践—評価の研究過程を考慮しているが、徹底してはいえない。一定の研究方法をとっているが、研究テーマとの関連では、不十分さが残る。	科学的な認識—実践—評価の研究過程の活動をふまえて研究方法を導いている。研究テーマにふさわしい、具体的な研究方法をとっている。	科学的な認識—実践—評価の研究過程にもとづき研究方法を明確にしている。研究テーマにふさわしい、具体的に適切な研究方法をとっている。
論旨の明確さ、整合性と一貫性。的確で説得力のある論証内容	論文構成、明確な論旨、その整合性と一貫性。的確で説得力のある論証	論文構成の系統性の点で課題がある。論旨の整合性と一貫性に課題が残る。論証の説得力について、さらなる努力が必要である。	系統的な論文構成になるよう、努力しており、論文内容については整合性と一貫性をもちたせるよう努力しているが、改善の余地がある。説得力のある論証になるよう努力しているが、論理性を高めるには、さらに努力が必要である。	論文の構成が系統的で、論文内容に整合性と一貫性があり、説得力のある論証がなされている。論理性が高い。	論文の構成は系統的で論文内容に整合性と一貫性があり、的確で説得力のある論証がなされている。論理性にも優れている。
文献資料の解釈が正確か		文献資料の正確な解釈に課題がある。	文献資料の正確な解釈に課題が残るが、研究テーマを損ねるものではない。	文献資料を正確に解釈している。	文献資料を十分に正確に解釈している。
総合評価	修士論文としてのDP学位授与基準の達成	達成しているとはいえない。	達成している。	十分に達成している。	十分に達成しており、期待以上の到達である。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種出書

I 教育理念など 学位授与基準

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻 学位授与基準 <博士後期課程>

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 本研究科の「学位請求論文審査要領」に定める「学位論文提出基準」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
4. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマの研究の意義・目的が適切で説得力があること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマが独創的であり、学界に寄与する内容を持っていること。
 - (4) テーマにふさわしい研究方法が採用されていること
 - (5) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (6) 論証の内容が的確で説得力があること。
 - (7) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科課程の
修了学位
の取得文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科単
位
互換
制度免
許
状
資格
取得通
信
課程
聴講
履修規
程各
種
届
出
書

社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士論文ルーブリック

評価の項目	観点/評価	～C	C～B	B～A	A～S
設定したテーマの研究の意義・目的	研究テーマの意義・目的とテーマに関する独自の見解	研究テーマに関する社会福祉学固有の視点が十分とはいえない。研究テーマの設定の意義と目的が明確とはいえない。独創性は認められない。	社会福祉学の固有の視点を踏まえて研究テーマが設定され、その意義と目的が説明されているものの、改善の余地がある。研究内容の独創性も十分とは言えない。	社会福祉学固有の視点をふまえて、研究テーマが設定され、研究の意義と目的が明確に説明されている。研究内容が適切で、ある程度の独創性が認められる。	社会福祉学固有の視点をふまえて、研究テーマが設定され、研究の意義と目的が十分かつ明確に説明されている。適切かつ独創性の高い研究内容である。
研究テーマに関する先行研究の把握	研究テーマに関する先行研究の把握・渉猟、関連する分野・領域の先行研究の把握	先行研究の把握が不十分である。関連する分野・領域の先行研究の把握が部分的で十分とはいえない。全体として先行研究の確認が不十分である。	先行研究にあたっては、やや不十分さが残る。関連する分野・領域の先行研究には部分的にあたっている。先行研究の到達点の確認に不十分さが残る。	先行研究に幅広くあたっており、関連する分野・領域の先行研究にもあたっている。先行研究の到達点と課題を把握している。	先行研究の渉猟が幅広くかつ系統的であり、関連する分野・領域にわたって先行研究にあたっている。先行研究の到達点と課題を的確に把握し、独自性・独創性の高い研究を遂行している。
研究テーマにふさわしい研究方法の採用	認識—実践—評価の研究過程・活動をふまえた科学的な研究方法と研究テーマとの関連における適切さ	認識—実践—評価の研究過程が考慮されておらず、研究方法と研究テーマとの関連があいまいで、不十分である。	科学的な認識—実践—評価の研究過程を考慮しているが、徹底してはいえない。一定の研究手法をとっているが、研究テーマとの関連では、不十分さが残る。	科学的な認識—実践—評価の研究過程をふまえて研究方法を導いている。研究テーマにふさわしい、具体的な研究方法をとっている。	科学的な認識—実践—評価の研究過程にもとづき研究方法を明確にしている。研究テーマにふさわしい、具体的に適切な研究方法をとっている。
論旨の明確さ、整合性と一貫性。的確で説得力のある論証内容	論文構成、明確な論旨、その整合性と一貫性。的確で説得力のある論証	論文構成の系統性の点で課題がある。論旨の整合性と一貫性に課題が残る。論証の説得力について、さらなる努力が必要である。	系統的な論文構成になるよう論文内容については整合性と一貫性をもたせるよう努力しているが、改善の余地がある。説得力のある論証になるよう努力しているが、論理性を高めるには、さらに努力が必要である。	論文の構成が系統的で、論文内容に整合性と一貫性があり、説得力のある論証がなされている。論理性が高い。	論文の構成は系統的で、論文内容に整合性と一貫性があり、的確で説得力のある論証がなされている。論理性にも優れている。
文献資料の解釈が正確か		文献資料の正確な解釈に課題がある。	文献資料の正確な解釈に課題が残るが、研究テーマを損ねるものではない。	文献資料を正確に解釈している。	文献資料を十分正確に解釈している。
総合評価	博士論文としてのDP学位授与基準の達成	達成しているとはいえない。	達成している。	十分に達成している。	十分に達成しており、期待以上の到達である。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

II

履修要項

1. 履修一般事項

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

履修一般事項

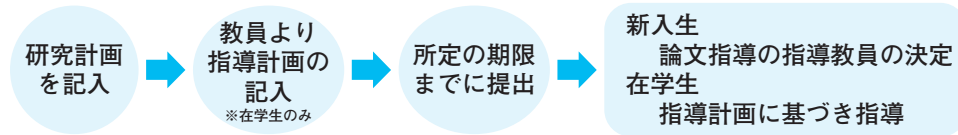
研究指導

研究指導は、論文の作成を目指し、各専攻領域の専門性を探るため、専攻ごとに複数教員により指導が行われます。

研究計画と指導教員

「研究指導計画書」(巻末の所定用紙)に在学中に研究するテーマ等を記入し、毎年度4月15日までに提出します(秋学期復学者は9月末日)。

新入生は研究予定テーマの内容により論文指導の指導教員が決定されます。



セメスター制

セメスター(学期)制とは、15週(6カ月)を単位に1年を春学期と秋学期に分け、学期ごとに履修登録から単位認定までを完結させる制度です。

① ポイント!

本学では修得単位に関わらず**自動的に進級**します。修業年限と在学可能年数は以下の通りです。

- 修士課程は2年です。また、休学期間を除き、大学に4ヵ年を超えて在学することはできません。
- 博士後期課程は3年です。また、休学期間を除き、大学に6ヵ年を超えて在学することはできません。

履修登録

履修登録とは、自身の学修計画にもとづいた授業を受けるため、最初に行う手続きです。履修登録は、定められた期間および方法以外で行うことはできません。

したがって、オリエンテーション中のガイダンスには必ず出席し、各専攻の指導や指示事項、シラバスおよび本書の内容をもれなく確認することが大切です。

なお、履修登録を行わないと単位認定されません。

履修登録の留意事項

- 履修登録期間以外の登録や定められた方法以外での登録は受け付けません。
- 履修登録・修正期間を過ぎると科目の追加・取消は認められません。
- 病気または事故などで、期間中に登録できない場合は、学生支援課に連絡し、その指示にしたがってください。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

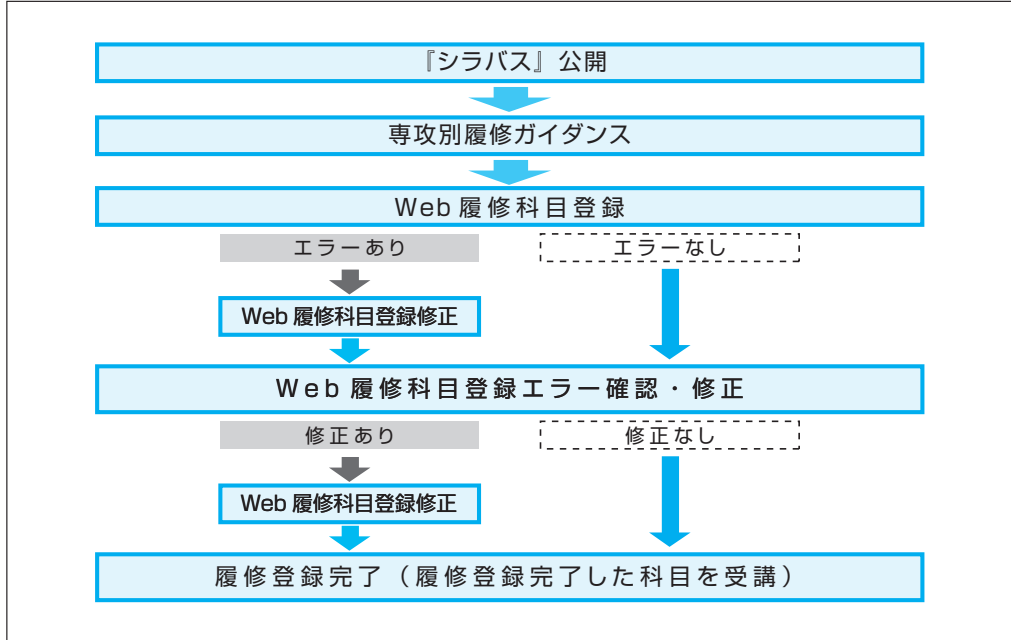
通信課程聴講履修

規程

各種出書

II 履修要項 履修一般事項

履修登録の流れ



履修登録の流れ	オリエンテーション期間中の行事等	行事等の概要
学修の計画	『シラバス』公開	・『シラバス』をもとに学修計画を立てる
履修登録の手続き	専攻別履修ガイダンス	・クラス指定表等の資料が配付される ・各専攻からの注意事項等の説明がある
	Web履修科目登録	・専攻別履修ガイダンスでの指導内容に基づき、自身で学修計画を修正する ・B-netで履修する科目の登録を行う
履修登録状況の確認	Web履修科目登録エラー確認・修正	・指定日時以降にB-netで履修登録した科目にエラーがないかを確認する ・エラー修正や科目変更は、期限までにB-netで履修科目登録修正を行う ・自身で登録した科目と相違なく、エラー表示もなければ履修登録完了
履修登録の完了	—————	・履修登録した授業に出席することができる ・授業教室はB-netで確認することができる

オリエンテーション期間中の行事日については、別途B-netにてお知らせします。秋学期のオリエンテーション期間中に実習等(公欠)の期間が含まれる場合は、別途指示される内容にしたがうようにしてください。ただし、公欠に該当しない理由でのオリエンテーション行事欠席については、一切認められません。したがって、欠席による不利益については、各自の責任となりますので、スケジュール管理には十分に注意してください。

※学部授業科目はB-netで履修登録できません。

授業科目と開講科目

「授業科目」と「開講科目」の関係は、履修すべき科目が「授業科目」であり、その授業科目を実際に授業として実施する科目が「開講科目」となります。

「授業科目」と「開講科目」の関係は次のとおりです。

学期中に授業を受けている間の科目名称は、開講科目が用いられますが、授業が終了し、単位を修得したものが成績表に記載されるのは授業科目となります。

(例)

授業科目	開講科目	備考
仏教学演習 I	仏教学演習 I H a	「H」は春学期開講を示します。「a」はクラス名を示します。
	仏教学演習 I A	「A」は秋学期開講を示します。
	仏教学演習 I S	「S」は集中講義日開講を示します。

※「仏教学演習 I H a」、「仏教学演習 I A」、「仏教学演習 I S」は同じ授業科目です。

シラバス

開講科目の授業テーマ・内容、到達目標や成績評価の基準、使用するテキストなど、授業に関する詳細な情報が書かれたものです。開講学期や曜日・講時、科目担当者も掲載されています。シラバスで科目の内容を必ず事前に確認し、学修計画を立ててください。シラバスはB-netより閲覧が可能です。

シラバスは、学期途中であってもやむを得ない事情により変更される場合があります。定期的に確認してください。

シラバスに掲載されている内容

授業のテーマ、授業の概要、授業の目的・ねらい、到達目標、毎回の授業のテーマ・内容、科目の概要、個人パソコンの持参、課題に対するフィードバック、授業時間外の学修についての具体的な指示、活用する授業方法、受講にあたっての留意事項、成績評価の基準、テキスト、参考文献 など

シラバス確認の際は以下の点に注意してください。

- ・ B-netでは全ての科目のシラバス検索が可能です。したがって、履修できない科目やクラスも表示されます。
- ・ テキストの購入前には最新のシラバスにて、使用テキストを確認してください。

Ⅱ 履修要項 履修一般事項

科目ナンバリング (大学院)

1. 科目ナンバリングとは

本学では、科目の属性や授業方法や、難易度を明示し、より順次的で段階的な研究計画を立てることを目的に全開講科目に科目ナンバーを付与しています。

2. 科目ナンバリングの見方

(例)mhi01-1001-ocAC6の場合、以下のような意味となります。

mhi 01 - 1 001 - oc AC 6
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
 修士課程 専攻科目 履修推奨 通し番号 対面授業 演習科目 難易度6
 歴史学専攻 セメスター

① [科目所属研究科・専攻]

本学で開講している科目を開講している研究科・専攻を示しています。

研究科	専攻	コード
文学研究科 修士課程	仏教学専攻	mbu
	文学専攻 (共通)	mlu
	文学専攻 (日本文学系)	mlj
	文学専攻 (中国文学系)	mlc
	文学専攻 (英米文学系)	mle
教育学研究科 修士課程	歴史学専攻	mhi
	生涯教育専攻	med
社会学研究科 修士課程	臨床心理学専攻	mcl
	社会学専攻	mso
社会福祉学研究科 修士課程	社会学専攻	mwe
文学研究科 博士後期課程	社会学専攻	pbu
	文学専攻	pli
	歴史学専攻	phi
教育学研究科 博士後期課程	生涯教育専攻	ped
	臨床心理学専攻	pcl
社会学研究科 博士後期課程	社会学専攻	pso
社会福祉学研究科 博士後期課程	社会学専攻	pwe

② [科目区分]

その科目を開講するカリキュラムの中で、どの区分に配置されている科目かを示します。

区分	コード
専攻科目	01
関連科目	02

③ [履修推奨セメスター]

学部では順次的な履修を促すため、履修推奨セメスターを指定していますが、修士課程の研究指導演習以外の科目においては、自律的に研究を進めてもらうことを目的に、履修推奨セメスターを設けず「1」を指定しています。

④ [ナンバー]

カリキュラム表の科目区分における通し番号です。

⑤ [授業形態]

対面授業や遠隔授業といった授業形態を示します。

授業形態	コード
対面授業	oc
遠隔授業（オンデマンド）	ol
遠隔授業（同時双方向）	in
対面授業と遠隔授業（オンデマンド）のハイブリッド	hb
対面授業と遠隔授業（同時双方向）が選択できるハイフレックス	hf
その他	ot

⑥ [授業方法]

各科目がどのような授業方法で実施されるのかを示しています。科目によっては、複数の授業方法を織り交ぜて実施している科目もありますが、その場合は、主な授業方法を示しています。

授業方法	教授法	コード
講義	主に教員が知識や情報の伝達を目的に講演する教授法	LE
講読	書物や論文を学問的に正確に読解し学ぶ教授法	RE
演習・実験・実技	実験・演習・フィールドワークなど、座学ではなくディスカッションや作業を通じて学ぶ教授法	AC
実習	法令上規定された病院実習、施設実習など、学外施設で学ぶ科目	PR
研究指導演習	修士論文・博士論文の研究指導演習	RW

⑦ [難易度]

各科目のカリキュラム上の難易度を示しています。この情報を参考に、体系的な履修計画を立ててください。ただし、基礎的な内容だからといって、単位修得が容易な訳ではありません。

難易度	基準	コード
基礎的な内容	修士課程の研究の基礎となる科目です。1年生で履修することを推奨します。	5
発展的な内容	修士課程の発展的レベルの科目です。1・2年次で履修することを推奨します。基礎をかためた上で履修することが理想的です。主に演習・研究・実習科目でより研究を深めることを目的とした科目です。	6
高度な内容	修士課程・博士後期課程の研究成果となる論文を指導する研究指導演習を指します。	7

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士後
期課程

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

II 履修要項 履修一般事項

学部授業科目の履修

修士論文作成や免許・資格を取得する目的のために学部授業科目(スポーツ理論・スポーツ実技、ICTリテラシー以外の共通教養科目を除く)を履修することができます。

なお、学部授業科目の履修を行うためには、巻末の「学部授業科目の聴講願」に必要事項を記入し所属の専攻主任、指導教員の指導・承認(押印)を得てから、オリエンテーション期間中の提出期限までに学生支援課へ提出し許可を得なければなりません。

また、1セメスターで16単位を超えて履修することはできません。(浄土宗教師資格取得目的の場合は除く)

「学部授業科目の聴講願」に記入



所属の専攻主任、指導教員の指導・承認(押印)



オリエンテーション期間中の提出期限までに学生支援課へ提出

※B-netで履修登録はできません。

通信教育課程の科目の履修

通信教育課程の専門科目の履修および免許科目の履修(併修履修)をすることができます。

詳細は、専門科目の履修については「通信教育課程聴講履修制度」(p.156)を、免許科目の履修(併修履修)については「通信教育課程との併修履修制度(免許併修)」(p.154)を確認してください。

履修登録状況の確認

履修登録手続き後は、オリエンテーション期間中、B-netの「学生時間割表」に、履修登録を行った科目が正しく登録されているかを必ず確認してください。「学生時間割表」で確認された登録間違いやエラーは、オリエンテーション期間中の指定された「履修科目登録修正期間」に登録修正が必要です。必ず「学生時間割表」を閲覧し、各自で責任を持って確認してください。

●エラー記載がなくても、履修登録状況の確認は、必ず各自で責任を持って行ってください。

履修取消し制度

「授業内容が想定していたものと異なっていた」、「授業についていけるだけの知識が不足していた」など、そのままでは単位を修得することが難しいと判断した場合、履修取消し期間内であれば、履修登録を取消することができます。

ただし、履修登録の取消しができる科目は、選択科目とし、必修科目は原則として履修取消しができません。なお、履修登録後に当該セメスターに休学の申し出があった場合は、原則として当該セメスターの授業は、履修取消し扱いとします。

履修取消しの申請手続き

申請期間：授業開始より7週目終了後から、原則5日間

※集中講義科目は、開講初日の翌日の正午まで

申請方法：学生支援課より、B-netにてお知らせします。

※注意事項※

履修取消し期間以外の申請は原則認めませんが、病気等のやむを得ない事由で、履修取消しの申請ができなかった場合は、申請期間外であっても履修取消しを認めることがあります。

授業カレンダー

春学期、秋学期の各授業開始・終了日や授業実施日、定期試験実施期間等はB-netにてお知らせする「授業カレンダー」にて確認してください。

授業時間

授業は以下の時間帯で行います。

講時	1	2	3	4	5	6
時間	9:00 } 10:30	10:40 } 12:10	12:50 } 14:20	14:30 } 16:00	16:10 } 17:40	17:50 } 19:20

集中講義・実習

B-netの「学生時間割表」にて示される「集中講義」「実習」は特定の曜日講時で実施されない科目です。以下のいずれかに該当します。

1. 通年で開講する科目(S)

表記方法	科目名 + S
開講時期	通年 ※授業カレンダーに記載されている集中講義期間(9月上旬)で多くは開講される。ただし、科目によっては異なるので、シラバス等必ず確認すること。
履修登録時期	春学期科目の履修登録と同じタイミング
単位認定時期	秋学期科目の単位認定と同じタイミング

2. 個別の日程で行われる講義(H・A)

表記方法	科目名 + H もしくは A
開講時期	履修登録した学期 ※一定の連続した期間や、不規則な日程で開講される。詳細な日程については、シラバスやB-netで通知されるので確認すること。
履修登録時期	各学期の履修登録と同じタイミング
単位認定時期	各学期の単位認定と同じタイミング

3. 遠隔授業(H・A)

表記方法	科目名 + H もしくは A
開講時期	履修登録した学期 ※オンデマンド型の遠隔授業
履修登録時期	各学期の履修登録と同じタイミング
単位認定時期	各学期の単位認定と同じタイミング

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互換
制度

免許
資格
取得

通信
課程
聴講
履修

規
程

各
種
出
書

各
届
出
書

Ⅱ 履修要項 履修一般事項

休 講

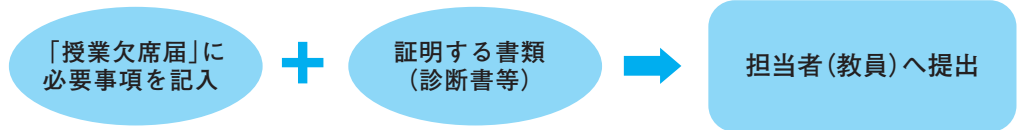
本学または担当者(教員)にやむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講することがあります。休講になる科目については、B-netの「休補講・教室変更」にて連絡します。
 休講掲示がなく、20分経過しても授業が行われない場合は、必ず学生支援課に連絡し、その指示にしたがってください。なお、**自動的に休講とはなりません。**

補 講

補講とは、休講により授業日数が不足する場合や授業が予定の範囲まで終了しなかった場合に、それを補うために行う授業です。実施する場合は、所定の補講日(授業カレンダー参照)に行い、詳細はB-netにてお知らせします。

授業欠席

病気または事故等により授業を欠席した場合は、所定の「授業欠席届」(巻末にあるものを複写して使用、またはB-netよりダウンロードして印刷)に必要な事項を記入し、欠席事由を証明する書類(診断書等)を添えて、担当者(教員)へ届け出てください。



- 「授業欠席届」は公欠として取り扱われるものではありません。
- ※学校感染症罹患時の取り扱い(p.85)をあわせて確認してください。

公 欠

公欠とは、カリキュラム上必要とされる実習等によって、やむを得ず授業を欠席しなければならない場合に適用されるものです。担当者(教員)へは、各学期末に通知されます。
 しかし、公欠は出席としての扱いを保証されるものではありません。授業を欠席するという状況には変わりないので、当該授業日の授業内容、課題等を十分に確認し、授業に遅れをとらないよう留意することが必要です。
 大学院については、下記に該当する事由で、期間中に授業を欠席する場合は、公欠として取り扱います。ただし、本学の当該免許・資格取得課程受講者に限ります。

介護等体験	教育実習	伝宗伝戒道場入行
図書館実習	博物館実習	臨床心理実習
		心理実践実習

- なお、インターンシップ・課外活動・就職活動・ボランティア等は、公欠として取り扱いません。

- 教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー
- 学位授与
基準
- 履修
一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の
修了学位
の取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 博士後期課程
- 単位
互換制度
- 免許状
資格取得
- 通信課程
聴講履修
- 規程
- 各種
届出書

定期試験

定期試験は、セメスターごとに行われます。定期試験の実施方法には、教室試験(筆記試験)、レポート試験および実技試験等によるものがあります。

また、定期試験の実施方法は定期試験期間の開始1ヵ月前頃に、時間割は開始1週間前頃にB-netにてお知らせします。

原則として、授業の曜日・講時と同一の曜日・時限で実施されますが、授業時間割とは異なる曜日・時限で実施される場合がありますので、注意してください。

教室試験

(1) 定期試験時間

定期試験は以下の時間帯に60分間で行います。

講時	1	2	3	4	5	6
時間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40	17:50~19:20

(2) 受験資格

次の事項に該当する場合は、受験資格がありません。

- ①学生証または仮学生証を携帯していない場合。
- ②履修登録していない場合。
- ③科目の総授業日数の3分の1以上欠席した場合。
- ④学費未納の場合。

(3) 受験上の注意

- ①試験会場(教室)は当日、B-netで確認してください。
- ②試験会場では必ず「学生証」を机上の通路側においてください。
携帯していない場合は、試験開始前に学生支援課で「仮学生証」の発行を受けてください。
ただし、「**仮学生証**」は**発行日のみ有効(当日返却が必須)**で、**毎回手数料(300円 現金のみ)が必要です。**
- ③試験会場では、所持しているスマートフォン等通信機器の電源を切り、カバンの中に片付けてください。
時計としての代用はできません。
- ④試験開始後30分(30分00秒)以降退出することができます。
- ⑤試験会場では、試験監督者の指示にしたがってください。
- ⑥試験の遅刻は、20分(20分59秒)を経過すると、いかなる理由があっても入室できません。
- ⑦次の場合は不正行為とみなし、学則により処分を行い当該学期に履修登録した科目の一部、もしくは全てがN評価(無効・評価対象外)となります。
 - a)私語や態度について注意を与えても改めないとき。
 - b)許可なくして物品や教科書・ノート類を貸借したとき。
 - c)許可された以外のものを参照したとき。
 - d)身代わり受験をおこなったとき。または、おこなわせたとき。
 - e)その他、監督者の指示に直ちにしがわれないとき。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種出書

Ⅱ 履修要項 **履修一般事項**

レポート試験

レポート試験課題はGoogle Classroomにて確認してください。
 課題、提出期限等は定期試験期間の開始2週間前頃までに掲出されます。
 提出は ①Google Classroom上での提出、②担当者(教員)に直接提出のいずれかとなります。出題時の指示に従い、期限内に提出してください。

実技試験

科目によって、実技をともなう試験を行う場合があります。
 実技試験の有無については、B-netやGoogle Classroomを確認してください。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

追 試 験

正当な事由で定期試験(対面試験)を受験できなかった場合、願い出により欠席の妥当性が承認された場合に限り、追試験を受験することができます。

なお、寝過ごし、交通機関への乗り遅れ、自転車・バイク等の故障等自己の責任による事由、および自宅療養等により医師の診断書等がない場合は、追試験受験許可事由となりません。

また、受験資格は定期試験の受験資格に準じます。正当な事由と手続き方法は次のとおりです。

(1) 追試験受験許可事由

事 由	添 付 す る 書 類	受 験 許 可 対 象 期 間
公欠に該当する実習等	添付書類不要	実習期間および実習地への往復に要すると判断される期間
交通機関の遅延	当該の交通機関が発行した遅延証明書を添付	遅延した当日限り
病気又は傷病	安静加療を要し、登校不能な状態である旨を明記した医師の診断書を添付	診断書に記載された期間
忌引き	3親等までの親族に限る。死亡に関する証明書(会葬礼状等日時が明示されたもの)を添付	7日以内とする(3親等の場合は3日)。帰省等のための往復に要する期間を含む
自己の責めによらない不慮の事故または災害	公共機関が発行する事故証明書または罹災証明書を添付	必要として認める期間
進路に関する試験 ※任意参加のセミナー等は不可	就職先・進学先等の証明書(受験票の写し等日時が明示されたもの)を添付	必要として認める期間
その他	本学がやむを得ないと認める場合は、指定する証明書を添付	必要として認める期間

(2) 手続き

- ①欠席した当該科目試験終了後、指定された期日以内に、指定された方法(詳細はB-netにてお知らせ)にて必要事項を入力し、証明する書類(診断書等)を添えて、試験欠席届を申請してください。
- ②学生支援課より指定された日時に受験の可否確認をしてください。
- ③受験を許可され追試験を受験する場合は、受験手数料(1科目500円)の納入が必要です。ただし、公欠もしくは、学校感染症罹患(p.85)による欠席(診断書提出必須)に該当する場合の受験手数料と手続き日の来校は不要です。
- ④追試験日は「学年暦」により定められています。その日に受験できない場合は、事由のいかんに関わらず、当該科目の受験資格を失います。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履 修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

規 程

各 種
届 出 書

Ⅱ 履修要項 履修一般事項

緊急時における授業・試験の取り扱い

交通機関の不通、特別警報もしくは暴風警報発令時における授業および定期試験の取り扱いは、次のとおりです。

休講および定期試験休止

次の(1)～(3)のいずれかの状況が発生した場合は、ただちに休講および定期試験の休止とします。

- (1) 交通機関の不通の場合(aまたはbのいずれかの条件を満たす場合とします)
 - a)京都市営バスと地下鉄が同時に全路線・全区間で不通
 - b)下表の4交通機関(JR・阪急・京阪・近鉄)のうち、2交通機関の指定区間において、全てまたは一部が不通

交通機関	指定区間(路線)
JR <small>※JRの指定区間(5路線)において複数路線が不通となった場合でも、1交通機関とする。</small>	京都～米原(琵琶湖線)
	京都～大阪(京都線)
	京都～堅田(湖西線)
	京都～奈良(奈良線)
	京都～園部(嵯峨野線)
阪急	京都河原町～大阪梅田(京都線)
京阪	出町柳～淀屋橋(京阪本線)
近鉄	京都～奈良(京都線・奈良線)

- (2) 京都府南部(南丹・京丹波、京都・亀岡、山城中部、山城南部のいずれか)に特別警報もしくは暴風警報(大雨・洪水・大雪警報は対象外)が発表された場合
- (3) その他の状況において、休講および試験を休止することが適切であると学長が認めた場合

休講および定期試験休止の解除

交通機関の運行再開および特別警報、暴風警報解除の場合は、下表のとおり取り扱います。

運行再開または警報解除の時刻	授業・定期試験の取り扱い
午前6時30分まで	1講時から実施
午前10時00分まで	3講時から実施
午前10時01分以降	終日休講/休止

その他の事項

- (1) 授業中もしくは定期試験の実施中に、特別警報、暴風警報等が発表された場合は、その都度、警報の緊急性および交通機関の運行状況等を考慮の上、休講および定期試験の休止の実施時刻を指示します。
- (2) 上記以外で、自身の居住地域に係る交通機関の不通および特別警報もしくは暴風警報等が発表された場合は、自身の判断で安全確保に努め、欠席については、後日「授業欠席届」を担当者(教員)へ届け出てください。
- (3) 「特別警報」が発表された場合、ただちに命を守る行動をとってください。

学校感染症罹患により欠席した授業・試験の取り扱い

学校保健安全法施行規則第18条・19条に基づき、下表の学校感染症に罹患した場合は、医師の指示に従い静養に努めてください。

治癒後、医師の診断書等を学生支援課へ提出し受理された場合、公欠と同等の扱いと証明できる「欠席事由確認証(感染症)」が交付されます。

但し第3種、その他の感染症に関しては、医師より登校禁止を指示された場合に限りです。

分類	感染症の種類
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ベスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)、特定鳥インフルエンザ、指定感染症
第2種	インフルエンザ(特定鳥インフルエンザを除く)、百日咳、麻疹(はしか)、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、風しん(三日はしか)、水痘(水ぼうそう)、咽頭結膜熱(プール熱)、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎(はやり目)、急性出血性結膜炎、その他の感染症〔溶連菌感染症(しょうこう熱)、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑(りんご病)、ヘルパンギーナ(夏かぜ)、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎、流行性嘔吐下痢症など〕

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項から第9項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症は、第1種の感染症とみなす。

静養を要する期間に出席できなかった授業

「授業欠席届」(p.80参照)に「欠席事由確認証(感染症)」、診断書等を添えて、当該の開講科目担当教員に提出してください。

静養を要する期間に受験できなかった試験(定期試験)

「試験欠席届(p.83)」に「欠席事由確認証(感染症)」、診断書等を添えて、学生支援課に提出し、追試験の手続きを行ってください(この場合追試験受験手数料と手続き日の来校は不要です)。

Ⅱ 履修要項 履修一般事項

成績

成績評価は、シラバスに記載された成績評価の基準に基づいて行われます。評価は以下の通りです。

「成績証明書」には合格科目のみが記載され、評価はS、A、B、C、認定のみが記載されます。なお、単位認定は学期末となります。

点数	成績通知書の表示	成績証明書の表示	評価の基準	判定
100～90	S	S	到達目標をほぼ完全に達成しており、極めて優秀な成績を修めている	合格
89～80	A	A	到達目標を十分に達成し、優秀な成績を修めている	
79～70	B	B	不十分な点があるが、到達目標を相応に達成している	
69～60	C	C	到達目標の最低限は満たしている	
59～0	D	表示されない	到達目標を達成できていない 単位を与えるためにはさらに学修が必要である	不合格
未受験	X		定期試験未受験、レポート試験未提出、などの場合	
評価対象外	N		評価対象外などの場合	
認定	認定	認定	※入学前に修得した単位が認定されたもの、および入学後に他大学等において修得したもの	合格
履修取消	—	表示されない		

成績の確認

成績の確認は、次学期オリエンテーション1週間前を目途にB-netにて確認することができます(成績の開示日は、B-netにてお知らせします)。なお、春学期に履修登録をおこなう通年集中講義科目の成績確認は、秋学期の扱いとなります。

成績に関する調査申請(成績疑義)について

開示された成績について正当でないと考えられる場合、調査依頼を申請することができます。

申請について

申請期間・方法については、B-netにてお知らせします。

※注意事項※

- 申請によって成績が変更されることを保証するものではありません。
- 申請前には、自身に過失がないか、本当に成績に疑問があるのか十分に確認してください。

GPA 制度

GPA(Grade Point Average)制度とは、科目ごとの成績評価からそれぞれのグレードポイント(GP)を求め、単位あたりの平均値を算出したものです。学期ごとおよび在籍期間中の通算のGPAを成績通知書、成績証明書に記載します。

このGPA制度の導入によって、学期ごとの学修成果と推移がより明確となり、さらに細やかな学習指導への活用と、学習意欲の向上、無理な履修計画や安易な履修登録の自己規制につながることを目的として導入しています。

本学の成績評価とグレードポイント(GP)との関係は次のとおりです。

点数	成績評価	GP
100～90	S	4
89～80	A	3
79～70	B	2
69～60	C	1
59～0	D	0
未受験	X	
評価対象外	N	
認定	認定	対象外
履修取消	-	対象外

GPA (Grade Point Average) の算出方法

履修した科目の成績評価を上記のGPに置き換え算出します。算出方法については次のとおりです。

$$\text{学期 GPA} = \frac{(\text{当該学期の履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数})\text{の総和}}{\text{当該学期の履修科目の総単位数}}$$

$$\text{通算 GPA} = \frac{(\text{全学期の履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数})\text{の総和}}{\text{全学期の履修科目の総単位数}}$$

※計算値は小数点以下第3位を四捨五入して表記

GPA 算出科目と算出除外科目について

履修登録したすべての科目をGPAの算出対象科目とします。ただし、次にあげる①から⑤に該当する場合、GPA算出除外科目とします。

※通信教育課程聴講履修制度により履修した科目はGPA算出対象となります。

- ①入学及び再入学前に修得し、単位認定された授業科目
- ②他大学等で履修(単位互換協定に基づく授業科目含む)し、単位認定された授業科目
- ③学部聴講科目
- ④履修取消しを申請した科目
- ⑤その他研究科専攻毎に定める授業科目

なお、GPA算出対象科目は不合格となった場合でも、算出対象となります。したがって、自らの履修(履修登録を含む)に対して、より真剣に取り組むことが求められます。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

2. 履修科目表

- 修士課程

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

●文学研究科修士課程 仏教学専攻

系列	授 業 科 目					
	授 業 科 目 名 称	単 位	必 修 ・ 選 択 区 分	専修免許状対象科目		
専攻 科 目	基礎科目	仏教学研究基礎 1	2	選	○	
		仏教学研究基礎 2	2	選	○	
	特殊研究科目		法然教学特殊研究	2	選	○
			浄土教学特殊研究 1	2	選	○
			浄土教学特殊研究 2	2	選	○
			仏教学特殊研究 1	2	選	○
			仏教学特殊研究 2	2	選	○
			仏教学特殊研究 3	2	選	○
			仏教文化特殊研究	2	選	○
		演習科目		法然教学演習 1	2	選
			法然教学演習 2	2	選	○
			浄土教学演習 1	2	選	○
			浄土教学演習 2	2	選	○
			仏教学演習 1	2	選	○
			仏教学演習 2	2	選	○
			仏教学演習 3	2	選	○
			仏教学演習 4	2	選	○
			仏教文化演習 1	2	選	○
			仏教文化演習 2	2	選	○
			仏教文化演習 3	2	選	○
	仏教文化演習 4		2	選	○	
研究指導科目		仏教学研究指導演習 1	2	必		
		仏教学研究指導演習 2	2	必		
		仏教学研究指導演習 3	2	必		
		仏教学研究指導演習 4	2	必		
関連科目		仏教学特論 1	2	選	○	
		仏教学特論 2	2	選	○	

- (1) 基礎科目 2 単位以上、特殊研究科目 6 単位以上、演習科目 8 単位以上、研究指導科目 8 単位、計 30 単位以上修得すること。
- (2) 「修士論文」を提出して、その審査に合格すること。
- (3) 第 1 学年の履修登録上限単位数は、年間 22 単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24 単位以上修得すること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

規 程

各 種
届 出

●文学研究科修士課程 文学専攻

系列	授 業 科 目							
	授 業 科 目 名 称	単 位	必 修 ・ 選 択 区 分		専修免許状対象科目			
					中専・高専 (国語)	中専・高専 (中国語)	中専・高専 (英語)	
専攻科目	基礎科目	文学研究基礎	2	必				
		日本文学研究基礎	2	選	○			
		中国文学研究基礎	2	選		○		
		英米文学研究基礎	2	選			○	
	日本文学系	日本文学特殊研究 1	2	選	○			
		日本文学特殊研究 2	2	選	○			
		日本文学特殊研究 3	2	選	○			
		日本文学特殊研究 4	2	選	○			
		日本語学特殊研究	2	選	○			
		日本文学演習 1	2	選	○			
		日本文学演習 2	2	選	○			
		日本文学演習 3	2	選	○			
		日本文学演習 4	2	選	○			
		日本語学演習	2	選	○			
		中国文学系	中国文学特殊研究 1	2	選		○	
			中国文学特殊研究 2	2	選		○	
	中国文学特殊研究 3		2	選		○		
	中国語学特殊研究		2	選		○		
	中国思想特殊研究		2	選		○		
	中国文学演習 1		2	選		○		
	中国文学演習 2		2	選		○		
	中国文学演習 3		2	選		○		
	中国語学演習		2	選		○		
	中国思想演習		2	選		○		
	英米文学系	英米文学特殊研究 1	2	選			○	
		英米文学特殊研究 2	2	選			○	
		英語学特殊研究	2	選			○	
		英米言語文化特殊研究	2	選			○	
		英米文学演習 1	2	選			○	
		英米文学演習 2	2	選			○	
		英語学演習 1	2	選			○	
		英語学演習 2	2	選			○	
		英米作家研究 1	2	選			○	
英米作家研究 2		2	選			○		
専攻共通科目	日本語表現史研究	2	選	○				
	現代中国研究	2	選		○			
	日英対照言語学研究	2	選			○		
	書道研究	2	選	○				
	漢文学研究	2	選	○				
	異文化接触研究 (中国)	2	選		○			
	異文化接触研究 (英米)	2	選			○		
研究指導科目	文学研究指導演習 1	1	必					
	文学研究指導演習 2	1	必					
関連科目	日本言語文化研究	2	選	○				
	中国近現代思想研究	2	選		○			
	英語教育研究	2	選			○		
	書道文化研究	2	選	○				
	日本文学研究	2	選	○				
	中国文学研究	2	選		○			
	英米文学研究	2	選			○		

- (1) 主専攻科目は、「日本文学系」「中国文学系」「英米文学系」の3学系からいずれか1つを選択し、その学系の科目を履修すること。
- (2) 主専攻とした学系以外の2学系の科目を履修した場合、専攻共通科目の単位としてみなす。
(高度専門職業人コース)
・基礎科目4単位、主専攻科目14単位(特殊研究6単位、演習8単位)、専攻共通科目4単位、研究指導科目2単位、関連科目6単位、計30単位以上修得すること。
- (3) 「修士論文」を提出して、その審査に合格すること。
- (4) 第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24単位以上修得すること。

※印を付す科目は高等学校教諭専修免許状(国語)には使用できません。高等学校教諭専修免許状(国語)取得希望者は、※印を除く科目より24単位以上修得してください。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科
課程の
修了学位
の取得

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規 程

各 種
届 出 書

●文学研究科修士課程 歴史学専攻

系列	授 業 科 目				
	授 業 科 目 名 称	単 位	必 修・選 択 区 分	専修免許状対象科目	
専攻科目	基礎科目	歴史学研究基礎 1	2	必	○
		歴史学研究基礎 2	2	必	○
		基礎外国語文献研究	2	必	○
		基礎文献研究	2	必	○
	専門科目	歴史学史料演習 1	2	選	○
		歴史学史料演習 2	2	選	○
		歴史学特殊研究 1	2	選	○
		歴史学特殊研究 2	2	選	○
		歴史学特殊研究 3	2	選	○
		歴史文化資料演習 1	2	選	○
		歴史文化資料演習 2	2	選	○
		歴史文化特殊研究 1	2	選	○
		歴史文化特殊研究 2	2	選	○
		歴史文化特殊研究 3	2	選	○
		歴史学特別演習 1	1	選	
		歴史学特別演習 2	1	選	
	研究指導科目	歴史学研究指導演習 1	1	必	
		歴史学研究指導演習 2	1	必	
		歴史学研究指導演習 3	1	必	
		歴史学研究指導演習 4	1	必	
関連科目	歴史学フィールドワーク	2	選	○	
	外国語文献研究	2	選	○	
	フィールドワーク研究	2	選	○	
	歴史情報と社会	2	選	○	
	歴史情報基礎論	2	選	○	
		2	選	○	

(1) 以下の所定の30単位を修得すること。

(高度専門職業人コース)

・基礎科目8単位、専門科目から「演習」4単位以上、「特殊研究」4単位以上を含み8単位以上、研究指導科目4単位、関連科目4単位以上、計30単位以上修得すること。

(研究者コース)

・基礎科目8単位、専門科目から「演習」4単位以上、「特殊研究」4単位以上、「特別演習」4単位を含み12単位以上、研究指導科目4単位、関連科目4単位以上、計30単位以上修得すること。

(2) 「修士論文」または「課題研究」のどちらかを提出して、その審査に合格すること。

(3) 第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24単位以上修得すること。

●教育学研究科修士課程 生涯教育専攻

系列	授 業 科 目				
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分	専修免許状対象科目	
専 攻 科 目	生涯教育原論特殊研究 1	2	選	○	
	生涯教育原論特殊研究 2	2	選	○	
	生涯教育心理学特殊研究 1	2	選	○	
	生涯教育心理学特殊研究 2	2	選	○	
	生涯教育制度学特殊研究 1	2	選	○	
	生涯教育制度学特殊研究 2	2	選	○	
	生涯教育方法学特殊研究 1	2	選	○	
	生涯教育方法学特殊研究 2	2	選	○	
	生涯教育評価論特殊研究 1	2	選	○	
	生涯教育評価論特殊研究 2	2	選	○	
	生涯教育原論演習 1	2	選	○	
	生涯教育原論演習 2	2	選	○	
	生涯教育心理学演習 1	2	選	○	
	生涯教育心理学演習 2	2	選	○	
	生涯教育制度学演習 1	2	選	○	
	生涯教育制度学演習 2	2	選	○	
	生涯教育方法学演習 1	2	選	○	
生涯教育方法学演習 2	2	選	○		
生涯教育研究指導	1	選			
関 連 科 目	教育哲学特殊研究 1	2	選	○	
	教育哲学特殊研究 2	2	選	○	
	教育史特殊研究 1	2	選	○	
	教育史特殊研究 2	2	選	○	
	教育心理学特殊研究 1	2	選	○	
	教育心理学特殊研究 2	2	選	○	
	学校教育特殊研究 1	2	選	○	
	学校教育特殊研究 2	2	選	○	
	社会教育特殊研究 1	2	選	○	
	社会教育特殊研究 2	2	選	○	
	児童教育特殊研究 1	2	選	○	
	児童教育特殊研究 2	2	選	○	
	図書館学特殊研究 1	2	選		
	図書館学特殊研究 2	2	選		
	健康教育特殊研究 1	2	選		
	健康教育特殊研究 2	2	選		
	文学教育特殊研究 1	2	選		
	文学教育特殊研究 2	2	選		
	環境教育特殊研究 1	2	選		
	環境教育特殊研究 2	2	選		
	法教育特殊研究 1	2	選		
	法教育特殊研究 2	2	選		
	国語科教育特殊研究	2	選		
	算数・数学科教育特殊研究	2	選		
	理科教育特殊研究	2	選		
	社会科教育特殊研究	2	選		
	特別支援教育特殊研究	2	選		
	人権教育特殊研究 1	2	選		
人権教育特殊研究 2	2	選			
消費者教育特殊研究 1	2	選			
消費者教育特殊研究 2	2	選			

- (1) 専攻科目から特殊研究4科目8単位以上、演習6科目12単位以上、研究指導4科目4単位、関連科目から4科目8単位以上、合計32単位以上を登録履修すること。
- (2) 「修士論文」を提出して、その審査に合格すること。
- (3) 「生涯教育研究指導」を除き、重複履修しても、修了要件の単位に算入できない。
- (4) 第1学年の履修登録上限単位数は、年間24単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24単位以上修得すること。
なお、同一科目の重複履修により修得した単位を24単位に含めることはできない。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規
程

各
種
出
書

●教育学研究科修士課程 臨床心理学専攻

系列	授 業 科 目			
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分	
専攻科目	臨床心理学特論1	2	必	
	臨床心理学特論2	2	必	
	臨床心理面接特論1	2	必	
	臨床心理面接特論2	2	必	
	臨床心理査定演習1(心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	必	
	臨床心理査定演習2	2	必	
	臨床心理査定演習3	2	選	
	臨床心理基礎実習1	1	必	
	臨床心理基礎実習2	1	必	
	心理実践実習1	1	選	
	心理実践実習2	4	選	
	臨床心理実習1(心理実践実習5)	1	必	
	臨床心理実習2(心理実践実習6)	1	選	
	臨床心理実習3(心理実践実習3)	4	必	
	臨床心理実習4(心理実践実習4)	4	選	
	臨床心理実習5	2	選	
	臨床心理学研究指導演習1	1	必	
	臨床心理学研究指導演習2	1	必	
	臨床心理学研究指導演習3	1	必	
臨床心理学研究指導演習4	1	必		
関連科目	A群	心理学研究法特論	2	選
		臨床心理学研究法特論	2	選
		心理統計法特論	2	選
	B群	認知心理学特論	2	選
		生涯発達心理学特論	2	選
	C群	家族臨床心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	選
		犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	選
		人間関係学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2	選
		障害心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	選
	D群	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	選
		精神薬理学特論	2	選
		学校臨床心理学特論	2	選
	E群	投映法特論	2	選
		心理療法特論	2	選
		教育分野に関する理論と支援の展開	2	選
		心理支援に関する理論と実践	2	選
		心の健康教育に関する理論と実践	2	選
心理学特別演習1		2	選	
心理学特別演習2		2	選	

- (1) 専攻科目より必修14科目を含んで23単位以上、関連科目はA～Eの各群からそれぞれ2単位以上、計10単位以上、合計33単位以上修得すること。
- (2) 「修士論文」を提出して、その審査に合格すること。
- (3) 第1学年の履修登録上限単位数は、年間28単位とするが、臨床心理士および公認心理師の両受験資格取得を希望する者は年間32単位とする。

●社会学研究科修士課程 社会学専攻

系 列		授 業 科 目					
		授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分	専修免許状対象科目		
基礎科目	社会学系	社会学理論研究	2	選	○		
	ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント理論研究	2	選	○		
特殊研究科目	社会学系	社会学特殊研究1(社会文化)	2	選	○		
		社会学特殊研究2(社会文化)	2	選	○		
		社会学特殊研究3(社会情報)	2	選	○		
		社会学特殊研究4(社会情報)	2	選	○		
		社会学特殊研究5(共生臨床)	2	選	○		
		社会学特殊研究6(共生臨床)	2	選	○		
	ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント特殊研究1(環境)	2	選	○		
		ソーシャルマネジメント特殊研究2(環境)	2	選	○		
		ソーシャルマネジメント特殊研究3(環境)	2	選	○		
		ソーシャルマネジメント特殊研究4(地域)	2	選	○		
演習科目	社会学系	社会学演習1(社会文化)	2	選	○		
		社会学演習2(社会情報)	2	選	○		
		社会学演習3(共生臨床)	2	選	○		
		社会学演習4(社会理論)	2	選	○		
	ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント演習1(環境)	2	選	○		
		ソーシャルマネジメント演習2(環境)	2	選	○		
		ソーシャルマネジメント演習3(地域)	2	選	○		
		ソーシャルマネジメント演習4(地域)	2	選	○		
		研究指導科目	社会学系	社会学研究指導演習1	1	選	
				社会学研究指導演習2	1	選	
社会学研究指導演習3	1			選			
社会学研究指導演習4	1			選			
ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント研究指導演習1		1	選			
	ソーシャルマネジメント研究指導演習2		1	選			
	ソーシャルマネジメント研究指導演習3		1	選			
	ソーシャルマネジメント研究指導演習4		1	選			
関連科目		社会調査論	2	選	○		
		社会調査演習1	2	選	○		
		社会調査演習2	2	選	○		
		社会調査演習3	2	選	○		
		地域公共政策論	2	選	○		
		地域公共政策演習1	2	選	○		
		地域公共政策演習2	2	選	○		
	地域公共政策演習3	2	選	○			

- (1) 専攻科目は「社会学系」「ソーシャルマネジメント系」の2学系からいずれか1つを選択し、履修すること。
- (2) 専攻科目は選択した学系より基礎科目2単位、特殊研究科目8単位以上、演習科目4単位以上、研究指導科目4単位、計18単位以上修得すること。
- (3) 専攻科目、関連科目より計30単位以上修得すること。
- (4) 「修士論文」または「課題研究」のどちらかを提出して、その審査に合格すること。
- (5) 第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24単位以上修得すること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単 位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規 程

各 種
届 出 書

●社会福祉学研究科修士課程 社会福祉学専攻

系列	授 業 科 目					
	授 業 科 目 名 称	単 位	必 修・選 択 区 分	専修免許状対象科目		
専攻科	基礎科目	社会福祉学研究基礎 1	2	必	○	
		社会福祉学研究基礎 2	2	必	○	
	特殊研究科目 (A群)	社会福祉原理論研究	2	必	○	
		社会福祉方法論研究	2	必	○	
		社会福祉政策論研究	2		選	○
		社会福祉史研究	2		選	○
		比較福祉研究	2		選	○
	特殊研究科目 (B群)	乳幼児保育特殊研究	2		選	
		児童福祉特殊研究	2		選	○
		障害者福祉特殊研究	2		選	○
		高齢者福祉特殊研究	2		選	○
		精神保健福祉特殊研究	2		選	○
		医療福祉特殊研究	2		選	○
		地域福祉特殊研究	2		選	○
		現代社会福祉問題特殊研究	2		選	
	演習科目	乳幼児保育特殊演習	2		選	
		児童福祉特殊演習	2		選	○
		障害者福祉特殊演習	2		選	○
		高齢者福祉特殊演習	2		選	○
		精神保健福祉特殊演習	2		選	○
医療福祉特殊演習		2		選	○	
研究指導科目	地域福祉特殊演習	2		選	○	
	社会福祉学研究指導演習 1	1	必			
	社会福祉学研究指導演習 2	1	必			
	社会福祉学研究指導演習 3	1	必			
関連科目	社会福祉学研究指導演習 4	1	必			
	共生とケア 1	2		選	○	
	共生とケア 2	2		選	○	
	福祉の国際比較	2		選	○	

- (1) 基礎科目より4単位、特殊研究科目(A群)より必修4単位を含み6単位以上、特殊研究科目(B群)より6単位以上、演習科目より6単位以上、研究指導科目より4単位、計30単位以上修得すること。
- (2) 「修士論文」を提出して、その審査に合格すること。
- (3) 第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24単位以上修得すること。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

規 程

各 種
届 出

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士
後期課程

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

3. 課程の修了と 学位の取得

- 修士課程

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

本学大学院を修了するための要件は、佛教大学大学院学則、佛教大学修学規程、佛教大学学位規程、佛教大学学位規程細則に定められています。それぞれの規程は巻末に記載がありますので、各自で熟読の上、履修計画を立ててください。

● 修士課程 ●

- **(修学年限)** 修学年限は2年以上とし、4年を超えて在学することはできません。休学期間(最長2年)がある場合はこの限りではありません。また本学では長期履修制度は設けていません。
- **(修了要件)** 修士課程の修了は、修士課程に2年以上在学し(休学期間は「在学」に含みません)、所定の単位数以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、「修士論文」または「課題研究」を提出し、その審査および最終試験に合格しなければなりません。課程修了の認定には、その研究に必要な外国語によく通ずることが求められます。
- **(履修登録)** 授業科目はこれを2年間で履修できるように計画をたて、履修登録を行ってください。
- **(研究指導計画書)** 在学中は、各専攻の指導に基づいて、毎年、本学所定様式の佛教大学大学院(修士・博士後期課程)研究指導計画書を使用し、毎年4月15日までに、学生支援課に提出しなければなりません。(秋学期復学者は、9月末日)
- **(学位)** 修士課程修了生には各々専攻に応じた「修士(文学)」、「修士(教育学)」、「修士(社会学)」、「修士(社会福祉学)」の学位が授与されます。

「修士論文」および「課題研究」について

修士論文

修士論文は、修士課程での学修・研究の成果として、広い視野に立つ精深な学識をそなえたうえで、専攻分野において優れて独創的な研究能力を有することを立証するに足るものでなければなりません。そのため当該研究領域の先行研究成果に関する整理や問題点の提示、あるいは客観的な論証手続き等を用いた独創的視点に立つ論述が必須となります。

課題研究

【文学研究科 歴史学専攻 「高度職業人コース」】

「課題研究」とは、大学院設置基準第16条第2項および佛教大学大学院学則第44条第2項に基づいて、「特定の課題についての研究の成果」と規定されており、修士論文に代わるものです。修士課程での学修・研究の成果として、修士論文と同様に、大学院担当教員による審査を経て、修了判定を受けます。

各自の専攻領域に関わるテーマを、指導教員と十分に協議して設定し、その指導の下で「課題研究」(分量は「課題研究の体裁」ページ参照)をまとめてください。

テーマとしては、たとえば

- 専門分野における文献にかかわる調査・研究
- 専門分野におけるフィールドワークによる調査・研究
- 専門分野に関する教授法についての調査・研究
- 専門分野における重要文献の注釈、翻訳、解題
- 博物館・資料館等における展示等に関する調査・研究

などの多様なものが考えられます。

「課題研究」は、修士課程の修了要件としての「修士論文」に代わるものですが、「修士論文」のように独創的な研究と成果を求めるものではありません。ただし、修士課程での専攻分野に関する学修・研究の成果として、高度の専門性が要求される職業等に必要とされる能力を有することを立証するに足るものでなければなりません。

【社会学研究科】

課題研究の成果(Project Research Report)は、ケース・スタディやフィールド・ワークあるいは特定の組織やプロジェクトを観察・調査し、それに関する詳細なレポート等々、実践的、実学的な研究成果内容も含まれますが、修士論文と同等の内容が求められます。

課題研究とは、「特定の課題についての研究の成果」(大学院設置基準第16条第2項 佛教大学大学院学則第44条第2項)であり、修士論文の枠には収まらない特殊な研究です。たとえば、特定領域における問題発見とその解決のための施策等の立案・策定を志向する研究などがこれに該当します。このような研究とその成果報告は、従来の枠組みでいえば修士論文としての要件を満たしていないとも考えられますが、社会学研究という学問分野には、このような社会的諸問題の個別具体的な事象に対する解決策の提示が要請されてもおり、研究の価値は低くありません。社会学研究科では、これを修士論文としてではなく、課題研究の成果として認定・評価する制度を設け、主たる指導教員の指導の下に研究を進め、その成果を提出し、修士論文と同様の審査を経て修了認定を行います。

①修士論文・課題研究提出資格

- 本大学院に2年以上在学見込みのこと。
- 大学院学則所定の単位を修得見込みのこと。
- 学費を完納していること。

学位請求論文の「ルーブリック」

本学では、専攻ごとに学位請求論文のルーブリックを作成し成績評価基準の明確化を図っています。ルーブリックとは、授業等で求められる能力や到達目標を複数の観点に分け、それぞれについて評価基準を段階的に示した表のことです。このルーブリックによって、評価の透明性を高め、自身の論文の達成度の確認や方向性の明確化により、今何が必要なのかなどを知る指標となりますので、今後の学習に役立ててください。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互換
制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規
程

各
種
届
出
書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

②修士論文作成スケジュール

文学研究科仏教学専攻 研究指導要領

修士課程

- 指導教員
2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行なう。
- 集団指導体制
仏教学研究指導演習は、大学院仏教学専攻教員全員が科目担当となり、学生があらゆる分野の専門家からさまざまな指導を受けることで、より多角的な視点から研究を推進する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		演習・特殊研究	研究発表	大目標	小目標
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 研究課題の明確化 構想の具体化
	秋学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期中間発表会参加		
2年目	春学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期および秋期 中間発表会で発表	研究の遂行 修士論文の執筆	中間発表会への準備
	秋学期				修士論文の提出 □頭試問

- 教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー
- 学位授与
基準
- 履修
一般事項
- 文学
研究科
- 教育学
研究科
- 社会学
研究科
- 社会
福祉学
研究科
- 課程の
修了学位
の取得
- 文学
研究科
- 教育学
研究科
- 社会学
研究科
- 社会
福祉学
研究科
- 単位
互換制度
- 免許状
資格取得
- 通信課程
聴講履修
- 規程
- 各種
届出書

文学研究科文学専攻(日本文学系) 研究指導要領

修士課程

○指導教員

2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行なう。

○集団指導体制

文学研究指導演習は、大学院文学専攻教員全員が科目担当となり、学生があらゆる分野の専門家からさまざまな指導を受けることで、より多角的な視点から研究を推進する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

1 年 目	4月～6月の目標：研究史の整理と問題点の明確化	
	4月	上旬：新入生オリエンテーション・「研究指導計画書」提出 必要な科目の履修登録
	5月	指導教員の決定 指導計画の策定(院生との面談を伴う)
	6月	研究の進捗確認と指導
	7月～10月の目標：具体的研究課題の策定	
	7月	中間発表会参加 夏季休暇中の研究計画提出・コメント
	8月	メール等による研究の進捗確認と指導
	9月	下旬：必要な科目の履修登録 下旬：夏季休暇中の研究報告・コメント
	10月	研究の進捗確認と指導
	11月～2月の目標：具体的成果報告(中間発表会<基礎>)	
	11月	研究の進捗確認と指導
	12月	中間発表会<基礎>の発表計画提出・コメント
	1月	中間発表会<基礎>の準備状況の確認と指導
	2月	中間発表会<基礎>研究発表・コメント
3月	メール等による研究の進捗確認と指導	

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互換
制度

免
許
状
資格
取得

通
信
課程
聴講
履修

規
程

各
種
届
出
書

II 履修要項 課程の修了と学位の取得

2 年 目	4月～7月の目標：具体的成果報告	
	4月	～4/15研究指導計画書の提出 指導計画の策定 必要な科目の履修(～7月下旬)
	5月	中間発表会の発表計画提出・コメント 5/31修士論文課題研究の題目登録届提出期限
	6月	修士論文の進捗確認と指導
	7月	中間発表会研究発表・コメント 夏季休暇中の研究計画提出・コメント 7/31修士論文-課題研究提出期限 ※3年目以降の9月修了予定者
	8月～12月の目標：修士論文の構成策定と執筆	
	8月	下旬～口頭試問 ※3年目以降の9月修了予定者
	9月	下旬：必要な科目の履修(～1月下旬) 下旬：修了証書授与式 ※3年目以降の9月修了予定者
	10月	上旬：修士論文の構成と概要の確認・コメント 10/31論文題目変更届提出期限 ※3月修了予定者
	11月	修士論文の進捗確認と指導
	12月	12/20修士論文提出期限 ※3月修了予定者
	1月	修士論文作成報告と反省
2月	上旬～中旬：口頭試問 ※3月修了予定者	
3月	3/18修了証書授与式 ※3月修了予定者	

※詳細は、各専攻で定められたスケジュールに従ってください。
 ※このスケジュールの他、指導教員の指導に基づく研究活動の他、先行研究や関連領域の調査研究・学会参加・論文投稿等にも継続的に取り組んでください。

- 教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー
- 学位授与基準
- 履修一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了と学位の取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位互換制度
- 免許状資格取得
- 通信課程聴講履修
- 規程
- 各種届書

文学研究科文学専攻(中国文学系) 研究指導要領

修士課程

○指導教員

2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行なう。

○集団指導体制

文学研究指導演習は、大学院文学専攻教員全員が科目担当となることにより、学生があらゆる分野の専門家からさまざまな指導を受けることを可能にするための科目である。当科目の受講を通じて、学生はさらに多角的な視点から研究を推進できるようになる。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限の例)〉

		文学特別演習(個人指導)・文学指導演習(集団指導)	大目標	小目標
1 年 目	春学期	インフォメーションおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ まとめおよび指示(個人指導)	研究計画の策定	研究史の整理と問題点の提起
	秋学期	個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導)		研究の実施
				具体的成果報告

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種出書

規程

各種出書

各種出書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

		文学特別演習(個人指導)・文学指導演習(集団指導)	大目標	小目標
2年目	春学期	個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 進捗の報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメント(集団指導) ▼ まとめおよび指示(個人指導)	研究の実施	具体的成果報告
	秋学期	個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 修士論文の提出 ▼ 口頭試問		中間報告

- 教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー
- 学位授与基準
- 履修一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了と学位の取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位互換制度
- 免許状資格取得
- 通信課程聴講履修
- 規程
- 各種届出書

文学研究科文学専攻(英米文学系) 研究指導要領

修士課程

- 指導教員
2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行なう。
- 集団指導体制
文学研究指導演習は、大学院文学専攻教員全員が科目担当となり、学生があらゆる分野の専門家からさまざまな指導を受けることで、より多角的な視点から研究を推進する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

	文学専攻(英米文学系)	文学専攻(英米文学系) 指導演習(集団指導)	大目標	小目標
1年目	個別的オリエンテーション・研究の方向性の確認 ▼ 研究テーマに沿った個別指導・文献指示 ▼ 予備中間発表の準備状況の確認 ▼ 修士論文の構成についての個別指導・文献指示 ▼ 中間発表に向けての個別指導	オリエンテーション・指導教員の決定 ▼ 大学院予備中間発表会 ▼ 大学院春学期中間発表会	研究計画の策定	研究テーマの適否の確認 研究テーマの決定 論文作成の基礎的研究 基礎研究に関する発表
	章・節の構成の作成・予備中間発表に向けた個別指導 ▼ 修士論文の構成と中間発表に向けた個別指導 ▼ 中間発表で明確となった問題点の整理と新たな課題についての個別指導 ▼ 草稿作成(英文)に向けての準備的指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院秋学期中間発表会	研究の実践	テーマに沿った基礎研究の発展 独自の論点の設定とその論拠の探究

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科
課程の修了学位取得

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種届出書

II 履修要項 課程の修了と学位の取得

		文学専攻（英米文学系）	文学専攻（英米文学系）指導演習（集団指導）	大目標	小目標
2年目	春学期	タイトル・章立てを含む 全体的観点からの確認と 指導 ▼ 予備中間発表の準備状況の 確認と指導 ▼ 草稿作成（英文）に向けての 実践的指導 ▼ 中間発表に向けての 個別指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院春学期中間発表会	修士論文の草稿の作成	独自の論点の評価 論点・論拠の展開
	秋学期	予備中間発表の準備状況の確認 ▼ 中間発表に向けての 個別指導 ▼ 章・節構成と残された問題点の 整理および解決法に向けた個別 指導 ▼ 進捗状況の確認および注・文献 表の正確な作成に関する指導 ▼ 修士論文の作成に向けた 最終的な指導 ▼ 口頭発表に向けた指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院秋学期中間発表会 ▼ 修士論文の発表	修士論文の執筆 論文の完成	章立ての確認と 論文の執筆 論文の評価

- 教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー
- 学位授与
基準
- 履修
一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の
修了学位
の取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位
互換制度
- 免許状
資格取得
- 通信課程
聴講履修
- 規程
- 各種
届出

文学研究科歴史学専攻 研究指導要領

修士課程

- 指導教員
2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行なう。
- 集団指導体制
歴史学研究指導演習は、大学院歴史学専攻教員全員が科目担当となり、学生があらゆる分野の専門家からさまざまな指導を受けることで、より多角的な視点から研究を推進する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		歴史学特別演習(個人指導)・歴史学指導演習(集団指導)	大目標	小目標
1 年 目	春学期	インフォメーションおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ まとめおよび指示(個人指導)	研究計画の策定	研究史の整理と問題点の提起
	秋学期	個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導)		
				具体的成果報告

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

II 履修要項 課程の修了と学位の取得

		歴史学特別演習(個人指導)・歴史学指導演習(集団指導)	大目標	小目標
2年目	春学期	個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 進捗の報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメント(集団指導) ▼ まとめおよび指示(個人指導)	研究の実施	具体的成果報告
	秋学期	個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 修士論文の提出 ▼ 口頭試問		中間報告

- 教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー
- 学位授与基準
- 履修一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了と学位の取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位互換制度
- 免許状資格取得
- 通信課程聴講履修
- 規程
- 各種届出書

教育学研究科生涯教育専攻 研究指導要領

修士課程

○指導教員による指導

入学時、専攻主任が窓口となり、学生の研究テーマと教員の専門領域を考慮して指導教員を決定する。学生は、演習や特殊研究の科目を履修し、専門的な研究を進めるのにふさわしい知識や方法論を習得し、個々の研究に関する指導を受ける。

○専攻全体としての指導

生涯教育研究指導は、大学院生涯教育専攻の全教員が科目を担当する。春学期と秋学期に通信課程と合同で行われる中間発表会では、修士論文や博士論文の構想発表とそれらに対する各分野の教員からの質問・助言をとおして、個々の研究を深めるための示唆を得ることができる。

以下は、研究を進めていく上での基本的な流れを示したものである。実際には、学生個人の状況に配慮し、指導教員との意思疎通に基づいて、柔軟に計画される。

なお、修士論文を提出するためには、提出年次の春学期(7月頃)か秋学期(9月頃)に開催される中間発表会で中間結果を発表しなければならない。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		演習・特殊研究	研究発表	大目標	小目標
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 研究課題の明確化 構想の具体化
	秋学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期中間発表会参加		
2年目	春学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期もしくは秋期 中間発表会で発表	研究の遂行 修士論文の執筆	中間発表会への準備
	秋学期				修士論文の提出
			口頭試問		

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士
後期
課程

単
位
互換
制度

免許
資格
取得

通信
課程
聴講履修

規
程

規
程

規
程

各
種
出
書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

教育学研究科臨床心理学専攻 研究指導要領

修士課程

○指導教員による指導

入学時、専攻主任が窓口となり、学生の研究テーマと教員の専門領域を考慮して指導教員を決定する。学生は、臨床心理学研究指導演習の科目を履修し、専門的な研究を進めるのにふさわしい知識や方法論を習得し、個々の研究に関する指導を受ける。

○専攻全体としての指導

臨床心理学研究指導演習では、指導教員とは異なる別分野の教員から、学期ごとに複数回の指導を受けることができる。複数の教員による指導は、多角的な視点から研究を深める機会となる。さらに、春学期に全教員が出席して行われる中間発表会では、修士論文の構想発表とそれらに対する各分野の教員からの質問・助言をとおして、個々の研究を深めるための示唆を得ることができる。

以下は、研究を進めていく上での基本的な流れを示したものである。実際には、学生個人の状況に配慮し、指導教員との意思疎通に基づいて、柔軟に計画される。

なお、修士論文を提出するためには、提出年次の春学期(7月頃)に開催される中間発表会で中間結果を発表しなければならない。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		研究指導演習	研究発表	大目標	小目標
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 研究課題の明確化 構想の具体化
	秋学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期中間発表会参加		
2年目	春学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期中間発表会で 発表	研究の遂行 修士論文の執筆	中間発表会への準備
	秋学期				修士論文の提出 口頭試問

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科課程の
修了学位
の取得文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科単位
互換制度免許状
資格取得通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

社会学研究科社会学専攻 研究指導要領

修士課程

○指導教員

2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行う。その際、テキストの読解力、論文執筆の方法、社会調査の技法、プレゼンテーションの技能、グループディスカッションの能力など、研究者としての資質の育成を図る指導を実施する。

○集団指導体制

社会学研究指導演習は、大学院社会学研究科教員全員が担当する。学生はあらゆる分野の専門家から指導を受けることで、多角的な視点から研究を推進する。また、本研究科の集団指導は本演習の機会だけにとどまらず、修士論文の中間発表会、佛教大学社会学会の大会でも実施し、手厚く学生の指導を行うものである。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		社会学研究指導演習 ソーシャルマネジメント研究指導演習	社会学研究指導演習	大目標	小目標
1 年 目	春学期	指導教員の決定 研究計画の策定 ▼ 進捗状況の報告に対する コメントと指導① ▼ 進捗状況の報告に対する コメントと指導②	個別報告とコメント	研究計画の策定	先行研究の整理と研究テーマの決定
	秋学期	進捗状況の報告に対する コメントと指導① ▼ 修士論文中間発表会への出席 ▼ 進捗状況の報告に対する コメントと指導② ▼ 進捗状況の報告に対する コメントと指導③ ▼ 翌年度の調査・研究の方針に関 するコメントと指導	修士論文中間発表会での指導 ▼ 佛教大学社会学会大会での指導		

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士後期
課程

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

		社会学研究指導演習 ソーシャルマネジメント研究指導演習	社会学研究指導演習	大目標	小目標
2年目	春学期	進捗状況の報告に対する コメントと指導① ▼ 進捗状況の報告に対する コメントと指導②	個別報告とコメント	研究の実施と 修士論文・課題研究の 執筆	研究成果の報告
	秋学期	中間発表会の発表に対する コメントと指導 ▼ 修士論文中間発表会での発表 ▼ 進捗状況の報告に対する コメントと指導 (以降、随時、指導を受ける) ▼ 佛教大学社会学会大会への出席 ▼ 修士論文の提出 ▼ 口頭試問 ▼ 最終発表会	修士論文中間発表会での指導 ▼ 佛教大学社会学会大会での指導		修士論文・課題研究の執筆

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了
学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

社会福祉学研究科社会福祉学専攻 研究指導要領

修士課程

○指導教員

2年間における学生の科目履修と個人研究について、専門的立場から指導を行う。

○集団指導体制

社会福祉学研究指導演習は、大学院社会福祉学専攻教員全員が科目担当となり、学生が多様な分野の専門家から様々な指導を受けることで、より多角的な視点から研究を推進する。

また、中間報告会では学生が一堂に会し、研究の進捗を報告しディスカッションを行い、多様な分野の教員からスーパーバイズを受けることで新たな知見を得る。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

2年間におけるコースワークの計画的履修

基礎科目および特別研究科目の履修を通じて社会福祉学の基盤と研究方法を獲得する。

各自の研究領域を中心に特殊研究科目・演習科目の履修を通じて社会福祉学の到達点を踏まえ問題意識を醸成する。

1 年 目	春学期	社会福祉学研究指導演習1において個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、各自の研究計画を策定する。 大学院研究会および中間報告会への参加を通じ、他の院生による研究成果報告を聞きディスカッションを行うことで問題意識を更に醸成させ、具体的な研究課題を策定する。
	秋学期	社会福祉学研究指導演習2において個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、年度末までに具体的な研究成果を報告する。
2 年 目	春学期	社会福祉学研究指導演習3において個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、研究を進める。 中間報告会において研究の進捗状況を報告し、多角的な観点からコメントを受けることで更なる研究の推進を図る。
	秋学期	社会福祉学研究指導演習4において個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、研究を進め修士論文を執筆する。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互
換
制
度

免
許
状
資
格
取
得

通
信
課
程
聴
講
履
修

規
程

各
種
出
書

II 履修要項 課程の修了と学位の取得

③修士論文・課題研究の体裁

専攻ごとの注意事項と全専攻に共通する注意事項をまとめています。

専攻別修士論文および課題研究の体裁

論文の体裁等は、各専攻の指導に基づく様式となります。専攻ごとに体裁についての注意事項をとりまとめていますので、確認のうえ提出してください。

<文学研究科 仏教学専攻>

専攻	種別	執筆方法	用紙	文字方向	体裁	原稿枚数
仏教学	修士論文	手書き	専用用紙 市販用紙	縦書き 横書き	—	400字 × 100枚程度
		ワープロ	A4用紙	縦書き 横書き	40字 × 30行	33枚程度

(注)規定の表紙「KOKUYO ツ67A4-S」を使用して綴じること。

<文学研究科 文学専攻>

専攻	種別	執筆方法	用紙	文字方向	体裁	原稿枚数
文学 (日本文学系)	修士論文	手書き	専用用紙 市販用紙	縦書き 横書き	—	400字 × 80枚程度
		ワープロ	A4用紙	縦書き 横書き	40字 × 30行	27枚程度
文学 (中国文学系)	修士論文	手書き	専用用紙 市販用紙	縦書き 横書き	—	400字 × 80枚程度
		ワープロ	A4用紙	縦書き 横書き	40字 × 30行	27枚程度
文学 (英米文学系)	修士論文	ワープロ	A4用紙	横書き	■英語の場合 66字 (半角英) ×25行 ■日本語の場合 40字 × 30行 (注)	30枚程度

(注)文学(英米文学系)

[修士論文] ※修士論文の使用言語は英語を推奨するが、日本語も可とする。

【英語の場合】 1,000字程度の日本語の論文要旨を提出すること。

【日本語の場合】 66字×25行×4枚程度の英語の論文要旨を提出すること。

<文学研究科 歴史学専攻>

専攻	種別	執筆方法	用紙	文字方向	体裁	原稿枚数
歴史学	修士論文	手書き	専用用紙 市販用紙	縦書き 横書き	—	■研究者コース 400字× 80枚以上 (本文のみ) ※図表を含め 全体で100枚程度
		ワープロ	A4用紙	縦書き 横書き	40字 × 30行	■研究者コース 27枚以上 ※図表を含め 全体で34枚程度
	課題研究	手書き	専用用紙 市販用紙	縦書き 横書き	—	■高度専門 職業人コース 400字× 80枚程度
		ワープロ	A4用紙	縦書き 横書き	40字 × 30行	■高度専門 職業人コース 27枚程度

<教育学研究科>

専攻	種別	執筆方法	用紙	文字方向	体裁	原稿枚数
生涯教育	修士論文	ワープロ	A4用紙	横書き	40字 × 30行	34枚程度
臨床心理学	修士論文	ワープロ	A4用紙	横書き	40字 × 30行	34枚以内 ※本文と引用・ 参考文献までで 34枚以内。 ※文字の大きさは 10.5ポイント

※規定の表紙「KOKUYO ツ67A4-S」(横書き・左綴じ用)に綴じ、1枚目を中表紙、2枚目を論文要旨、3枚目を目次とする。なお、論文要旨の文字数は1,000字以上1,200字以内とし、1枚でおさまるようにすること。学生支援課への提出とは別に、専攻保管用として1部、教育学部資料室に提出すること。

<社会学研究科>

専攻	種別	執筆方法	用紙	文字方向	体裁	原稿枚数
社会学	修士論文	ワープロ	A4用紙	横書き	40字 × 30行	30枚程度 ※本文最初の ページから ページ番号を 付与すること。
	課題研究	ワープロ	A4用紙	横書き	40字 × 30行	30枚以上 ※本文最初の ページから ページ番号を 付与すること。

※表紙には指導教員名、論題、氏名を記入し、英文タイトルもつける。扉の次に目次をつける。簡易ファイルで提出すること。学生支援課への提出とは別に、閲覧用として1部、社会学研究科専攻主任に提出すること。

<社会福祉学研究科>

専攻	種別	執筆方法	用紙	文字方向	体裁	原稿枚数
社会福祉学	修士論文	ワープロ	A4用紙	横書き	40字 × 30行	40枚以上 ※本文最初の ページから ページ番号を 付与すること。

※指導教員の指示がある場合は、縦書きおよび手書きも可。
表紙には、指導教員名、論題、氏名を記入し、英文タイトルもつける。扉の次に目次をつける。簡易ファイルで提出すること。学生支援課への提出とは別に、閲覧用として1部、社会福祉学研究科専攻主任に提出すること。

教育理念
教育研究上
の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

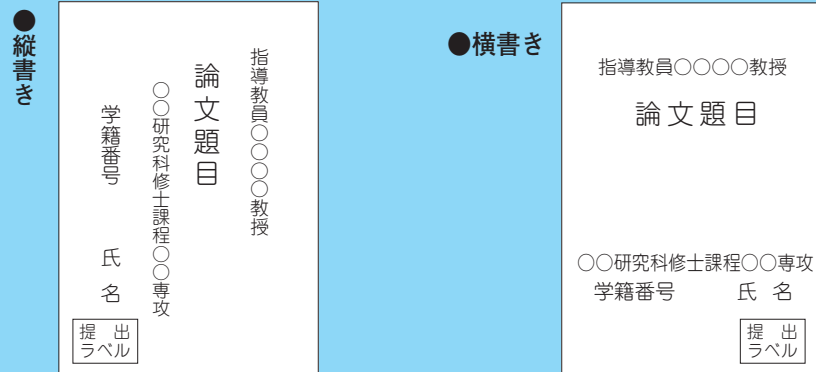
各種
届出書

II 履修要項 課程の修了と学位の取得

各専攻共通注意事項

- 論文の表紙は以下の(論文表紙サンプル)に準じ、作成してください。
- 論文表紙には「提出ラベル」を添付しなければなりません。
- 「提出ラベル」は修士論文提出年度に指導教員より配付を受けてください。
- 論文題目は「論文題目届」により届け出た内容と一字一句違わないようにしてください。
- 論文題目に副題を付す時は論文題目登録時、「論文題目届」に記入しておいてください。
- 本論文以外に必要な応じて副論文(別冊)の添付を認めます。

(論文表紙サンプル)



④ 提出時の注意

論文提出にあたっては、指導教員の承諾を得たうえで手続きを行ってください。

・提出期限

	3月修了予定	9月修了予定
修士論文 課題研究 提出期限	12月20日	7月31日

- ※提出期限の締切時刻は、窓口開室時間に準拠します。
- ※提出期限が休日の場合は、B-netおよび掲示にて指示します。

・提出書類

- 修士論文または課題研究…1冊(体裁等は、各専攻の指導に基づく様式としてください)
- 論文要旨…(1,000字程度)1部
文学専攻(英米文学系)は、p.114に記載の通り作成すること。
- 複写本…(正本を複写し、正本同様に製本したもの)2冊
●複写本には表紙の上部空白箇所に●と記入してください。
- 複写論文要旨…(原本を複写したもの)2部

・提出先

学生支援課

口頭試問

- 口頭試問は、修士課程の修了判定の最終試験として、提出された修士論文または課題研究について3月修了予定者は2月上旬、9月修了予定者は8月下旬～9月上旬に実施します。
- 口頭試問は、原則として大学院担当教員の中より、3名以上の審査員を選定して行います。

修士課程の修了

- 修士課程に2年以上在学し、大学院学則所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文または課題研究を提出して、その審査および最終試験に合格することで、修了となります。
- 修士課程修了の認定は、大学院研究科教授会がおこないます。
- 口頭試問の結果が不合格となった場合、修士課程を修了することはできません。

研究倫理教育eラーニングの受講について

本学では佛教大学研究公正管理規程により、研究活動に関わる者を対象に研究倫理教育を実施することとしています。修士論文や博士論文の作成、学内外への論文投稿、研究活動に係る経費の執行をする前に研究倫理を正しく理解していただくよう、全ての大学院生の方は、日本学術振興会の研究倫理eラーニングコースを受講してください。

受講にあたっては、担当部署(学術支援課)よりB-netにて受講の案内をします。
(案内時期：6月頃)

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種届出書

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

4. 課程の修了と 学位の取得・履修科目表

- 博士後期課程

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

本学大学院を修了するための要件は、佛教大学大学院学則、佛教大学修学規程、佛教大学学位規程、佛教大学学位規程細則に定められています。それぞれの規程は巻末に記載がありますので、各自で熟読の上、履修計画を立ててください。

●博士後期課程●

- ・ **(修学年限)** 修学年限は3年とし、6年を超えて在学することはできません。休学期間(最長3年)がある場合はこの限りではありません。
- ・ **(履修登録)** 博士後期課程の教育は、主として研究指導によるものとします。
- ・ **(研究指導計画書)** 在学中は、各専攻の指導に基づいて、毎年、本学所定様式の佛教大学大学院(修士・博士後期課程)研究指導計画書を使用し、毎年4月15日までに、学生支援課に提出しなければなりません。(秋学期復学者は、9月末日)
- ・ **(報告論文など)** 在学中は各専攻の指導に基づいて、毎年、報告論文または研究経過報告書を本学所定様式の博士後期課程研究経過報告書(兼報告論文提出付票)を使用し、毎年1月末日までに、学生支援課に提出しなければなりません。(秋学期半期休学者は、9月末日)
- ・ **(修了要件)** 博士の学位を得ようとする学生は、その博士後期課程において所定の単位を修得したのち、学位請求論文を提出し、最終試験に合格しなければなりません。課程修了の認定にはその研究に必要な外国語によく通ずることを条件とします。
- ・ **(学位請求論文)** 博士学位請求論文は、その専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有することを立証するに足るものでなくてはなりません。
- ・ **(学位)** 博士後期課程修了生には「博士(文学)」、「博士(教育学)」、「博士(社会学)」、「博士(社会福祉学)」の学位が授与されます。

博士学位請求論文〈博士論文〉作成・提出

①論文提出資格

- ・ 修士課程を修了し博士後期課程に3年以上在学見込みのこと。
- ・ 大学院学則所定の単位を修得見込みのこと。
- ・ 各専攻の指導教員の指導に基づいて、毎年、報告論文または研究経過報告書を提出していること。
- ・ 学費を完納していること。

②論文提出要件

博士学位請求論文を提出するためには、上記論文提出資格を満たしていることに加えて、各専攻により定められている提出要件を満たしていることが必要です。

③提出時の注意

博士学位請求論文提出にあたっては、指導教員の承諾を得たうえで諸手続きを行ってください。

・提出期限

	3月修了予定	9月修了予定
博士学位請求論文提出期限	11月30日	5月31日

※提出期限の締切時刻は、窓口開室時間に準拠します。

※提出期限が休日の場合は、期限をその前日とします。

・提出書類

○学位申請書(所定用紙)

学位申請書は、指導教員の提出承諾を受け、学生支援課にて交付を受けてください。
 なお、提出にあたっては、指導教員と専攻主任の捺印が必要となります。

○博士学位請求論文 5冊

必ず製本してください。(保存に耐えるもの。特に変色、破損、外れる等の可能性がある印刷・製本は避けてください。)

表紙および背表紙に題目、氏名を記載してください。

体裁等については、指導教員の指導に基づく様式としてください。

社会福祉学研究科は、閲覧用として別に1冊を大学院担当主任に提出してください。

○博士学位請求論文データ

電子ファイルは原則としてPDF形式で公開します。PDF(ver.1.7以上が望ましい/透明テキストを含む)でCD-Rにて提出してください。

本文電子ファイルは、表紙・目次や図表なども結合した1ファイルの形で提出してください。

紙媒体(冊子体等)の大きさに関わらず、A4用紙での印刷が最適な状態に設定してください。

<PDFの設定について>

長期的な可読性、保存、アクセシビリティ確保の観点から、以下の点を確認してください。

- ・機種あるいはベンダー依存の形式でないこと
- ・外部情報源(外部フォント等)を参照していないこと
- ・暗号化、パスワードの設定、印刷制限等を行わないこと

○博士学位請求論文要旨(3,600字～6,000字程度の日本語および専攻が認めた外国語文)各3部 各専攻の指導に基づく様式としてください。*

○研究業績一覧1部(論文提出資格を充足していると確認ができるもの)**

○参考論文(ある場合のみ)5冊

○博士学位請求論文の提出要件(p.126、128、131、135、138、140、142、145、147)に「中間報告会」等の発表(報告)が必要な場合は、レジメ等を確認資料として提出してください。

※上記、「学位請求論文要旨(日本語・外国語文)」「研究業績一覧」についてもPDFを提出してください。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種届出書

II 履修要項 課程の修了と学位の取得

・博士学位請求論文表紙の体裁

(博士学位請求論文表紙サンプル)

●縦書き

佛 教 大 学 大 学 院 ○ ○ 研 究 科 ○ ○ 専 攻	論 文 題 目	博 士 学 位 請 求 論 文 指 導 教 員 ○ ○ ○ ○ 教 授
氏 名		

●横書き

博 士 学 位 請 求 論 文 指 導 教 員 ○ ○ ○ ○ 教 授
論 文 題 目
佛 教 大 学 大 学 院 ○ ○ 研 究 科 ○ ○ 専 攻
氏 名

●背表紙

論 文 題 目
氏 名

・論文の表紙は上記の(論文表紙サンプル)に準じ、作成してください。

- ・提出先
学生支援課

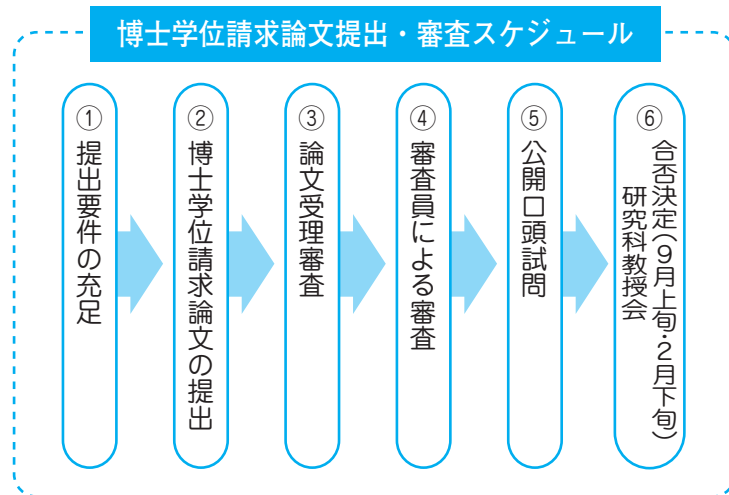
口頭試問

- ・公開形式で行います。
- ・提出された論文について、口頭試問を3月修了予定者は1月下旬～2月中旬に、9月修了予定者は8月下旬～9月上旬に実施します。
- ・学位論文の審査は原則として大学院授業担当教員の中より3名以上の審査員を選定して行います。

博士後期課程の修了

- ・最終試験を行います。この試験は論文を中心とし、これに関連する科目について行われる筆記試験および口頭試問とします。
- ・博士後期課程修了の認定は、研究科教授会が行います。
- ・3年以上在学し、研究科教授会で修了要件単位の充足が認められ、満期退学を希望する場合は「大学院博士後期課程単位修得満期退学届」を提出しなければなりません。対象者には所定届出用紙を送付しますので、指定の期限までに提出してください。

博士学位請求論文提出・審査スケジュール



学位の授与

研究科教授会の承認を経て、博士(文学)、博士(教育学)、博士(社会学)、博士(社会福祉学)の学位が授与されます。

学位論文のインターネット公開について

博士の学位を授与された者は、博士の学位授与日から1年以内に、当該博士の学位授与に係る論文の全文をインターネットの利用により公表する必要があります。

また、インターネットの利用により公表する全文は、博士の学位が授与された論文内容と同一となるため、博士の学位請求論文提出時に提出された博士学位請求論文データを使用します。加筆・修正は一切認められませんのでご注意ください。

なお、インターネットの利用による公表にあたっては、学位請求論文提出までに自身で、権利関係(出版社の著作権ポリシーを含む)を確認し、著作権者から使用許諾をとる必要がありますので注意してください。

本学では、BAKER(佛教大学図書館論文目録リポジトリ)において公開いたします。

学位論文の保管

学位が授与された場合、学位論文は佛教大学図書館にて1部保管します。

研究倫理教育eラーニングの受講について

本書p.117「研究倫理教育eラーニングの受講について」をお読みいただき、受講してください。

II 履修要項 課程の修了と学位の取得

学位請求論文の「ルーブリック」

本学では、専攻ごとに学位請求論文のルーブリックを作成し成績評価基準の明確化を図っています。ルーブリックとは、授業等で求められる能力や到達目標を複数の観点に分け、それぞれについて評価基準を段階的に示した表のことです。このルーブリックによって、評価の透明性を高め、自身の論文の達成度の確認や方向性の明確化により、今何が必要なのかなどを知る指標となりますので、今後の学習に役立ててください。

- 教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー
- 学位授与基準
- 履修一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了と学位の取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位互換制度
- 免許状資格取得
- 通信課程聴講履修
- 規程
- 各種届出書

文学研究科 教育学専攻 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年にわたり、学生が博士論文を執筆する過程に関与し、学生が研究者としての資質を高めるために指導。ディベートやディスカッションの能力を養うために議論をリードし、学会での発表に耐えうる能力を培う。

○集団指導体制

同分野の教員の指導のみならず、隣接・他分野の教員の指導や議論によって、自分の研究の客観性や独自性を高め、学生の研究に新たな視点をもたらせ、研究者としてのレベル向上に資する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		演習	研究発表	大目標	小目標
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 課題・学位論文構想の明確化 論文執筆と投稿
	秋学期	研究に必要な知識・技能の習得	春期中間発表会参加		
2年目	春学期	研究に必要な知識・技能の習得	春期および秋期中間発表会で発表	研究の遂行	公刊された論文の報告または研究経過報告書の提出
	秋学期				
3年目	春学期	学位請求論文執筆	春期および秋期中間発表会で発表	学期末に草稿を指導教員に提出	全国学会で発表・論文投稿、および学内雑誌に論文投稿
	秋学期			11月上旬までに修正版を指導教員に再提出	
				大学の学位審査プロセスに従い大学に学位請求論文を提出	
			公開口頭試問		

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種届出書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

文学研究科博士後期課程 仏教学専攻 履修科目表

系列	授業科目		
	授業科目名称	単位	必修・選択区分
専攻科目	仏教学研究指導演習Ⅰ	1	必
	仏教学研究指導演習Ⅱ	1	必
	仏教学研究指導演習Ⅲ	1	必
	仏教学研究指導演習Ⅳ	1	必
	仏教学研究指導演習Ⅴ	1	必
	仏教学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「仏教学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

	専攻	論文提出要件
文学研究科	仏教学	①博士課程入学後に日本学術会議協力学術研究団体に登録された全国学会における1回以上の口頭発表。 ②学内の査読付学術出版物に投稿された1点、および日本学術会議協力学術研究団体に登録された全国学会の刊行する査読付学術出版物に博士課程入学後に投稿された1点を含む2点以上の学術論文を有していること。 ③学位請求論文の枚数は、400字×300枚以上。

※提出時の注意はp.121も参照のこと。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

文学研究科文学専攻(日本文学系) 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年にわたり、学生が博士論文を執筆する過程に関与し、学生が研究者としての資質を高めるために指導。ディベートやディスカッションの能力を養うために議論をリードし、学会での発表に耐えうる能力を培う。

○集団指導体制

同分野の教員の指導のみならず、隣接・他分野の教員の指導や議論によって、自分の研究の客観性や独自性を高め、学生の研究に新たな視点をもたらせ、研究者としてのレベル向上に資する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

学年	学生		指導教員
	授業科目の履修	博士論文の作成	
1	<ul style="list-style-type: none"> 必要な科目の履修 	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション時「研究指導計画書」提出 修士論文の改変と学術雑誌への投稿 論文中間報告・発表 1月末日「研究経過報告書」提出 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員の決定 研究計画の立案指導 研究計画の了承 <p>(研究、論文作成指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文作成指導 次年度の研究計画の指導
2	<ul style="list-style-type: none"> 必要な科目の履修 	<ul style="list-style-type: none"> 4月15日「研究指導計画書」提出 論文中間報告・発表 学会で口頭発表 学術雑誌への投稿 1月末日「研究経過報告書」提出 	<ul style="list-style-type: none"> 学会での口頭発表を指導 学術雑誌(学会誌を含む)への投稿 「博士論文」の概要了承 次年度の研究計画の指導
3	<ul style="list-style-type: none"> 必要な科目の履修 	<ul style="list-style-type: none"> 4月15日「研究指導計画書」提出 「博士論文」執筆 論文中間報告・発表 11月30日「博士論文」の提出 1月下旬～2月中旬 口頭試問 	<ul style="list-style-type: none"> 学内外の研究発表の評価および批判に基づき、研究指導 「博士論文」提出了承 <p>(研究科教授会に審査請求)</p>

※本スケジュールは基本モデルです。特に2年次以降においては、学外学会での口頭発表や学術雑誌(学会誌を含む)への投稿等、指導教員の指導を受けつつ、積極的な取り組みが望まれます。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種届出書

II 履修要項 課程の修了と学位の取得

文学研究科博士後期課程 文学専攻 履修科目表

系列	授業科目		
	授業科目名称	単位	必修・選択区分
専攻科目	文学研究指導演習Ⅰ	1	必
	文学研究指導演習Ⅱ	1	必
	文学研究指導演習Ⅲ	1	必
	文学研究指導演習Ⅳ	1	必
	文学研究指導演習Ⅴ	1	必
	文学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「文学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

	専攻	論文提出要件
文学研究科	文学	①提出する学位請求論文は、全体で400字300枚前後であること。 ②公刊された学術論文2本以上を有し、そのうち1本以上は査読制度のある学術雑誌に査読を経て掲載されたものであること。 ③提出半年前までに中間発表を行うこと。
	●日本文学系	

※提出時の注意はp.121も参照のこと。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

文学研究科文学専攻(中国文学系) 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年にわたり、学生が博士論文を執筆する過程に関与し、学生が研究者としての資質を高めるために指導。ディベートやディスカッションの能力を養うために議論をリードし、学会での発表に耐えうる能力を培う。

○集団指導体制

同分野の教員の指導のみならず、隣接・他分野の教員の指導や議論によって、研究の客観性や独自性を高めるとともに、研究に新たな視点をもたらせ、研究者としてのレベル向上に資する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		文学研究指導演習(個人指導)	大目標	小目標
1年目	春学期	インフォメーションおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ まとめおよび指示	研究計画の策定	研究史の整理と問題点の提起
	秋学期	個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示		具体的研究課題の策定 研究の実施 報告 具体的成果

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種出書

各種出書

各種出書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

		文学研究指導演習(個人指導)	大目標	小目標
2年目	春学期	インフォメーションおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ まとめおよび指示		研究史の整理と 問題点の提起
	秋学期	個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示		具体的研究課題の策定 報告 具体的成果
3年目	春学期	個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 進捗の報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメント ▼ まとめおよび指示	博士論文の執筆	報告 具体的成果 中間報告
	秋学期	個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 博士論文の提出 ▼ 口頭試問		中間報告

- 教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー
- 学位授与基準
- 履修一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了と学位の取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位互換制度
- 免許状資格取得
- 通信課程聴講履修
- 規程
- 各種届出書

文学研究科博士後期課程 文学専攻 履修科目表

系列	授 業 科 目		
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分
専攻科目	文学研究指導演習Ⅰ	1	必
	文学研究指導演習Ⅱ	1	必
	文学研究指導演習Ⅲ	1	必
	文学研究指導演習Ⅳ	1	必
	文学研究指導演習Ⅴ	1	必
	文学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「文学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専攻	論文提出要件
文学 ●中国文学系	①提出する学位請求論文は、全体で400字300枚前後であること。 ②公刊された学術論文2本以上を有し、そのうち1本以上は学外の学術雑誌に査読を経て掲載されたものであること。 ③提出半年前までに中間発表を行うこと。

※提出時の注意はp.121も参照のこと。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

規 程

各 種
届 出 書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

文学研究科文学専攻(英米文学系) 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年にわたり、学生が博士論文を執筆する過程に関与し、学生が研究者としての資質を高めるために指導。ディベートやディスカッションの能力を養うために議論をリードし、学会での発表に耐えうる能力を培う。

○集団指導体制

同分野の教員の指導のみならず、隣接・他分野の教員の指導や議論によって、自分の研究の客観性や独自性を高め、学生の研究に新たな視点をもたらせ、研究者としてのレベル向上に資する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		文学専攻(英米文学系)	文学専攻(英米文学系) 指導演習(集団指導)	大目標	小目標
1年目	春学期	個別的オリエンテーション・研究の方向性の確認 ▼ 研究テーマに沿った個別指導・文献指示・学外の学会発表へ向けての指導 ▼ 予備中間発表の準備状況の確認 ▼ 学外での学会発表へ向けての個別指導 ▼ 中間発表に向けての個別指導	オリエンテーション・指導教員の決定 ▼ 大学院予備中間発表会 ▼ 大学院春学期中間発表会	研究計画の策定	研究テーマの確認 全国学会およびそれに準ずる学会での □頭発表に向けて準備・応募
	秋学期	予備中間発表および学外での学会発表に向けた個別指導 ▼ 中間発表に向けた個別指導 ▼ 学外での学会発表で明確となった問題点の整理と新たな課題についての個別指導 ▼ 査読付き学会誌への投稿論文作成のための個別指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院秋学期中間発表会	研究の実践	全国学会およびそれに準ずる学会での □頭発表に向けての準備 学会発表後の問題点の整理と学会誌への投稿論文の作成

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了と学位取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

博士後期課程

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種書

	文学専攻（英米文学系）	文学専攻（英米文学系）指導演習（集団指導）	大目標	小目標
2年目	春学期 査読付き学会誌への投稿論文作成のための個別指導 ▼ 予備中間発表の準備状況の確認と指導 ▼ 学外での学会発表へ向けての個別指導 ▼ 中間発表に向けての個別指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院春学期中間発表会	研究の展開（学会誌への投稿を含む）	学会誌への投稿論文の完成（第一論文） 全国学会およびそれに準ずる学会での口頭発表に向けての準備・心算（第二回目）
	秋学期 予備中間発表の準備状況の確認 ▼ 中間発表に向けての個別指導 ▼ 学外での学会発表へ向けての個別指導 ▼ 博士論文作成のための中間的な整理と指導 ▼ 学会誌への投稿論文の準備指導 ▼ 査読付き学会誌への投稿論文作成のための個別指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院秋学期中間発表会	研究の展開（学会誌への投稿を含む）	全国学会およびそれに準ずる学会での口頭発表に向けての準備（第二回目） 学会発表後の問題点の整理と学会誌への投稿論文の作成

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種出書

II 履修要項 課程の修了と学位の取得

		文学専攻（英米文学系）	文学専攻（英米文学系）指導演習（集団指導）	大目標	小目標
3年目	春学期	査読付き学会誌への投稿論文作成のための個別指導 ▼ 学会誌への投稿論文の点検 ▼ 予備中間発表の準備状況の確認 ▼ 博士論文の構成・問題点についての個別指導 ▼ 中間発表に向けての個別指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院春学期中間発表会	博士論文の執筆	学会誌への投稿論文の完成（第一論文） 既発表論文に基づく博士論文の準備 博士論文の草稿の点検
	秋学期	博士論文の作成・予備中間発表に向けた個別指導 ▼ 博士論文の作成と中間発表に向けた個別指導 ▼ 中間発表で明確となった残された問題点の整理とその解決法についての個別指導 ▼ 博士論文の完成に向けての個別指導 ▼ 博士論文の公表に向けての準備指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院秋学期中間発表会	博士論文の完成	博士論文の本論作成 博士論文の細部の点検 博士論文の完成 問題点の整理と今後の展望

- 教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー
- 学位授与基準
- 履修一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了と学位の取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位互換制度
- 免許状資格取得
- 通信課程聴講履修
- 規程
- 各種届出

文学研究科博士後期課程 文学専攻 履修科目表

系列	授 業 科 目		
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分
専攻科目	文学研究指導演習Ⅰ	1	必
	文学研究指導演習Ⅱ	1	必
	文学研究指導演習Ⅲ	1	必
	文学研究指導演習Ⅳ	1	必
	文学研究指導演習Ⅴ	1	必
	文学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「文学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専攻	論文提出要件
文学 ●英米文学系	①提出する学位請求論文は、全体で400字300枚前後であること。 ②公刊された学術論文2本以上を有し、そのうち1本以上は学外の学術雑誌に査読を経て掲載されたものであること。 ③提出半年前までに中間発表を行うこと。

※提出時の注意はp.121も参照のこと。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

規 程

各 種
届 出 書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

文学研究科歴史学専攻 研究指導要領

博士後期課程

- 指導教員
3年にわたり、学生が博士論文を執筆する過程に関与し、学生が研究者としての資質を高めるために指導。ディベートやディスカッションの能力を養うために議論をリードし、学会での発表に耐えうる能力を培う。
- 集団指導体制
同分野の教員の指導のみならず、隣接・他分野の教員の指導や議論によって、自分の研究の客観性や独自性を高め、学生の研究に新たな視点をもたらせ、研究者としてのレベル向上に資する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		歴史学特別演習(個人指導)	歴史学指導演習(集団指導)	大目標	小目標
1年目	春学期	インフォメーション および指示	インフォメーション	研究計画の策定	研究史の整理と 問題点の提起
		▼	▼		
	個別報告とコメント および指示	個別報告とコメント	具体的研究課題の策定		
	▼	▼			
個別報告とコメント および指示	まとめおよび指示	研究の実施	具体的成果 報告		
▼	▼				
秋学期	個別報告とコメント および指示	個別報告とコメント	研究の実施	具体的成果 報告	
	▼	▼			
個別報告とコメント および指示	個別報告とコメント および指示				

		歴史学特別演習(個人指導)	歴史学指導演習(集団指導)	大目標	小目標	
2年目	春学期	インフォメーション および指示 ▼ 個別報告とコメント および指示 ▼ 個別報告とコメント および指示 ▼ まとめおよび指示	インフォメーション ▼ 個別報告とコメント	}	研究史の整理と 問題点の提起	
	秋学期	個別報告とコメント および指示 ▼ 個別報告とコメント および指示 ▼ 個別報告とコメント および指示	個別報告とコメント			具体的研究課題の策定
3年目	春学期	個別報告とコメント および指示 ▼ 進捗の報告とコメント および指示 ▼ まとめおよび指示	個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメント		}	具体的成果 報告
		個別報告とコメント および指示	個別報告とコメント			
	秋学期	個別報告とコメント および指示	個別報告とコメント	中間報告		
		個別報告とコメント および指示	個別報告とコメント	中間報告		
		博士論文の提出				
		□頭試問				

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士
後期課程

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

文学研究科博士後期課程 歴史学専攻 履修科目表

系列	授業科目		
	授業科目名称	単位	必修・選択区分
専攻科目	歴史学研究指導演習Ⅰ	1	必
	歴史学研究指導演習Ⅱ	1	必
	歴史学研究指導演習Ⅲ	1	必
	歴史学研究指導演習Ⅳ	1	必
	歴史学研究指導演習Ⅴ	1	必
	歴史学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「歴史学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専攻	論文提出要件
文学研究科 歴史学	①学位請求論文提出(11月末提出の場合は10月末、5月末提出の場合は4月末)までに、2本以上の審査付論文を刊行済みであること。 ②提出予定年度に、専攻の「中間報告会」(公開)において報告し、専攻会議で提出について承認を得ること。 ③博士学位請求論文は、400字250枚程度とする。

※提出時の注意はp.121も参照のこと。

- 教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー
- 学位授与
基準
- 履修
一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了
学位の取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位
互換制度
- 免許
資格取得
- 通信課程
聴講履修
- 規程
- 各種
届出書

教育学研究科生涯教育専攻 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員による指導

修士課程から進学する場合は、同一の教員が指導を担当することが多いが、進学時に専攻主任が窓口となり、指導教員を決定する。学生は、演習や特殊研究の科目を履修し、専門的な研究を進めるのにふさわしい知識や方法論を習得し、個々の研究に関する指導を受ける。

○専攻全体としての指導

春学期と秋学期に通信課程と合同で行われる中間発表会では、博士論文の構想あるいは中間結果の発表とそれらに対する各分野の教員からの質問・助言をとおして、個々の研究を深めるための示唆を得ることができる。

以下は、研究を進めていく上での基本的な流れを示したものである。実際には、学生個人の状況に配慮し、指導教員との意思疎通に基づいて、柔軟に計画される。下記の流れは3月修了の場合を示し、9月修了の場合は1セメスターずれる。

学位請求論文を提出するためには、査読論文2点以上を有し、提出予定時期の1セメスター前の中間発表会で構想あるいは中間結果を発表しなければならない。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		演習・特殊研究	研究発表 ^{*1}	大目標	小目標	
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 課題・学位論文構想の明確化 論文執筆と投稿	
	秋学期	研究に必要な知識・技能の習得	春期中間発表会参加			
2年目	春学期	研究に必要な知識・技能の習得	春期もしくは秋期中間発表会で報告	研究の遂行	執筆論文または研究経過報告書の提出	
	秋学期			研究の遂行		
3年目	春学期			7月末までに論文を指導教員に提出	予備審査への準備	
	秋学期			予備審査会で発表 ^{*2}	9月中旬までに予備審査を受審	
					11月上旬までに修正版を指導教員に再提出 ^{*3}	予備審査結果に基づき論文を修正
					大学の学位審査プロセスに従い大学に学位請求論文を提出 ^{*4}	
		公開審査で発表				

*1：学会発表や査読付き論文は随時行ふ

*2：予備審査の日程は指導教員と調整(論文の製本化は不要)

*3：修正次第で合格の可能性があると判断された場合に修正論文を提出(修正論文が審査で不合格と判断された場合、学位申請はできない)

*4：修正した論文が予備審査に合格した場合

II 履修要項 課程の修了と学位の取得

教育学研究科博士後期課程 生涯教育専攻 履修科目表

系列	授業科目			
	授業科目名称	単位	必修・選択区分	
専攻科目	特殊研究	生涯教育人間学特殊研究	2	必
		生涯教育方法学特殊研究	2	必
		生涯教育制度学特殊研究	2	必
	演習	生涯教育人間学演習	2	選
		生涯教育方法学演習 1	2	選
		生涯教育方法学演習 2	2	選
		生涯教育制度学演習	2	選

・特殊研究は3領域にわたり3科目6単位以上、演習は1領域について4単位以上、合計10単位以上を登録履修すること。

①ポイント!

「演習」の領域充足のためには修得した科目の重複履修が必要です。

博士学位請求論文の提出要件

専攻	論文提出要件
教育学研究科 生涯教育	<p>①学会や外国の学術研究団体等の査読論文2点以上、又は査読論文1点及びこれに準ずる論文2点以上を有していること。 備考：査読論文に準ずる論文とは、学術刊行物又は佛教大学教育学部学会紀要、佛教大学大学院紀要(教育学研究科篇)、佛教大学臨床心理学研究紀要、他大学の紀要、その他引用可能な形式で公開されている論文誌に発表された論文。</p> <p>②提出予定時期のほぼ半年前(一つ前の Semester)に、専攻の「中間発表会」(公開)において論文の草稿又は概要を報告すること。</p>

※提出時の注意はp.121も参照のこと。

教育学研究科臨床心理学専攻 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員による指導

修士課程から進学する場合は、同一の教員が指導を担当することが多いが、進学時に専攻主任が窓口となり、指導教員を決定する。学生は、臨床心理学研究指導演習の科目を履修し、専門的な研究を進めるのにふさわしい知識や方法論を習得し、個々の研究に関する指導を受ける。

○専攻全体としての指導

春学期に行われる中間発表会では、博士論文の構想あるいは中間結果の発表とそれらに対する各分野の教員からの質問・助言をとおして、個々の研究を深めるための示唆を得ることができる。

以下は、研究を進めていく上での基本的な流れを示したものである。実際には、学生個人の状況に配慮し、指導教員との意思疎通に基づいて、柔軟に計画される。下記の流れは3月修了の場合を示し、9月修了の場合は1セメスターずれる。

学位請求論文を提出するためには、査読論文2点以上を有し、提出予定時期の1セメスター前の中間発表会で構想あるいは中間結果を発表しなければならない。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		研究指導演習	研究発表 ^{*1}	大目標	小目標
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 課題・学位論文構想の明確化 論文執筆と投稿
	秋学期	研究に必要な知識・技能の習得	春期中間発表会参加		
2年目	春学期	研究に必要な知識・技能の習得	春期中間発表会で報告	研究の遂行	執筆論文または研究経過報告書の提出
	秋学期			学位請求論文の執筆	
3年目	春学期			7月末までに論文を指導教員に提出	予備審査への準備
			予備審査会で発表 ^{*2}	9月中旬までに予備審査を受審	
	秋学期			11月上旬までに修正版を指導教員に再提出 ^{*3}	予備審査結果に基づき論文を修正
				大学の学位審査プロセスに従い大学に学位請求論文を提出 ^{*4}	
			公開審査で発表		

*1：学会発表や査読付き論文は随時行う

*2：予備審査の日程は指導教員と調整(論文の製本化は不要)

*3：修正次第で合格の可能性があると判断された場合に修正論文を提出(修正論文が審査で不合格と判断された場合、学位申請はできない)

*4：修正した論文が予備審査に合格した場合

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

教育学研究科博士後期課程 臨床心理学専攻 履修科目表

系列	授 業 科 目		
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分
専攻科目	臨床心理学研究指導演習Ⅰ	1	必
	臨床心理学研究指導演習Ⅱ	1	必
	臨床心理学研究指導演習Ⅲ	1	必
	臨床心理学研究指導演習Ⅳ	1	必
	臨床心理学研究指導演習Ⅴ	1	必
	臨床心理学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「臨床心理学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専攻	論文提出要件
臨床心理学	<p>①学会や外国の学術研究団体等の査読論文2点以上、又は査読論文1点かつこれに準ずる論文2点以上を有していること。 備考：査読論文に準ずる論文とは、学術刊行物又は佛教大学教育学部学会紀要、佛教大学教育学部論集、佛教大学臨床心理学研究紀要、他大学の紀要、その他引用可能な形式で公開されている論文誌に発表された論文。</p> <p>②提出予定年度に、専攻の「中間発表会」(公開)において論文の草稿又は概要を報告すること。</p>

※提出時の注意はp.121も参照のこと。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

社会学研究科社会学専攻 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年にわたり、学生が博士論文を計画的に執筆できるよう、指導を行う。また、学生が修士課程時と比べ、研究者としての資質をより一層高めることができるよう指導する。学内外での学会発表や論文投稿を行うことで研究者としてのキャリアを積み重ねるとともに、そうした研究成果を博士論文につなげていく。

○集団指導体制

指導教員による指導が中心になるが、他分野の教員からの指導も受けることで、自らの専門以外の視点や成果を自らの研究に生かせるようにする。また、博士論文の執筆に向けての指導も研究科全体で行う。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		社会学研究指導演習 ソーシャルマネジメント研究指導演習	社会学研究指導演習	大目標	小目標
1 年 目	春学期	指導教員の決定 研究計画の策定 ▼ 進捗状況の報告に対する コメントと指導 (以下、随時、指導を行う) ▼ 秋学期の調査・研究の 方針に関する指導	個別報告とコメント	研究計画の策定	学会発表と投稿論文の執筆
	秋学期	進捗状況の報告に対する コメントと指導 (以下、随時、指導を行う) ▼ 修士論文中間発表会への出席 ▼ 佛教大学社会学会大会への 出席もしくは発表 ▼ 翌年度の調査・研究の 方針に関する指導	修士論文中間発表会での指導 ▼ 佛教大学社会学会大会での 指導	研究の実施	学会発表と投稿論文の執筆

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

		社会学研究指導演習 ソーシャルマネジメント研究指導演習	社会学研究指導演習	大目標	小目標
2年目	春学期	進捗状況の報告に対するコメントと指導 (以下、随時、指導を行う) ▼ 秋学期の調査・研究の方針に関する指導	個別報告とコメント	研究の実施	学会発表と投稿論文の執筆
	秋学期	進捗状況の報告に対するコメントと指導 (以下、随時、指導を行う) 修士論文中間発表会への出席 ▼ 進捗状況の報告に対するコメントと指導 (以降、随時、指導を受ける) ▼ 佛教大学社会学会大会への出席もしくは発表 ▼ 翌年度の調査・研究の方針に関する指導	修士論文中間発表会での指導 ▼ 佛教大学社会学会大会での指導	研究の実施	学会発表と投稿論文の執筆
3年目	春学期	博士論文の方針に関するコメントと指導 (以下、随時、指導を行う)	個別報告とコメント	研究の実施	博士論文の執筆
	秋学期	博士論文の進捗状況に対するコメントと指導 (以降、随時、指導を受ける) ▼ 博士論文の提出 ▼ 口頭試問	個別報告とコメント	研究の実施	博士論文の執筆

- 教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー
- 学位授与基準
- 履修一般事項
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 課程の修了と学位取得
- 文学研究科
- 教育学研究科
- 社会学研究科
- 社会福祉学研究科
- 単位互換制度
- 免許状資格取得
- 通信課程聴講履修
- 規程
- 各種書

社会学研究科博士後期課程 社会学専攻 履修科目表

系列	授 業 科 目		
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分
専攻科目	社会学研究指導演習Ⅰ	1	必
	社会学研究指導演習Ⅱ	1	必
	社会学研究指導演習Ⅲ	1	必
	社会学研究指導演習Ⅳ	1	必
	社会学研究指導演習Ⅴ	1	必
	社会学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「社会学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専攻	論文提出要件
社会学	<p>①査読付きの学外の学術雑誌、学会誌もしくはこれに相当するものに掲載(予定含む)された論文1本以上、あるいはその他の雑誌(大学院紀要含む)や専門書などに掲載(予定含む)された論文2本以上を有していること。</p> <p>②全国年次大会レベル(ブロック含む)や佛教大学社会学会での口頭発表を2回以上行っていること。</p>

※提出時の注意はp.121も参照のこと。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規 程

各 種
届 出 書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

社会福祉学研究科社会福祉学専攻 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年間における博士論文執筆過程に関与し、研究者としての資質を高めるために指導を行う。また、学会報告に耐えうる能力を培うために、ディベートやプレゼンテーションの能力を養うよう指導する。

○集団指導体制

社会福祉学研究指導演習は、大学院社会福祉学専攻教員全員が科目担当となり、院生は多様な分野の専門家から様々な指導を受けることで、より多角的な視点から研究をすすめることができる。

また、研究の進捗を報告しディスカッションを行い、教員からスーパーバイズを受ける中間報告会を開催する。知的交流をとおして、研究に対する問題意識を醸成させるとともに新たな視点を獲得する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

3年間におけるリサーチワークの実施

		3年間におけるリサーチワークの実施
1年目	春学期	社会福祉学演習指導演習Ⅰにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、各自の研究計画を策定する。 大学院研究会および中間報告会への参加を通じ、自らの報告を行い、他の院生による研究成果報告を聞きディスカッションを行うことで問題意識を更に醸成させ、具体的な研究課題を策定する。 専門領域の学会に参加し、他の研究者との知的交流を通して多角的な視点を獲得し、博士論文の枠組みを設定する。
	秋学期	社会福祉学研究指導演習Ⅱにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、佛教大学大学院紀要「社会福祉学研究科篇」または学会誌に論文を投稿し、年度末までに具体的な研究成果を報告する。
2年目	春学期	社会福祉学演習指導演習Ⅲにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、各自の研究を推進する。 大学院研究会および中間報告会への参加を通じ、自らの報告を行い、他の院生による研究成果報告を聞きディスカッションを行うことで問題意識を更に醸成させ、更に研究を推進する。 専門領域の学会に参加し、報告を行い、他の研究者との知的交流を通して多角的な視点を獲得し、研究を推進する。
	秋学期	社会福祉学研究指導演習Ⅳにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、佛教大学大学院紀要「社会福祉学研究科篇」または学会誌に論文を投稿し、年度末までに具体的な研究成果を報告する。
3年目	春学期	社会福祉学演習指導演習Ⅴにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、各自の研究を推進する。 大学院研究会および中間報告会への参加を通じ、自らの報告を行い、他の院生による研究成果報告を聞きディスカッションを行うことで問題意識を更に醸成させ、学位請求論文の「予備審査」に向けた準備をする。 専門領域の学会に参加し、報告を行い、他の研究者との知的交流を通して多角的な視点を獲得し、更に各自の研究を推進する。
	秋学期	社会福祉学研究指導演習Ⅵにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、佛教大学大学院紀要「社会福祉学研究科篇」または学会誌に論文を投稿した上で、博士学位請求論文を執筆する。 ※なお、「学位請求論文予備審査」を受けるための草稿は、9月30日（9月修了予定者は、3月31日）までに提出すること。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了と学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

規程

各種書

修士課程

博士後期課程

社会福祉学研究科博士後期課程 社会福祉学専攻 履修科目表

系列	授業科目		
	授業科目名称	単位	必修・選択区分
専攻科目	社会福祉学研究指導演習Ⅰ	1	必
	社会福祉学研究指導演習Ⅱ	1	必
	社会福祉学研究指導演習Ⅲ	1	必
	社会福祉学研究指導演習Ⅳ	1	必
	社会福祉学研究指導演習Ⅴ	1	必
	社会福祉学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「社会福祉学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専攻	論文提出要件
社会福祉学	<p>原則として、次の要件を充たすこと。</p> <p>①専門学会等で学位論文に関連する研究報告をしていること。</p> <p>②原則として、査読付き専門誌等に2編以上の論文(うち1編は学外誌)が掲載されていること。</p> <p>③研究科主催の「中間報告会」で毎年発表していること。</p> <p>④研究科主催の「学位論文予備審査会」において提出予定の学位論文草稿または概要を報告し、予備審査に合格していること。</p> <p>⑤A4(40字×30行)×100枚程度以上(ワープロ横書きを原則とする)。</p>

※提出時の注意はp.121も参照のこと。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互換
制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

5. 京都・宗教系大学院連合 (K-GURS) 単位互換制度 について

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

京都・宗教系大学院連合 (K-GURS) 単位互換制度について

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

2005年7月31日、京都を中心とした宗教系大学の大学院においてそれぞれの宗教や宗派の特色ある教育プログラムを展開する中で、研究上の相互交流を図ることを目的として、「京都・宗教系大学院連合 (Kyoto Graduate Union of Religious Studies 略称 K-GURS)」が設立されました。

2006年度より加盟大学間での単位互換制度を発足し、各自の研究活動における専門領域を広めるため、また専門分野以外の拡充や補完、または専門分野との比較研究を深めることが可能となり、本学も加盟校として文学研究科が参加しています。

文学研究科在学中で、加盟大学大学院および大学の開講科目の履修を希望する場合は、以下に従って期間内に履修登録手続きをおこなってください。

参加大学院および大学

大谷大学大学院人文学研究科、高野山大学大学院文学研究科、種智院大学人文学部、同志社大学大学院神学研究科、花園大学大学院文学研究科、佛教大学大学院文学研究科、龍谷大学大学院文学研究科、龍谷大学大学院国際学研究科、龍谷大学大学院実践真宗学研究科、皇學館大学大学院文学研究科

以上の大学院および大学で構成。

開講科目

春学期オリエンテーション時に、「K-GURS GUIDE 単位互換制度のご案内(単位互換科目一覧)」を配付しますので参照してください。

また以下のURLからも参照できます。

<http://www.kgurs.jp/>

シラバス、履修要項および授業時間割表

シラバス、履修要項および授業時間割表の閲覧方法は大学により異なります。詳細は学生支援課にて確認してください。

履修登録にあたっての注意事項

①履修上限単位数

- ・年間4単位を履修上限とします。また、この単位は年間の履修登録上限単位には含めないものとします。

- 修了要件充足年度以後に単位互換制度の履修登録を行った場合は、「大学院学費等納付規程」第7条の「当該年度の科目履修がなく」に相当しないものとして、年間の学費納入が必要となります。

②単位認定

- **文学研究科修士課程在学学生のみ**、科目履修による単位認定を行います。
(文学研究科博士後期課程在学学生の履修は可としますが、単位の認定はできません。)
- 履修単位は関連科目としての認定を行います。
- 単位の認定時期は、履修年度末となります。
- 修了年次に修得した単位は修了要件には含まれません。ただし、単位認定のみ行います。

③種智院大学の科目について

- 履修登録はできますが、学部科目のため単位の認定はできません。
なお、K-GURS科目の履修上限(年間4単位)の対象には含めません。

履修登録手続き

学生支援課で「京都・宗教系大学院連合単位互換制度出願票」を受け取り、必要事項を記入のうえ、春学期オリエンテーション期間中の履修登録期限までに学生支援課へ提出してください。

受講について

授業時期については各大学大学院および大学の履修要項および授業時間割を確認のうえ、受講してください。(ただし、受講生数が多数となった場合は各大学において選考が行われる場合があります。受講が否となった場合は、学生支援課より連絡をします。)

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

6. 免許状および資格の取得について

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

免許状および資格の取得について

教育職員免許状課程（専修免許状）

専修免許状とは、修士の学位を有し、かつ一種免許状を所持している、または一種免許状を取得するのに必要な単位を修得していることを前提として授与される、より上級の免許状です。本大学院にて取得可能な専修免許状は、下表のとおりです。

種類	研究科	文学研究科			教育学研究科	社会学研究科	社会福祉学研究科
	専攻	仏教学	文学	歴史学	生涯教育	社会学	社会福祉学
中学校教諭専修	社会	○		○	○	○	○
	宗教	○					
	国語		○				
	中国語		○				
	英語		○				
	数学					○	
高等学校教諭専修	地理歴史			○	○		
	公民	○			○	○	○
	宗教	○					
	国語		○				
	中国語		○				
	英語		○				
数学					○		
小学校教諭専修					○		
幼稚園教諭専修					○		

※大学院での取得可能な一種免許状は、上記一覧表に記載の校種および教科です。各専攻の基礎となる学部・学科の『履修要項【免許・資格】』を参照してください。

■専修免許状の取得方法

専修免許状取得に必要な単位は24単位で、大学院においての修得が必要です。

専修免許状対象科目は、各専攻の履修科目表で確認してください。

なお、取得予定の専修免許状は履修登録時に希望資格登録(B-net)が必要です。最終 Semester時に登録された取得予定免許を確定情報とします。

(1) 取得希望の専修免許状にかかる一種免許状を所持している場合

上記一覧表に記載の校種および教科の一種免許状を基礎とし、各専攻の修了単位をもって、専修免許状を申請することができます。

(2) 取得希望の専修免許状にかかる一種免許状を所持していない場合

大学院在学中に一種免許状取得に必要な単位を本学の学部授業科目の聴講により修得し、かつ専修免許状取得に必要な単位を修得してください。

なお、一種免許状取得に必要な単位等については、学生支援課にて確認してください。ただし、修得単位数の増加、教育実習等の実施などから修士課程での学修(修士論文作成等)に支障をきたさないよう、履修計画をたててください。

■専修免許状の申請手続き

専修免許状の取得に必要な単位を修得もしくは修得見込みで、専修免許状の交付を希望する者は、以下のとおり申請手続きをしてください。

(1)一括申請を希望する場合(修士課程修了見込者に限ります)

- ・修了年次の履修登録時に取得希望の免許種別を登録してください。
- ・修了年次の秋学期に一括申請手続きについてB-netにてお知らせします。
- ・手続きを完了し、要件を満たした者には京都府教育委員会より専修免許状が授与されます。交付された免許状は、「学位記、卒業・修了証書授与式」(3月修了)の当日に本学より各個人に配付します。

(2)一括申請手続きを希望しない場合

大学院修了後に各個人で住民票所在の都道府県教育委員会あてに申請してください。

※春学期修了(9月修了)者は一括申請できません。個人で申請をしてください。

※博士課程在籍者で、免許申請を希望する者は個人で申請をしてください。

資格課程

- (1)大学院で取得できる各種資格は、各専攻の基礎となる学部学科で取得可能な資格であり、修了時までに必要な単位となる学部授業科目を履修し、修得すれば、その資格を取得することができます。(学部の『履修要項【免許・資格】』を参照してください。)
- (2)資格課程を受講する場合は、各専攻の基礎となる学部学科と同様の課程受講料が必要となります。
- (3)修士課程社会学専攻において「専門社会調査士」資格および「地域公共政策士」資格を取得希望する学生は、入学後すぐに免許・資格課まで相談してください。
- (4)修士課程臨床心理学専攻において、公認心理師の国家試験受験資格を取得希望する学生は、下表のすべての単位を修得する必要があります(なお、大学院のみでの履修では公認心理師の国家試験受験資格を得ることができません)。

大学院における公認心理師になるために必要な科目(公認心理師法施行規則)

法定基準		本学基準	
科目		授業科目	単位
1	保健医療分野に関する理論と支援の展開	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2
2	福祉分野に関する理論と支援の展開	障害心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	2
3	教育分野に関する理論と支援の展開	教育分野に関する理論と支援の展開	2
4	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2
5	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	人間関係学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2
6	心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理査定演習1(心理的アセスメントに関する理論と実践)	2
7	心理支援に関する理論と実践	心理支援に関する理論と実践	2
8	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	家族臨床心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2
9	心の健康教育に関する理論と実践	心の健康教育に関する理論と実践	2
10	心理実践実習	心理実践実習1	1
		心理実践実習2	4
		臨床心理実習1(心理実践実習5)	1
		臨床心理実習2(心理実践実習6)	1
		臨床心理実習3(心理実践実習3)	4
		臨床心理実習4(心理実践実習4)	4

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互
換
制
度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規
程

各
種
出
書

Ⅱ 履修要項 免許状および資格の取得について

通信教育課程との併修履修制度(免許併修)

「免許併修」とは、通学課程に在籍する大学院生(修士課程)が、通信教育課程の科目履修生となって教職科目を履修することにより、教育職員免許状を取得できる制度です。

※「免許併修」の開始学年は、修士課程入学時(第1学年次)のみです。

■対象となる研究科

全研究科修士課程

■取得できる教育職員免許状

小学校教諭一種免許状

■入学手続き

修士課程入学時に免許・資格課に申し出てください。通信教育課程「免許併修」の入学説明を受けた後、所定の期間に入学手続きを行うことが必要です。

■単位認定

当該学期末に単位認定を行います。

■注意事項

- ①通学課程を退学した場合は、「免許併修」の学籍も退学になります。
- ②教育学研究科生涯教育専攻の場合は、教育学部教育学科の科目を聴講等により履修して、小学校教諭一種免許状取得に必要な単位を修得することもできます(「免許併修」で科目履修するよりも、学部の科目を履修するほうが望ましい)。
- ③「免許併修」による教育職員免許状科目を履修完了せずに修士課程を修了した場合は、大学院修了後に通信教育課程へ入学して不足科目を履修することが可能です。
- ④教育職員免許状の一括申請手続はできません。個人で申請してください。
- ⑤「免許併修」制度の詳細は免許・資格課までお問い合わせください。
- ⑥2年間での取得が困難な場合があります。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

7. 通信教育課程 聴講履修制度

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

II 履修要項

通信教育課程聴講履修制度

通信教育課程聴講履修制度

通信教育課程聴講履修制度とは、通学課程の大学院修士課程に在籍する学生が、在籍する専攻と同一の本学大学院通信教育課程の専攻で開講する授業科目を履修することをいいます。

■聴講履修が可能な専攻

文学研究科：仏教学専攻・文学専攻(英米文学系)・歴史学専攻

社会学研究科：社会学専攻

※文学研究科文学専攻(日本文学系・中国文学系)、教育学研究科生涯教育専攻・臨床心理学専攻および社会福祉学研究科社会福祉学専攻の各修士課程は、通信教育課程聴講履修はできません。

■聴講履修できる科目

各研究科・専攻が指定した以下のスクーリング(面接授業)開講科目に限り聴講履修することができます。

文学研究科：S履修科目

社会学研究科：ST履修科目

各研究科・専攻のスクーリング開講科目の担当者、開講日程、シラバス等は当該年度の春学期オリエンテーション期間に別途配付します。学生支援課で受け取ってください。

通信教育課程聴講履修の上限単位数は、修業年限2年間で6単位(1年間の上限単位数は4単位)です。

なお、修得した単位は、各専攻の関連科目として修了要件に算入することができます。

■聴講履修の手続き

聴講履修を希望する学生は、学生支援課で「通信教育課程聴講履修制度出願票」を受け取り、必要事項を記入のうえ、当該年度春学期の履修登録期間に学生支援課まで提出してください。

■単位認定

年度末に関連科目として同一科目名称で認定します。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科課程の
修了学位
の取得文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科単
位
互換
制度免
許
状
資格
取得通信課程
聴講履修規
程各
種
届
出
書

III 規 程

- 佛教大学修学規程
- 佛教大学学位規程
- 佛教大学学位規程細則

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規 程

各種
出書

佛教大学修学規程

(趣旨)

- 第1条 佛教大学学則第3章および第4章の施行のために本規程を定める。
- 2 授業科目の履修方法等については、法令、学則またはこれらに基き特別の定めがあるもののほか、この規程の定めるところによる。

(授業科目の登録)

- 第2条 履修しようとする授業科目は、指定された期間・方法で学生支援課に届出なければならない。
- 2 病気その他止むを得ない正当な事由により、指定された期間内に授業科目の登録または卒業論文題目の届出ができない場合は、直ちに延期事由を証明する書類を添えて、延期願(任意の書式)を学生支援課に提出し、指示を受けなければならない。
- 3 授業科目登録後の追加・変更は、原則として認めない。
- 4 定員制等により予備登録を必要とする授業科目は、予備登録の手続きを経てその登録が許可された者のみ履修登録することができる。
- 5 クラス指定されている授業科目は、原則としてその指定されたクラスのみ履修登録することができる。
- 6 指定された期間内に届出(登録)を完了しない場合は、当該セメスターにおける受講資格を失う。

(授業科目の履修取消し)

- 第2条の2 学部が正当な理由があると認めた場合は、履修登録を取消することができる。
- 2 履修登録の取消しができる科目は、選択科目とし、原則として、必修科目、自由科目は履修取消しができない。
- 3 申請は指定された期間・方法で学生支援課に届け出なければならない。
- 4 申請期間以外の申請は原則認めない。但し、病気等その他止むを得ない正当な事由により申請ができなかった場合や、「実習科目」、「卒業論文」、「卒業研究」、「卒業レポート」は、申請期間外であっても履修取消しを認めることがある。
- 5 本条各項に規定する授業科目の履修取消制度は、2019年度以降第1学年次入学者より適用する。

(授業科目の履修)

- 第3条 授業科目の授業総時間数の3分の1以上欠席した場合は、その科目の単位を修得できないことがある。
- 2 教育職員免許状を取得する者は、学則所定の教育職員免許状取得に関わる科目等に加え、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目に規定する本学基準開講科目を修得しなければならない。

(試験)

- 第4条 試験の種類は、定期試験、追試験および再試験とする。
- 2 試験は、筆記試験、レポート(論文)試験、口述試験、実技試験またはその他の方法によって行ない、その方法については別に定める。
- 3 履修登録をしていない科目は、受験することができない。
- 4 学費未納者は、受験資格を失う。
- 5 追試験および再試験の実施にあたり、大学が指定した試験期日に受験しなかった場合は、事由のいかんに関わらず、当該科目の受験資格を失う。
- 6 追試験は、止むを得ない正当な事由により定期試験を受験できなかった者を対象として、学部教授会または大学院研究科教授会の議に基きこれを実施する。
- 7 前項における正当な事由とは、次の各号のいずれかに該当しなければならない。受験資格取得にかかわる課程の履修に関する事項について定める。

(1)教育実習、博物館実習、図書館実習、介護等体験、ソーシャルワーク実習、社会福祉援助技術現場実習、精神保健福祉援助実習、保育実習、心理実習、社会教育実習、臨床基礎実習、臨床評価実習、総合臨床実習、基礎看護学実習、コミュニティ実習、クリティカルケア看護学実習、慢性看護学実習、成人看護学実習、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、地域・在宅看護学実習、在宅看護学実習、公衆衛生看護学実習、統合実践看護学実習、臨床心理実習および伝宗伝戒道場(加

Ⅲ 規 程

行)のいずれかを受講中の場合(本学の当該免許・資格取得課程受講者に限る)

(2)病気、けがの場合(医師の診断書を添付)

(3)不慮の事故または災害による被害者の場合(事故証明書、被災者証明書を添付)

(4)その他正当と認められる事由がある場合(事由が証明できる書類を添付)

8 追試験受験希望者は、事由を証明する書類を添えて、指定された期間・方法で学生支援課に届け出るとともに、受験手数料を納付しなければならない。

9 春学期の追試験は8月に、秋学期の追試験は2月に実施する。

10 再試験は、最終学年における3月および9月卒業予定者で単位不足により卒業できない場合、当該年度に登録履修した授業科目のうち4科目以内を合格すれば卒業の要件を充たす場合にのみ、学部教授会または大学院研究科教授会の議に基きこれを実施する。但し、次の各号に該当する科目は、再試験の対象としない。なお、保健医療技術学部および看護学部の期末再試験については別に定める。

(1)卒業論文、卒業研究または卒業レポート(以下、「卒業論文等」という。)

(2)定期試験を受験しなかった科目

(3)出席不良により不合格となった科目

11 再試験受験希望者は、指定された期間・方法で学生支援課に届け出るとともに、所定の再試験料を納付しなければならない。

12 再試験における合格者の成績評価は、全て60点とする。

13 試験において次の場合は、不正行為とみなし学則により懲戒処分を行なう。さらに当該科目および当該学期に登録した全部もしくは一部の科目の登録を無効とする。

(1)私語や態度について注意を与えても改めないとき。

(2)許可なくして物品や教科書・ノート類を貸借したとき。

(3)許可された以外の物を参照したとき。

(4)代人受験をなし、またはなさしめたとき。

(5)その他監督者の指示に直ちに従わないとき。

(成績評価)

第5条 成績評価は点数をもって行い、次の評語で表示する。また、本学が入学前の既修得単位によって認定した授業科目については、「認定」の評語で表示する。

(2019年度以降第1学年次入学者)

(2018年度以前第1学年次入学者)

S 100点～90点

A 89点～80点

B 79点～70点

C 69点～60点

D 59点以下

X 未受験

N 評価対象外

A 100点～80点

B 79点～70点

C 69点～60点

D 59点以下

X 未受験

N 評価対象外

2 成績評価は60点(評語C)以上を合格とし、59点以下(評語D)、未受験(評語X)、評価対象外(評語N)は不合格とする。

3 学業成績を測る基準として、GPA(grade point average)(以下、「GPA」という)を使用する。GPAは、該当履修期間中の履修科目の成績評価を4点～0点のGP(grade point)に換算し、各GPに各科目の単位数を掛けて、それを履修科目の総単位数で割ったものをGPAとして、計算値は小数点第3位を四捨五入して表記する。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

点数	成績評価	GP
100～90	S	4
89～80	A	3
79～70	B	2
69～60	C	1
59～0	D	0
未受験	X	0
評価対象外	N	0
履修取消	—	ポイントつけず
認定	認定	ポイントつけず

4 GPAは学生の学習・履修指導、進級・卒業判定、退学勧告等の基準として活用する。

(成績の疑義申立)

第5条の2 成績について疑義申し立てを行なうことができる。

- 2 疑義申し立てをしようとするものについては、指定された期間・方法で学生支援課に届け出るものとする。
なお、申し出可能期間は、原則として、評価当該学期の成績発表日を含め5日以内とする。

(卒業論文等)

第6条 卒業論文等は、卒業予定セメスターにおいて履修登録しなければならない。

- 2 卒業論文題目は、指導教授の承認を得て、指定された期限までに届出なければならない。

- 3 卒業論文題目の届出を完了している者は、指定された期限までに卒業論文を学生支援課に提出しなければならない。

- 4 仏教学部仏教学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒論ゼミ1」の登録資格を失う。また、第4学年第8セメスター時に、「卒論ゼミ1」を単位修得していない場合、「卒業論文」の提出資格を失う。

- 5 文学部日本文学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。

- 6 文学部中国学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。

- 7 歴史学部歴史学科、歴史文化学科、教育学部臨床心理学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。また、第4学年第8セメスター時に、「卒業研究ゼミ1」を単位修得していない場合、「卒業研究ゼミ2」の登録資格、ならびに「卒業論文」の提出資格を失う。

- 8 社会学部現代社会学科、公共政策学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「現代社会学卒業研究ゼミ1」もしくは「公共政策学卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。

- 9 仏教学部仏教学科、文学部日本文学科、中国学科、歴史学部歴史学科、歴史文化学科の2010年度～2018年度第1学年次入学者、および教育学部臨床心理学科の2011年度～2018年度第1学年次入学者は、学則所定の卒業所要単位数のうち74単位以上を修得していない場合、「卒業論文」または「卒業研究」の提出資格ならびに「卒業研究ゼミ1」および「卒業研究ゼミ2」の登録資格を失う。

- 10 社会学部現代社会学科、公共政策学科の2013年度～2018年度第1学年次入学者は、学則所定の卒業所要単位数のうち74単位以上を修得していない場合、「現代社会学卒業研究ゼミ1」および「公共政策学卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。

- 11 学費未納者は、卒業論文等の提出資格を失う。

- 12 卒業論文または卒業研究提出資格の認定は、第7および第8セメスター在学者を対象として、各学期始めに行なう。

- 13 卒業論文等は、別に定める学科所定の様式によらなければならない。

- 14 病気その他止むを得ない正当な事由により指定された期日までに卒業論文等を提出できない者で、事由を証明する書類を添えて延期願(任意の書式)を提出した者は、最大限2週間までその提出を延期すること

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

規程

各種
届出書

Ⅲ 規 程

とができる。

(卒業延期)

第7条 佛教大学学則第30条第2項に基き、各セメスター終了時における単位の修得状況により、卒業延期(留年)が確定するものとする。

(規程改廃)

第8条 本規程の改廃は、各学部教授会ならびに大学院各研究科教授会の議を経て、大学評議会の承認を得なければならない。

附 則

第1条 本規程は、「佛教大学修学規程」(昭和45年4月1日施行)を全面改正し、新規に制定するものとする。

第2条～第16条 略

第17条 本規程は、令和2年4月1日から改正施行する。

第18条 本規程は、令和4年4月1日から改正施行する。

第19条 本規程は、令和6年4月1日から改正施行する。

第20条 本規程は、令和7年4月1日から改正施行する。

第21条 本規程は、令和8年4月1日から改正施行する。

佛教大学学位規程

第1条 この学位規程は、学位規則(昭和28年文部省令第9号)第13条の規定に基き本学において授与する学位の種類、論文審査の方法、試験および学力認定の方法、その他学位に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 本学において授与する学位は学士、修士および博士とし、その種類は次のとおりとする。

学士(文学) 学士(教育学) 学士(社会学) 学士(社会福祉学) 学士(保健学)

修士(文学) 修士(教育学) 修士(社会学) 修士(社会福祉学)

博士(文学) 博士(教育学) 博士(社会学) 博士(社会福祉学)

第3条 学士の学位は、深く専門の学芸を修め、広く教養を培い、知的道徳的および応用的能力を有する者に授与するものであり、佛教大学学則および佛教大学通信教育部規程の定めるところにより、本学学部を卒業した者に授与する。

第4条 修士の学位は、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を有する者に授与するものであり、佛教大学大学院学則および佛教大学大学院通信教育規程の定めるところにより、本学大学院修士課程を修了した者に授与する。

第5条 博士の学位は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行なうに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有する者に授与するものであり、佛教大学大学院学則および佛教大学大学院通信教育規程の定めるところにより、本学大学院博士課程を修了した者に授与する。

第6条 佛教大学大学院学則第52条の定めるところにより、博士の学位は、前条に規定する者のほか、本学に学位論文を提出してその審査および試験に合格し、且つ本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学位があると認められた者に授与することができる。

第7条 第4条および第5条により学位の授与を申請する者は、学位申請書に学位論文、学位論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文および研究業績一覧表を添えて学長に提出するものとする。

2 第6条により博士の学位論文を提出して学位の授与を申請する者は、学位申請書に学位論文、学位論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文、履歴書、住民票記載事項証明書(外国籍の場合は在留カードもしくは旅券の写し)、研究業績一覧表および審査料を添えて学長に提出するものとする。

3 第5条および第6条により提出された学位論文については、大学院研究科論文審査分科会、大学院委員会および大学院研究科教授会の議を経て、学長が受理する。

第8条 第7条第2項、第3項の規定によって、博士の学位論文を受理したときは、学位論文の審査のほか、外国語および専攻学術について、本学大学院の博士課程において所定の単位を修得した者と同等以上の学

力を有することを認めるための試験を行なうものとする。試験は筆答または口述により行ない、外国語についてはその研究に必要な外国語を課するものとする。

- 第9条 第7条第3項の規定により受理された博士の学位論文の審査は、大学院研究科教授会において行なう。
- 2 大学院研究科教授会は、学位論文の審査のため必要があるときは学位論文の提出者に対して当該論文の副本、訳本その他の提出を求めることができる。
- 第10条 第8条および第9条の規定による学力の確認および論文の審査は、大学院研究科教授会において当該専攻科目の担当教授および他の関連科目の大学院担当教授のうちから3名以上の審査員を選び審査にあたらせる。
- 第11条 博士の学位論文の審査は、当該論文を受理してから1年以内に終了するものとする。
- 第12条 大学院研究科教授会は、第4条および第5条による課程の修了の可否ならびに第6条による論文の審査の可否について議決する。但し、第5条および第6条による論文審査は、審査員における審査結果を受けて、大学院研究科論文審査分科会および大学院委員会の議を経て、大学院研究科教授会において審議決定しなければならない。
- 2 前項の議決は、出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。
- 第13条 大学院研究科教授会が第12条の議決をしたときは、文書により学長に報告しなければならない。
- 第14条 学長は第13条の報告に基いて、第4条および第5条による課程の修了の可否ならびに第6条による論文審査の可否について決定し、課程の修了または論文の合格を決定した者には、学位記を授与するものとし、不合格者にはその旨通知する。
- 第15条 本学は、博士の学位を授与したときは、授与した日から3ヶ月以内に当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。
- 第16条 本学により博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位授与に係る論文の全文を公表するものとする。但し、当該博士の学位を授与される前にすでに公表したときは、この限りでない。
- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 3 博士の学位を授与された者が行なう前2項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行なうものとする。
- 第17条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いる時は、専攻分野および当該学位を授与した本学名を学士(文学・佛教大学)、学士(教育学・佛教大学)、学士(社会学・佛教大学)、学士(社会福祉学・佛教大学)、学士(保健学・佛教大学)、修士(文学・佛教大学)、修士(教育学・佛教大学)、修士(社会学・佛教大学)、修士(社会福祉学・佛教大学)、博士(文学・佛教大学)、博士(教育学・佛教大学)、博士(社会学・佛教大学)および博士(社会福祉学・佛教大学)のように付記するものとする。
- 2 学位記の様式は、様式第1号から様式第3号までのとおりとする。
- 第18条 修士および博士の学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき、または不正の方法により修士および博士の学位の授与を受けた事実が判明したときは、大学院研究科教授会の議を経て学位の授与を取消することができる。
- 2 前項の決議については、第12条の議決の場合と同様に行なうものとする。
- 第19条 学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を具し学長に願い出なければならない。
- 2 再交付料は、3万円とする。
- 第20条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は学位規則(昭和28年文部省令第9号)第12条の定めるところにより、文部科学大臣に報告するものとする。
- 第21条 本規程の改廃は、各学部教授会または大学院各研究科教授会の議を経て、大学評議会の承認を得なければならない。

(附 則)

- 第1条 本規程は、昭和42年4月1日から施行する。
- 第2条～第19条 略
- 第20条 本規程は、平成27年4月1日から改正施行する。但し、平成27年3月31日以前に入学した者については、令和3年3月31日までは、なお従前の規程による。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

規 程

各 種
届 出 書

Ⅲ 規 程

- 様式第1号(第17条関係)(学部の課程を卒業した場合)略
 様式第2号(第17条関係)(大学院の課程を修了した場合)略
 様式第3号(第17条関係)(論文博士の場合)略

佛教大学学位規程細則

- 第1条 本細則は、佛教大学学位規程(以下「学位規程」という。)の施行について定める。
- 第2条 修士論文の提出期限は、毎年12月20日とする。但し、9月修了予定者は、7月31日とする。
 2 前項の規定にかかわらず通信教育の課程における3月修了予定者は毎年1月31日とする。
 3 博士後期課程修了にかかる博士論文の提出期限は、修了予定の1年前とする。但し、大学院研究科教授会が認めたときは、これを4ヶ月前までを限度に短縮することができる。従って、この場合の提出期限は、3月修了予定者は11月30日、9月修了予定者は5月31日とする。
- 第3条 学位規程第7条に定める学位論文は、博士の場合は5部、修士の場合は1部とする。学位論文の要旨は日本文3部、英文3部とする。但し、修士の場合は、学位論文の要旨は日本文1部とし、研究業績一覧表を省くことができる。
- 第4条 学位規程第7条の2の審査料を次のとおり定める。
 博士論文提出による者(乙種)
 (ア)本学博士後期課程において所定の単位を修得して退学した者 100,000円
 (イ)本学博士前期・修士課程修了者または本学学部卒業者 100,000円
 (ウ)本学の専任教職員 100,000円
 (エ)上記以外の者 200,000円
- 第5条 学長は学位論文を受理したとき、大学院研究科教授会にその審査を委嘱する。
- 第6条 学位規程第8条の外国語を次のとおり定める。
 英語 フランス語 ドイツ語 中国語
- 第7条 大学院研究科教授会は学位規程第8条の規定にかかわらず、学位の授与を申請する者の経歴および提出論文以外の業績を審査して、試験の全部または一部を行なう必要がないと認めるときは、その経歴および業績の審査をもって試験の全部または一部に代えることができる。
- 第8条 学位規程第7条の規定により学位の授与を申請する者が、博士後期課程を退学してから3年以内に論文を提出した時は、学力の確認を行なわないことができる。
- 第9条 大学院研究科教授会が必要と認めたときは、学位規程第10条の規定にかかわらず審査委員に大学院担当の准教授、講師を加えることができる。
- 第10条 大学院研究科教授会が必要と認めたときは、学位規程第10条の規定にかかわらず審査委員に他大学の大学院または研究所等の教員等を加えることができる。
- 第11条 学位規程第4条の学位請求論文については、指導教授を主査とし、大学院研究科教授会の指名する2名以上の大学院担当教授を副査とする。
- 第12条 学位規程第5条および第6条の学位請求論文については、大学院研究科教授会の指名する専攻科目の授業担当教授を主査とし、さらに大学院担当教授2名を副査とする。
- 第13条 大学院研究科長は、論文審査および最終試験または学力認定の結果を、博士論文審査については、論文要旨と審査要旨を添えて学長に報告しなければならない。
- 第14条 修士学位記の授与の期間は、3月または9月の2回とする。
- 第15条 博士の学位を授与された者の提出論文は、その1部を図書館に保存し、他を学位請求者に返却する。学位を授与されない者の提出論文は、その全部を論文提出者に返却する。
 2 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位授与に係る論文の全文を長期的な保存と利用に適した形式の電子データとして本学へ提出するとともに、本学の協力を得て、インターネットを利用して公表す

るものとする。

3 本学は、前項により提出された電子データを、国立国会図書館に送信する。

第16条 学位規程第16条の規定にかかわらず博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

第17条 本細則の改廃は、学位規程第21条の規定の例によることとする。

(附 則)

第1条 本細則は、昭和51年4月1日施行から施行する。

第2条～第9条 略

第10条 本細則は、平成27年4月1日から改正施行する。但し、平成27年3月31日以前に入学した者については、令和3年3月31日までは、なお従前の規程による。

【学則・規程】

- ・ 佛教大学大学院学則
- ・ 佛教大学学位規程
- ・ 佛教大学学位規程細則
- ・ 修学規程
- ・ 学籍異動に関する規程
- ・ 佛教大学大学院転籍規程
- ・ 佛教大学大学院転籍に関する内規
- ・ 大学院学費等納付規程
- ・ 佛教大学大学院奨学生奨学金給付規程
- ・ 佛教大学外国人留学生特別奨学金給付規程
- ・ 佛教大学外国人留学生新入生特別奨学金給付規程
- ・ 佛教大学私費外国人留学生奨学一時金給付規程
- ・ 佛教大学外国人留学生授業料減免規程
- ・ 佛教大学生外国留学奨学金規程
- ・ 佛教大学障がい学生奨学金給付規程
- ・ 佛教大学奨学生および各種奨学生選考・推薦規程
- ・ 被災者に対する奨学金規程
- ・ 傷害治療費・修理費給付規程
- ・ 遺失物・拾得物取扱規程
- ・ 学生の施設使用に関する規程
- ・ 佛教大学におけるハラスメントに関する指針
- ・ ハラスメント相談窓口に関する規程
- ・ 鷹陵館利用規程
- ・ 鹿溪館使用規程
- ・ 鹿溪館使用規程細則
- ・ 佛教大学学生ボランティア支援制度規程
- ・ 就職斡旋規程
- ・ 佛教大学情報セキュリティポリシー

各規程の最新の内容はホームページにて確認してください。

※トップページ>学生生活>学生生活サポート>学生生活基礎知識

大学院生の学部授業科目の 聴講に関する注意事項

(聴講手続き)

1. 大学院生が学部授業科目の聴講を希望する場合の手続きについて、次のとおり定める。
 - ①「学部授業科目の聴講願」(本学所定用紙)に必要事項を記入する。
 - ②指導教員の指導を受けて、所定用紙に承認の捺印を受ける。
 - ③所属する専攻の専攻主任に願い出て、所定用紙に承認の捺印を受ける。
 - ④「学部授業科目の聴講願」を学生支援機構長に提出し、許可を受ける。
 - ⑤手続期間は、当該学期の履修登録期間とする。

(聴講手続きの制限)

2. 一学期間に聴講できる学部授業科目の単位の上限は次のとおりとする。
 - 専攻科目の修了要件の修得単位上限とは別に、科目等履修生の規程に準じ、一学期16単位まで登録履修を認める。
 - ※集中講義は年間32単位に含めて、春学期・秋学期いずれかの登録単位に算入する。
 - ※なお、浄土宗教師資格を得るために履修する科目については、この限りではない。

(単位認定・証明書発行)

3. 許可された学部授業科目を聴講し、試験に合格した場合は所定の単位を認定する。
4. 合格した科目は、「学部聴講で履修した科目」(自由科目)として「単位修得・成績証明書」に記載する。

(その他)

5. その他必要な事項については、大学院委員会で協議し、決定する。
6. この注意事項(申し合わせ)は、平成16年4月1日から施行する。

大学院生の学部授業科目の 聴講に関する注意事項

(聴講手続き)

1. 大学院生が学部授業科目の聴講を希望する場合の手続きについて、次のとおり定める。
 - ①「学部授業科目の聴講願」(本学所定用紙)に必要事項を記入する。
 - ②指導教員の指導を受けて、所定用紙に承認の捺印を受ける。
 - ③所属する専攻の専攻主任に願い出て、所定用紙に承認の捺印を受ける。
 - ④「学部授業科目の聴講願」を学生支援機構長に提出し、許可を受ける。
 - ⑤手続期間は、当該学期の履修登録期間とする。

(聴講手続きの制限)

2. 一学期間に聴講できる学部授業科目の単位の上限は次のとおりとする。
 - 専攻科目の修了要件の修得単位上限とは別に、科目等履修生の規程に準じ、一学期16単位まで登録履修を認める。
 - ※集中講義は年間32単位に含めて、春学期・秋学期いずれかの登録単位に算入する。
 - ※なお、浄土宗教師資格を得るために履修する科目については、この限りではない。

(単位認定・証明書発行)

3. 許可された学部授業科目を聴講し、試験に合格した場合は所定の単位を認定する。
4. 合格した科目は、「学部聴講で履修した科目」(自由科目)として「単位修得・成績証明書」に記載する。

(その他)

5. その他必要な事項については、大学院委員会で協議し、決定する。
6. この注意事項(申し合わせ)は、平成16年4月1日から施行する。

年度 博士後期課程 研究経過報告書(兼報告論文提出付票)

研究科		博士後期 課程		専攻
学籍番号		氏名		
研究テーマ				
報告論文 題目				
研究経過等記入欄(報告論文提出の場合は記入不要)				

- ※記入欄が足りない場合は別紙添付も可。
- ※指導教員の確認(捺印)後、学生支援課へ提出すること。
- ※提出期限は、毎年度1月末日です(秋学期半期休学者は、9月末日)。
- ※受付の際、受領証として本紙のコピーを返却します。

指導教員	学生支援課受付

年度 博士後期課程 研究経過報告書(兼報告論文提出付票)

研究科		博士後期 課程		専攻
学籍番号		氏名		
研究テーマ				
報告論文 題目				
研究経過等記入欄(報告論文提出の場合は記入不要)				

- ※記入欄が足りない場合は別紙添付も可。
- ※指導教員の確認(捺印)後、学生支援課へ提出すること。
- ※提出期限は、毎年度1月末日です(秋学期半期休学者は、9月末日)。
- ※受付の際、受領証として本紙のコピーを返却します。

指導教員	学生支援課受付

授業欠席届（複写後切り取って利用してください）

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

研究科 専攻 年生

学籍番号 -

氏名

欠席理由

このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。
※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛教大学

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

研究科 専攻 年生

学籍番号 -

氏名

欠席理由

このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。
※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛教大学

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

研究科 専攻 年生

学籍番号 -

氏名

欠席理由

このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。
※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛教大学

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

研究科 専攻 年生

学籍番号 -

氏名

欠席理由

このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。
※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛教大学

